

令和3年度

研修集録

第 36 号

秋田市立秋田商業高等学校



101年目のアプローチ

校 長 瀧 澤 徳 彦

「歴史と伝統」—この意義を今年度ほど強く感じたことはなかったのではないだろうか。「教育は国家100年の大計である」という、その100年の偉大なる歩みの上に、刻まれる101年目は、次の100年を見据えた一歩になるという点で、非常に重要なスタート地点である。また、Withコロナの中で学校と生徒、教員と生徒の距離感についても全く異なる価値観を突きつけられている。その視点に立ち「アプローチ」という言葉に思いを馳せてみた。

アプローチとは、大義として「接近」という意味があるのは周知のとおりである。

アプローチ【approach】

- (1) 接近すること。働きかけること。「希望する会社に——する」
 - (2) 学問・研究で、対象への接近のしかた。研究法。「自然科学的——」
 - (3) 門から玄関までの間。また、その通路。
 - (4) 陸上競技・スキーで、ジャンプの助走区間。また、ボウリングで投球の助走路。
 - (5) ゴルフで、グリーン上のホールに向けて打つ打ち方。寄せ。アプローチ・ショット。
- (『広辞苑第六版』P.76より引用)

しかし、詳しく見ていくと、「秋商」の様々な教育活動に活かせる概念であることが分かる。

(例文1) 就職活動においては、早く企業にアプローチすることが肝要だ。

(例文2) 医療体制の再構築と経済活動の進展の両立には2つのアプローチ方法がある。

(例文4) ハードル間の距離が短いため、アプローチの間にどれだけ加速できるかが大切だ。

「アプローチ」の「接近」や「着手する」という意味を教育活動に当てはめてみると、生徒の気持ちに寄り添いつつ、今、一見うまくできている活動こそ、より高みを目指して進化させるための改革に取り組み始めるべき、という意義が見えてくる。また、スポーツで使われる場合には「助走区間」を意味することが分かる。そして、この「助走」という考え方は、スポーツのみならず、全ての教育活動が成果をあげるために通ずるキーワードである。

日々の研修や研究が、次の「100年の大計」への「アプローチ」であることを切望している。

目 次

巻頭言 「101年目のアプローチ」	校長 瀧澤徳彦	1
I 指導主事訪問（研究授業）		
1. 日程	教務部	3
2. 研究授業の指導案と協議会		
①家庭基礎；授業者（佐々木ひな子）・協議会記録（教務）	家庭科	4
②音 楽；授業者（鈴木昌之）・協議会記録（教務）	芸術科	18
3. 全体協議会	教務部	26
II 校内研修の記録		
①第1回 「持続可能なICT活用体制作りや活用方法について」 ICT推進委員会		29
②第2回 「情報機器等操作スキルアップ研修会」		
	総務部（情報担当） 佐々木一秀	34
III 授業公開週間について		
①実施報告	研修部	39
②授業紹介	研修部	43
IV 報告		
1. ビジネス実践		
①AKISHOP	商業科 大久保 薫	48
②キッズビジネスタウン	商業科 須田 州逸	53
③エコロジカルビジネス	英語科 笠原 光子	55
2. センター研修		
※A講座		
①「中堅教諭等資質向上研修講座」	数学科 佐々木絵里	56
※B講座		
①「高等学校家庭科授業の充実」	家庭科 佐々木ひな子	66
②「学校組織マネジメント研修講座」	商業科 小林 克	70
③「高等学校道德教育推進研修講座」	公民科 今 聡	73
※C講座		
①「授業におけるICT活用（Windowsタブレット編）」	商業科 佐藤 大	75
3. 東北六県商業教育研究大会発表	商業科 秋島亜里紗	78
	石崎絵里香	
V 令和3年度研修対象者・研究大会等参加者一覧		86
VI 編集後記	研修部	87

令和３年度 指導主事訪問

1 期日 令和３年１１月１５日（月）

2 訪問指導主事

秋田市教育委員会学校教育課主席主査指導主事（家庭）

庄内 智矢 先生

秋田市教育委員会学校教育課主査指導主事（音楽）

石田 陽子 先生

秋田県総合教育センター主任指導主事（音楽）

阿部 智博 先生

秋田県総合教育センター指導主事（家庭）

部谷 靖子 先生

3 研修テーマ

生徒の思考力を深める授業展開～生徒の「問い」を引き出し、学習意欲を喚起する～

4 日程

時 間	校時	日 程	授 業
9：10～ 9：55(45)	1		月曜 1 校時授業
10：05～10：50(45)	2	10:30頃指導主事来校 10:35～10:50学校経営の説明〈校長室〉	月曜 2 校時授業
11：00～11：50(50)	3	一般授業	月曜 6 校時授業
11：50～		指導主事〈校長室〉	※1D,3B以外の生徒 下校 ※当日の部活動なし
12：05～12：55(50)	4 特定授業	科目名：家庭基礎 内 容：高齢者の尊厳と介護についての理解 授業者：佐々木ひな子 生 徒：1年D組39名〈語学室〉	※全教員がどちらかの授業の前半か後半を見学します。
		科目名：音楽Ⅰ 内 容：ジャズ音楽の魅力を探ろう 授業者：鈴木昌之 生 徒：3年B組17名〈音楽室〉	※各教科主任は50分間参観します。 ※3B書道の授業は実施します。
12：55～13：40(45)		昼食	
13：40～14：20(40)	研究協議会	○家庭科〈語学室〉 協議題：「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた取組について	※全教員が、見学した教科の研究協議会に参加します。
		○芸術科〈会議室〉 協議題：生徒が感じ取ったものについて、自らの思いや意図を言語を通して適切に表現させるために、指導者の助力はどうあるべきか	
14：30～15：10(40)	全体会	〈会議室〉 ①総評 秋田市教育委員会学校教育課主席主査 庄内 智矢 先生 ②校長より	

家庭科（家庭基礎）学習指導案

日 時 令和3年11月15日（月）4校時
場 所 語学室
授 業 者 佐々木 ひな子
使用教科書 家庭基礎 自立・共生・創造（東京書籍）

1 単 元 名 第3章 高齢社会を生きる ② 高齢者の心身の特徴

2 目 標 高齢者の心身の特徴や生活、福祉について理解させ、高齢者を支えるための家族、地域、社会の役割について考えさせる。

3 単元と生徒

(1) 単元観

本単元の内容は現行の学習指導要領において「高齢期の特徴と生活及び高齢社会の現状と課題について理解させ、高齢者の自立生活を支えるために家族や地域及び社会の果たす役割について認識させる。」と定められている。新学習指導要領ではこの部分が「ア高齢期の心身の特徴、高齢者を取り巻く社会環境、高齢者の尊厳と自立生活の支援や介護について理解するとともに、生活支援に関する基礎的な技能を身に付けること。イ高齢者の自立生活を支えるために、家族や地域及び社会の果たす役割の重要性について考察すること。」と変更された。さらに、「内容の取り扱い」においては、「認知症」や「自助、共助及び公助の重要性」を扱うことが追加された。

このことをふまえ、本授業では認知症についての理解とその対応について取り上げることにした。

(2) 生徒観

男子16名、女子23名の計39名。活発に意見を表明できる生徒が多い。集中力が続かない生徒や集団での活動に不安を抱える生徒もいるが、寛容に受け入れ、ペアワークやグループワークではお互いの良さを認め合いながら学ぶことができる。

(3) 指導観

指導にあたっては、秋田市の学校教育の重点項目「豊かな人間性の形成」に向け、意見交換や発表を通じた「人間関係を築く力の育成」、地域の声を取り入れた学習活動を通じた「人と人との絆づくり」に取り組みたい。さらに、高等学校という学校段階に応じた「社会との関わり」「生涯を見通した生活」について考えさせ、高齢者が安心して生活することができる地域づくりに参画する意欲と生活支援に必要な基礎的な技能を身に付けさせたい。

4 指導と評価の計画（8時間）

- ① 高齢期を理解する 3時間
- ② 高齢者の心身の特徴 3時間（本時2／3時間）
- ③ これからの高齢社会 2時間

【評価規準】

	関心・意欲・態度 (A)	思考・判断・表現 (B)	技能 (C)	知識・理解 (D)
評価規準	実践的・体験的な活動を通して、高齢者に関心を持ち、学習に取り組もうとしている。	高齢者が人間としての尊厳を保ち、人生を全うするための支援について考え、まとめたり、発表したりしている。	高齢者と実際に触れ合い、話すなど高齢者と関わるができる。	高齢者の身体的特徴と心理的特徴の概要について理解している。

5 本時の計画

- (1) ねらい ①高齢期の心身の衰えや認知症の特徴について理解させる。
 ②ロールプレイングをとおして、認知症の人への適切な接し方を身に付けさせる。
- (2) 展開

	学習活動	指導上の留意点	評 価
導入 5分	・ 本時の学習内容、流れを知る。 ・ 一般的な老化による心身の衰えと、認知症による心身の症状について確認する。	・ 本時の授業内容を簡潔に説明し、授業終了までの流れを明確にさせる。 ・ ワークシートにまとめさせる。	
展開 40分	目標：認知症の特徴を理解した接し方ができるようになろう。		
	グループワーク ・ マンガ（「認知症の人が見ている世界」）を読み、認知症の人の感覚や心理について意見交換する。 ロールプレイング ・ 認知症の特徴をふまえた適切な声掛けのしかたについて話し合い、発表する。	・ 見当識障害や空間認識障害がどのような症状なのか理解させる。 ・ グループ内で役割を決めて話し合わせる。 ・ 他グループの良いところを発表させる。	・ 認知症の症状や、認知症の人の感覚や心理について理解している。 (D)[ワークシート] ・ 認知症の人に対する適切な接し方を身に付けている。 (C)[観察][ワークシート]
整理 5分	・ 本時のまとめをと自己評価を行う。 ・ 次時以降の予定を確認する。	・ 認知症の人への関わり方についてまとめさせる。	

〈ワークシート〉

高齢社会を生きる ②

家庭基礎プリント

月 日 ()

＜高齢者の心身の特徴＞ 教科書 P 6 4

○ 老化と成熟

老化とは

- _____ や _____ の低下
- _____ の減少やスポーツ記録の低下
- _____ が低下して _____ が蓄積されやすくなる
- 病気に対する抵抗力が低下して _____ にかかりやすくなり、
_____ 変化への適応力も低下していく
- _____ をする人が多くなる → 「物忘れ」＝「認知症」？

年を取ることは

「成熟」すること！

_____ が増え、
_____ を積み、
豊かな _____ を築き、
より総合的な _____
ができるようになる。

認知症とは、後天的な _____ の病気により知的機能が全般的・持続的に低下し、日常生活に支障を生ずる状態を指す。 _____ の人と接するときは、相手の _____ を尊重する。
妄想は説得せず、話を合わせたり、関心を他に向けさせたりする。失敗行動もとがめず、失敗しにくい _____ を整えるなど、行動の _____ を考えて対策を講じる。

グループ活動①

認知症の人にはどんな世界が見えているのでしょうか？そして、どんな気持ちなのでしょう？

右側のマンガを読み、空欄に入る言葉をグループで考えてみましょう。

→ 役割： 司 会 書 記 タイムキーパー その他（アイディアマン・監視役） ※○をつける

グループ活動②

あなた（Aさん）が友達（Bさん）と2人で立ち話をしていたら、高齢の女性（Cさん）がゆっくりと歩いてきました。Cさんは様子がおかしく、どうも道に迷っているようです。

あなたはCさんに、どのように声をかけますか？①の活動で確認したことをふまえて、認知症の特徴を考慮した接し方を考えてみましょう。

→ 具体的な対応のポイントは？

- ・ _____
- ・ _____
- ・ _____

学んだことや今後に生かしたいことを記入しよう

Check!

- ☐ 認知症の症状や、認知症の人の気持ちを理解できた。
- ☐ 認知症の特徴をふまえた接し方を身につけることができた。

年 組 番 氏名

ケース 1：義雄さんの場合

<見当識障害とは>

ここはどこだ？

→ () が認識できない

今は何時だ？

→ () が認識できない

目の前にいる人は誰だ？

→ () が認識できない

見当識障害の人の特徴

昔の世界に戻ることがある！
自分がはっきりわかる時代や
元気で充実していた時代に
戻ることが多い。

義雄さんの気持ち

通勤のバスに乗っていたはず
なのに、見覚えのない場所に
来てしまった。突然運転手に
話しかけられて () を
感じている。

認知症の人が見ている世界 //



家族やケアをする人が見ている世界 //



ケース 2：和子さんの場合

<空間認識障害とは>

空間認識力をつかさどる脳の頭頂葉
が萎縮して、縦・横・斜めの感覚や
() 感が把握しにくく
なる。

和子さんの気持ち

突然、「道がわからない」と
尋ねたら変な人だと思われて
() ので
聞けない。

空間認識障害の人の特徴

立ち止まるとかえって不安なので、
どんどん前へ進んでいく
ケースが多い。

認知症の人が見ている世界 //



家族やケアをする人が見ている世界 //



「マンガでわかる！認知症の人が見ている世界」(文響社)より

〈スライド〉

認知症の行方不明、最多1万7千人20年の警察庁集計

日本経済新聞 2021年6月24日

2020年中に認知症やその疑いで行方不明となり警察に届け出があったのは、前年より86人増の1万7565人だったことが24日、警察庁の集計で分かった。12年の統計開始から毎年、過去最多を更新し8年で1.83倍になった。警察庁によると、20年中に所在確認できたのは1万6887人。発見までの期間は受理当日が74.2%で、99.3%は1週間以内に見つかっていた。2年以上が5人いた。527人は不明中に事故に遭うなどして死亡していた。

1

認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)

認知症高齢者等にやさしい地域づくりを目指した施策

- ・ 認知症への理解を深めるための啓発
- ・ 適切な医療・介護の提供
- ・ 若年性認知症施策の強化
- ・ 認知症の人の介護者への支援
- ・ 高齢者にやさしい地域づくりの推進
- ・ 認知症についての研究開発推進
- ・ 認知症の人やその家族の視点の重視

2



「認知症サポーター養成講座」

11月2日(火)実施 31名参加

講師：勝平包括支援センター職員

3

本時の目標

認知症の特徴を理解した接し方ができるようになろう。



4

アンケートの結果から

お年寄りのイメージは？

1. 物知り
2. 思いやりがある
3. 多趣味



5

本時の目標：認知症の特徴を理解した接し方ができるようになろう。

グループ活動①

1. グループ内の役割を決める
2. ワークシート 右側の空欄にあてはまる言葉を考える

6

本時の目標：認知症の特徴を理解した接し方ができるようになろう。

グループ活動②

1. 認知症の特徴や、認知症の人の気持ちを考慮した声のかけ方を考える。

具体的な対応のポイントを明確に

2. 発表

7

認知症の人への具体的な対応 7つのポイント

- まずは見守る
- 余裕を持って対応する
- 声をかけるときは一人で
- 後ろから声をかけない
- 相手に目線を合わせてやさしい口調で
- 穏やかに、はっきりした口調で
- 相手の言葉に耳を傾けてゆっくり対応する



8

“認サポ”講師の先生の言葉

「特別なことをしなくても、認知症を理解し、認知症の人を温かく見守ってほしい」

「さりげなく自然に、が一番の支援」

9

「あのとき引き返してよかった」遅刻覚悟で高齢者助ける

2021年8月24日 朝日新聞

認知症の女性を交番まで送り届け、保護活動に貢献したとして、静岡市立清水第八中3年の2人に警察署から感謝状が贈られた。

「追分はどちらですか」7月16日の朝、一緒に登校中だった2人は、いつもの通学路で高齢の女性に声を掛けられた。女性は暗く不安げな表情。道案内をしたが、教えた方向とは逆方向に向かって歩き出した。

10

2人は1カ月ほど前にも同じ女性に道を聞かれていた。不安げな顔、ゆっくりした足取り、案内した道を間違える。「心配だね」。始業時間が迫っていたため一度は学校に向かったが、気になって引き返し、後を追った。
追いつくと、女性はまた別の通行人に道を聞いていた。「大丈夫ですか?」。声を掛け、最寄りの交番まで付き添った。
署によると、女性は市内に住む85歳で、認知症だという。女性は警察官に無事保護された。

11

<教材研究>

(1) 教科書内容の比較

— 現 行 —

東京書籍「家庭基礎 自立・共生・創造」

「一般には、高齢になるにつれて物忘れをする人が多くなる。また、全体から見ると少数だが、脳の疾患などで認知症にかかる人も増える」

- ・コラム
「認知症とは」

新課程の教科書では、認知症について扱う部分が大幅に増え、具体的な支援の方法や共に暮らせる地域づくりについても取り上げられている。

— 来年度以降 —

実教出版「家庭基礎 気づく力 築く未来」

「脳の老化や障がいにより、記憶力が低下したり認知症になることもある。認知症と加齢による物忘れは異なり、今朝の朝食メニューを後で思い出せるような場合は認知症ではない」

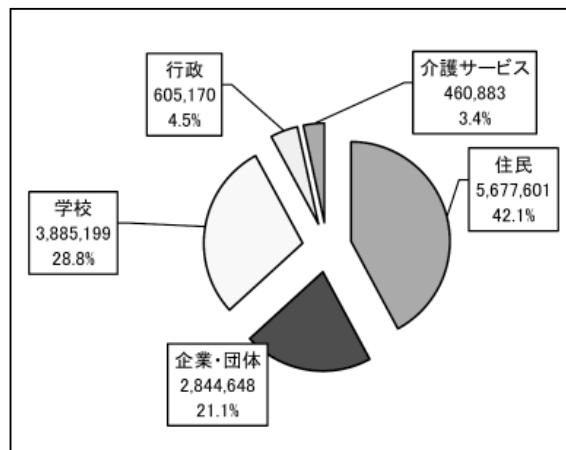
- ・スタートアクティビティ
「認知症の高齢者との接し方で気をつけることを考えて、○×をつけてみよう」
- ・資料
「認知症の種類（主なもの）」
「認知症高齢者の将来推計」
- ・ステップアップコラム
「認知症の人への介助」「オレンジリング」

(2) 「認知症サポーター養成講座」の実施

「認知症サポーター制度」は2005年（平成17年）から厚生労働省が推進する事業であり、全国で「認知症サポーター」を養成し、認知症高齢者等にやさしい地域づくりに取り組むことを目的としている。認知症サポーターは認知症に対する正しい知識と理解を持ち、地域において認知症の人やその家族に対してできる範囲で手助けし、認知症高齢者等にやさしい地域づくりに貢献することを目指す。令和3年12月31日時点で全国で約1350万人がこの養成講座を受けている。

本校においては平成27年に一度養成講座を行っており、今年度6年ぶりに開催することとなった。家庭部の活動の一環として行ったが、全校に向けて募集をしたところ31名の生徒が参加した。認知症について学ぶことが学習指導要領で明確に位置づけられたため、今後は隔年程度で開催していきたいと考えている。

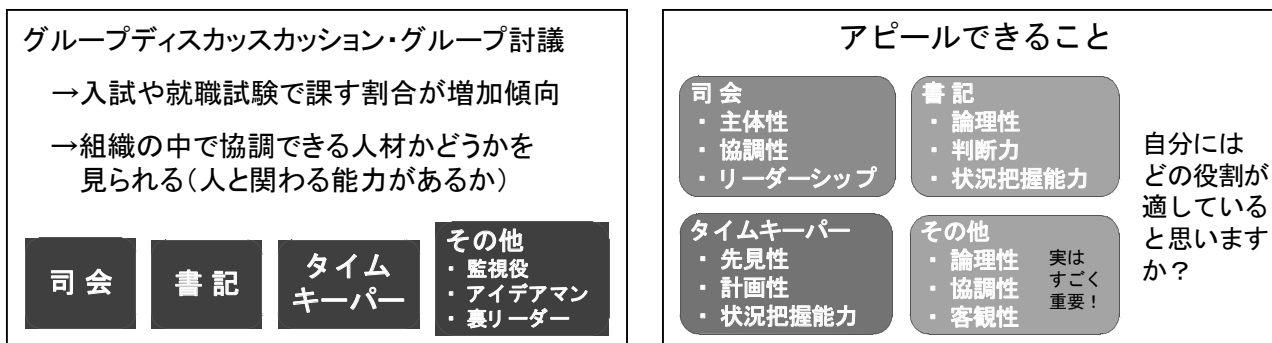
受講対象者分類別のサポーター数（平成17年～）



（「認知症サポーターキャラバン」ホームページより）

(3) グループワークの指導

今年度は例年に比べグループワークで学習させる機会が極端に少ないが、感染状況が落ち着いてきた2学期以降徐々に取り入れてきた。グループワークを行うにあたっては、事前に次のような内容を指導し、心構えをさせている。



<「振り返り」における生徒の記述>

- ・グループ活動でみんなの話を聞いて具体的な対応のポイントがいくつもあげられたので、もし認知症の人や困っている人を見かけたら声をかけ、役に立てるような人になりたいと感じました。
- ・班で話し合いを進めていく中で自分の役割をきちんと果たすことができたと思う。
- ・認知症の人が増えてきている中、自分たちができる事を改めて考えることができたと思います。
- ・漫画を通して認知症の人の気持ちがよく分かった。その時、どのように対応すべきか考えることができた。
- ・認知症の人は自分たちの思っている以上に不安を抱えていることがわかった。
- ・認知症の人は急に話しかけると恐怖を感じてしまうため、笑顔でやさしく、相手のペースに合わせて話すことが大切だと知ることができた。
- ・恐怖や不安を感じさせないよう、相手の視界に入るところから話しかけるようにしたり、優しい口調でゆっくり対応すれば良いことがわかった。
- ・認知症の方の間違った発言を否定するのではなく、温かく接することが大事だと気づいた。
- ・自分の意見を一方的に言うのではなく相手の話にしっかりと耳を傾けて聞くことが大切だと思った。
- ・認知症の人と接する時は、本人の意志をしっかりと聞き、安心してもらえるよう話したい。本人の思っていることと反対のことをすることで抵抗があると思うのでその人の考えを尊重してあげることが大切だと思った。
- ・認知症はいつなるか分からないし、誰でも起こりうる病気です。なのでもし認知症の人がいたら優しく声をかけ、笑顔で接し、安心して行動してもらえるような対応をしていきたいです。
- ・認知症の人に対応するときはすぐに行動に出るだけでなく見守ることも大切だとわかりました。
- ・困っている人がいたら認知症でも認知症じゃなくても手助けしたいなと思いました。
- ・認知症の人にも普通の人と同じような対応をしてあげたいと思った。

- ・ 認知症の人ではなかったとしても、もしかしたらただ道に迷っている人かもしれないので地域貢献や人助けだと思って積極的にお年寄りに話しかけていこうと思った。
- ・ 特別なことはしようとせず、自然な対応をすれば良いということを学んだ。認知症だからという考えをせずに、一人の人として接していきたい。
- ・ お年寄りが特に多い秋田なので、今回詳しく認知症の人への対応の仕方を学べてよかった。
- ・ 地域に認知症の人がいるのは特別なことではなくごくごく普通のことなので、認知症の方ではなくても今回学んだことを生かしお年寄りの方たちの力になっていきたい。
- ・ まだ認知症を完全に理解した訳ではないので、これからもしっかりと学んでいきたいです。



指導主事訪問 研究協議会（家庭科）

日 時：令和3年11月15日（月）13：40～14：20

場 所：秋田市立秋田商業高等学校 語学室

司 会：高田 冬深 記録：加茂谷糸恵

授業者：佐々木ひな子先生

- 1 はじめに ・指導主事紹介
・協議会の流れについて

2 授業者より～

本日はご参観ありがとうございました。まずは授業について。今年度研究授業を行うということは、新学習指導要領における変更点を意識した授業を行わなければならないと考え、指導案に記載したとおり、高齢者の単元において「内容の取り扱い」で追加された認知症について取り上げることにした。現在使っている教科書と、来年度から使う教科書も添付した。発行者が違うので単純に比較はできないかもしれないが、これだけ認知症について割くスペースが増える。授業そのものについては、正直教材研究にきちんと時間をかけた訳ではないのでまだまだだと自分でも思うが、今日ご指導いただいたことを取り入れて来年度この単元の授業を充実させていきたいと思う。

今年度授業をしていて感じることは、現1年生は中学生のころからコロナウイルスの影響でグループ活動に慣れていないということ。今日授業を行ったD組は日頃からこのような活動が得意だが、そうでないクラスもあり、こちら側の配慮がこれまで以上に必要だと感じている。来年度の1年生も状況はほぼ同じだと思うので、タブレットの活用も視野に入れつつ、グループ活動をどう行っていくか、心構えと準備をしておきたい。

また協議会については、新学習指導要領の基本理念である「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた取組についてとさせていただいた。今回授業をするに際しては、勝平地域包括支援センターに協力していただき、授業でも紹介した「認知症サポーター養成講座」を行ったり、授業内容についても相談にのっていただいたりした。社会に開かれた教育課程実現のポイントである「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という目標を学校と社会とが共有する」ということについては、この取組をとおしてある程度実践できたように思う。ただ、授業でも授業以外の場面でも社会人講師の方に来ていただいた時に感じることで、「わかりやすく教えること、生徒を動かすことについてはやっぱり我々の方がうまいな」ということがある。今後、例えば消費生活の単元ではリスク管理や資産形成について新たに取り扱うということになるが、これは家庭科の教員だけでは絶対に無理なので、プロの方をお願いする場面は間違いなく増える。プロが発信することをどのように学習指導要領と関連を図るのか、どう学習活動をととして組み立てていくのか。まずやってみないと始まらないので色々試していきたい。

そこで、各教科で「社会に開かれた教育課程」にどのように取り組んでいくか、この後お伺いできればと思っている。その中で、場合によっては教科横断的な視点での取組も検討していけるかと考えているのでよろしくお願いします。

3 参観者より

○ 佐藤大先生（商業）

生徒達が班の活動に慣れていないと言いつつも、タイムキーパー等の役割分担をしっかりとっていた。授業全体を見て、我々高校の頃と高齢者との向き合い方が違っていった。今の高校生は高齢者について高校で教えてもらっているのは幸せなことなのではないかと思った。我々も高齢者のことに関して学んでいかなければならないと思われた。

○ 佐藤和佳先生（商業）

授業の最後で認知症サポートの方からということで7つのポイントが示されていたが、小さい子供と接するポイントと似ていると感じた。生徒は高齢者、認知症の方と一緒に住んでいない家庭が多いと思う。実際に接することがない生徒達にどのように身近に意識させるかといったときに、小さい子と接するのと同じだと置き換えられるのかなと思いながら授業を参観させていただいた。自分達が高校の時とは違う捉え方、内容だったので大変興味を持って参観させていただいた。

○ 畑沢一利先生（商業）

グループワークが慣れていないと言っていたが、役割分担をしていたのが丁寧だと思った。グループワークさせる前に教科書の内容をまとめさせ、グループワークでより深めさせるという順番がよかった。

○ 伊藤史織先生（数学）

授業の最初で実情が導入にあったことによって、なぜ今、認知症を学ぶのかという学習の必要性を生徒自身が感じられるように配慮されていた。そのおかげで、生徒自身の目標への流れがスムーズにいったと思った。また、グループ活動をする他の生徒との協働の時間とワークシートにまとめる個の時間とがあり、構成が非常に工夫されていると感じた。自分の高校時代はこのような授業がなかったので、地域社会や生活への活用を意識した問題解決的な授業づくりがされていて、非常に勉強させていただいた。

○ 関屋さやか先生（英語）

最初の導入部分とまとめの部分で実情が提示されていた。そのことによって生徒がより身近なことだと感じられたと思う。生徒への指示や役割が明確であったため、スムーズにグループワークが進んだ。特にグループで考える前に映像で声かけの悪い例が提示されていたことによって、どのようなポイントに気をつければいいのかが生徒にすぐ浸透し、スムーズに色々な案が出た。

○ 笠原光子先生（英語）

家庭科で高齢者への配慮について学ぶ機会があることが驚きでした。生徒が学習しやすいような流れを作っていた。グループ活動で役割を設けていて、その中でもタイムキーパーという役割があったことがよかった。教師がタイマーを鳴らして時間切れということがあるが、あらかじめ班の中でそろそろ時間だと教えることができるということが参考になった。認知症に対して、文章だけやこちらからの一方的な指示では理解しにくい部分を双方向のマンガを使っているところが、生徒にとっては非常に分かりやすかったと思う。教材を入念に調べて選ばれたというのは素晴らしいと感じた。

○ 柴田佳代子先生（国語）

高齢化社会とは言われているが、生徒達は身近な存在やSNS上での人間関係で完結してしまっている状況であると思う。その中であえて場面を設定して、具体的に考えさせたり行動させたりということが、この後実際にそういう場面があったときに自分から積極的に行動できるようになったり、考えたりできるようになると思った。今日のやりとりが、困っている高齢者を見かけたときに声を掛けたりすることで、詐欺などを未然に防ぐようなことにも繋がるのではないかなと思った。

○ 嶋田平先生（商業）

授業の内容についてニュースやマンガを用いていて、生徒がより身近に感じて考えやすかったと思う。グループ学習の役割をスムーズに決めることができていたので、普段のグループ活動からこういうことができているのだと思う。

○ 渡辺淳一先生（商業）

商業での授業ではグループ活動がなかなかできないでいて、こういう切り口でやればいいのだと参考になった。

○ 村井良裕先生（商業）

自分のクラスの生徒達の人で、普段から和気あいあいとして雰囲気がいいところを使ってもらえたのかなと思った。生徒がいい顔をして色々な協議をしたり、人の意見を聞いたり、自分の役割を果たしてグループワークで活動しているところを見られた。認知症などは将来的に家族の問題として起こりうることで、今回勉強したことによって、より一層他人を思いやる気持ちが出てくると思う。

○ 今聡先生（地歴公民）

グループ活動が二つあって、一つ目が二つ目に生きていた。グループ活動の基本と発展というつくりになっていて大変勉強になった。日頃からひな子先生は生徒を動かすのがうまいと感心しているが、今回もひな子おばあちゃんとかやって、生徒も恥ずかしがらずにやっていて凄かった。参考にさせていただく。

○ 高橋伸友先生（保健体育）

保健の授業でも2年生の1学期のところで「中高年期と健康」というところがあるので、非常に参考にさせていただいた。グループワークの中で一人一人に役割を持たせるといったことや、ひな子先生が生徒の意見に対して非常に共感をして、意見を引き出すということも素晴らしい。

○ 司会

感想をこれまでにして、協議題についての振り返りをしたいと思う。「社会に開かれた教育課程の実現」ということで、教育課程の実現のポイントについてひな子先生から話あった。「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という目標を学校と社会とが共有する」ということに関して、各教科で社会に開かれた教育にどのように取り組んでいくのか、について話を伺いたい。この場ですぐには意見が出てこないとは思いますが、社会と学校で共有しながら授業を進めていくポイントや可能性など、実施している教科があればお話しいただきたい。社会人講師を呼ぶとか、社会に参加するとか、実現可能な何かあればお話しいただきたい。家庭科では社会人講師の方を呼んで実施したということだが、各教科でそのようなことが可能性としてあるのか、教科主任もいらっしゃるのでは何かあればお話しを伺いたい。

○ 佐々木ひな子先生（家庭）

商業科はそういった活動が多くないですか？

○ 佐藤和佳先生（商業）

商業科の方では検定が近くなると県商研主催の検定対策講習会へ参加している。あとは最終的に学年部に回っていくが税に関する講義を3年生でしてもらう。

○ 高橋伸友先生（保健体育）

保健体育科の体育の方は1年生に対して救急救命という形で6クラスを2クラスずつ3展開で秋田市消防の方に依頼をして3時間程度の実習をしている。そのほかにも、保健の分野では生きていく上で必要な事柄が多いと思うので、今後保健体育科でも相談して、実際に仕事をしている方に協力を依頼していくことを考えていかなければならないと思っている。

○ 司会

家庭科と保健体育科で高齢者に関わる単元でコラボするという可能性はあるか。

- 高橋伸友先生（保健体育）
今後検討したい。

- 佐々木一秀先生（商業）

商業科で、来年度新教育課程でビジネス基礎にビジネスプランという単元が入ってくるようになる。今年度は総合的な探究の時間の中でビジネスプランをまとめていくという授業をした。来年度以降はビジネス基礎と総合的な探究の時間とリンクした形をとっていきたいと考えている。その中で社会人の講師の方をお願いしたり、プロの方と連携するようなことはできると考えている。

- 今聡先生（地歴公民）

租税教室や主権者教育などの場面において、選挙管理委員会の方に来ていただくことがある。できれば、もっと色々な場面で取り入れられればいいと思っているが、今のところはパターン化している。

4 総括（筒井勝教頭先生）

まずはひな子先生お疲れ様でした。日本は超高齢化社会で、高齢者への対応は国をあげてどうにかしなければならない問題であると思う。ただし、家族や身近に高齢者の方がいなかったりすると、生徒は身近な問題としては考えてくれない。授業でこのように取り扱うことによって、生徒は実際に対応しなければいけないのかと考えてくれると思う。私の親が要介護の状態で、身近な問題として改めて気づかされる授業であった。普段、ケアマネージャーやデイサービスの職員など専門の方から指示を受けて対応している。どういう対応をすればいいか分からないときには専門の方からの指示を受けることが必要である。

授業ではひな子先生は机間巡視をし、生徒達をほめて、ヒントをいいタイミングで与えてくれていると感じた。それに伴って大人しいとおもわれた生徒もグループ活動で次第に活発な意見が出てくるようになった。また、最後のロールプレイングでひな子先生のおばあちゃんの演技が非常に達者で、生徒もより活発に声を出すようになり凄いと感じた。こういう場であるからこそ、知識が身につについていくのかなという感じを受けた。他の教科も様々に工夫されていると思うが、今回の授業を参考にしてもらいながら授業を進めていただきたい。認知症に関しては日本では大きな問題であるので、理解するのに貴重な時間であった。

5 指導助言

- 秋田市教育委員会学校教育課主席主査 指導主事 庄内 智矢 先生

中学校の技術家庭科が専門なので指導助言させていただく。高校の授業を始めて見させていただいた。授業のはじめにニュースの資料を見せていたことで子供達の関心をととてもよく引き出していた、という工夫がとても良かった。教材研究を良くされていて、マンガからの流れが良くできていた。子供達も楽しんで実感しながら、実体験しながら知識を学んでいたのが、確かな学力、知識の定着に繋がっていくと感じている。先生が子供達をととても大事にしているのが伝わってきた授業であった。

認知症のおばあちゃんが出てきたときに、知っているおばあちゃんでも知らないおばあちゃんでもどっちでもいいということでしたが、それをやると収拾がつかなくなるのでは、と気になった。どちらかに絞ってやって、そこから「じゃあ、知らないおばあちゃんに声を掛けるときは知っているおばあちゃんと同じでいいの？」というような子供達の中から気づきを出して、意見を戦わせるようなことが出来るのではないかと考えた。そこは先生の方でぶれなくやっていただければいい。私は小学生や中学生の授業を見る機会が多く、挙手をさせる、積極的に自分から、というような授業を見ることが多いが、高校生になるとわかってても挙手しない、言わないというのが多いのだらうと思って見ていたので、そういう点で言うと、グループで役割を決めて発表させ

る手法は良かったと思う。できれば発表して終わり、ではなく、その発表に対して他の子からの切り返しとかが高校生になってくると必要なのではないかと思った。50分という時間があつという間に過ぎていった、とても良い授業であった。私も、もしこの授業を自分がやるのであったら、ということを考えながら見させていただいた。ありがとうございました。

○ 秋田県総合教育センター指導主事（家庭） 部谷 靖子 先生

ひな子先生お疲れ様でした。ありがとうございました。参観した先生達の感想にもあったが、この時間何を学習するのか、何のために学ぶのが示されていた点が良かった。まだ家庭科は新学習指導要領で行っていないが、来年を見据えて、新学習指導要領に新たに加わった「認知症」の内容を取り込んだ授業をやって下さった。家庭科は小中高と学んでいくので、特に中学校の学び直しが多く、中学校では「高齢者の身体」、高校では「高齢者の心身」と、心が入ったという深まりがないまま、同じようなことを何度も繰り返すという実態があった中で、今回のように明確な違いを出して指導を計画して下さい。また、認知症サポートセミナーでの内容等をまとめたことを活用して下さい、専門的な内容を踏まえたまとめになっていた点も良かった。

良いところばかりを話すわけにもいけないので、あえて気になった点を話すとすれば、前時の認知症の学習を踏まえての指導だったと思うので、前時の認知症で学んだことがどんなことだったのかを子供達に一度想起させることで、今回の授業でもう少し深まりが出たのではないかと思った。プリントにまとめてはいるが前の時間で認知症について、子供達がどの程度理解したのかが分かりにくかった。グループ活動の②に入るときに①の活動で確認したことを踏まえて考えてみましょうと書かれているが、子供達のグループ活動を見て、①で確認したことをどう踏まえたのかこれでは読み取れないと感じた。あるグループに「①で確認したことをあなた達のグループはどう踏まえたの」と聞いたら、「早口だと駄目だから」と言った。高度認知障害と空間認知障害に関してはそういう所に触れていないので、子供達はイメージで話しているだけになる。もし先生が①のグループ活動を踏まえて考えさせたいのであれば、それを工夫する所があればよかったと感じた。

また、学びを繋げていくことで深まりが出てくる。「物忘れ＝認知症ですか」という問いかけで、「違う」ということで終わっていたのだが、「何で?」「どうして?」と聞くことで子供達の理解度を測ることができる。本日の目標が「認知症を理解した接し方」なので、先生は理解を求めていたと思う。その部分を読み取れるような工夫があれば良かった。

VTRで子供達が思考するときのポイントが示されていて分かりやすかったと思う。机間巡視してみましたら「あの人の場合は突然声を掛けられてびっくりした」とか「後ろから声掛けられたらびっくりした」という考えがあった。この事例はもしかすると認知症でなくても起こりうるのかなと思った。特に超高齢社会になった日本では後期高齢者であっても同様の驚きがあると思われる。認知症ということに絞るのであれば、認知症の特徴を最初の方で確認した上で「なぜ、そう考えたのか」「私はこのような認知症の症状があるのでこのようにする」という理屈を踏まえた書き方ができるような工夫があれば良かった。

全体的に見させていただき、子供達は非常に活発にグループワークを行っていた。先生がうまく子供達を回していただき、先生の最後のロールプレイングは非常に面白かった。来年度からこの内容を踏まえて行うことになるので、外部講師等をうまく活用しながら授業を進めていただきたい。ありがとうございました。



芸術科（音楽Ⅰ）学習指導案

日 時：令和3年11月15日（月）4校時

対 象：3年B組17名

指導者：鈴木 昌之

1 題 材 ジャズ音楽の魅力を探ろう

内容のまとめ：「B鑑賞」（1）鑑賞及び「共通事項」（1）

2 題材設定の理由

音楽に親しむことの中には、個々の音楽のもつよさや美しさを味わうだけでなく、スタイルの違う音楽を比較して聴くことによって、楽器の音色や音の重なりが生み出す響きや表情の違いを理解する面白さもある。

ほんやりと感じ取った何かについて、時に稚拙な言葉と文章でしか表せない生徒が少なくない本校ではあるが、対象クラスは普段から雰囲気良く、自分の思いや意図を言葉にして表現できる者が多い。

本題材では、誰もが知っているであろうピアノ独奏の作品とそのジャズ風アレンジ作品を教材とし、楽曲全体を漠然と聴くことをやめることを入り口に、音楽を形作っている要素とそれらの働きを理解させることで鑑賞の能力を伸ばし、普段あまり触れることのないジャズ音楽の魅力を探らせたいと考えた。

3 題材の目標

音楽を形作っている要素を知覚し、それぞれがどのような役割を担っているかを楽曲の構成に照らし合わせながら聴き、ジャズ音楽に親しむ態度を養う。

「音楽Ⅰ」B鑑賞（1）鑑賞

鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるように指導する。

ア 鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、次の(ア)から(ウ)までについて考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴くこと。

(ウ) 音楽表現の共通性や固有性【思考力・判断力・表現力等】

イ 次の(ア)から(ウ)までについて理解すること。

(ア) 曲想や表現上の効果と音楽の構造の関わり【知識】

「共通事項」（1）

ア 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えること

【思考力・判断力・表現力等】

イ 音楽を形づくっている要素及び音楽に関する用語や記号について、音楽における働きと関わらせて理解すること【知識】

主な音楽を形づくっている要素：音色、和音、リズム

4 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
「Jazzy radio calisthenics 1st」「ラジオ体操第一」の曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解している。	「Jazzy radio calisthenics 1st」「ラジオ体操第一」の音色、和音、リズムを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えている。	音楽のスタイルの違いに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

5 本題材で扱う教材

「Jazzy radio calisthenics 1st」 鳥居 一平 編曲

「ラジオ体操第一」 服部 正 作曲

6 指導と評価の計画

※ 【知】：知識・技能 【思】：思考・判断・表現 【態】：主体的に学習に取り組む態度

時間	◆目標 ○学習活動 ・学習内容	【知】	【思】	【態】
		評価方法		
1	◆「Jazzy radio calisthenics 1st」と「ラジオ体操第一」の音色、和音、リズムを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考える。 ◆「Jazzy radio calisthenics 1st」と「ラジオ体操第一」の比較を通して音楽表現の共通性や固有性について考え、ジャズ音楽のよさや面白さを味わって聴く。			
	○「Jazzy radio calisthenics 1st」「ラジオ体操第一」を聴き、それぞれの音楽の雰囲気の違いを理解する ・「Jazzy radio calisthenics 1st」を聴いて、元になっている曲が何なのかを考える。 ・「Jazzy radio calisthenics 1st」の元になっている曲を聴き、楽曲の大まかな構造を理解する。	ワークシートⅠ	観察 ワークシートⅡ	観察
	○「Jazzy radio calisthenics 1st」「ラジオ体操第一」の音色、和音、リズムを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考える。 ・演奏に使用されている楽器について、それぞれどのような役割を担っているのかを考える。 ・音色や和音、リズムについて聴き取った特徴をワークシートに記入する。	ワークシートⅢ		
	○「Jazzy radio calisthenics 1st」と「ラジオ体操第一」の音楽表現の共通性や固有性について考え、それぞれのよさや面白さを味わって聴く。 ・2曲を比較した文章について（ ）内にふさわしい語句は何かを考える。 ・あらためて原曲を聴き、オリジナルの魅力について考える。 ・他人の意見を聞いた上で感想をまとめる。	ワークシートⅣ	ワークシートⅤ・Ⅵ	観察

ジャズ音楽の魅力を探ろう

3 年 B 組 番 氏名

I. この曲を知っていますか？ 曲名（ ）

II. この曲を聴いて気付いたことをメモしよう。

--

III. どんな楽器が使われているのか整理し、その役割を考えてみよう。

原曲	アレンジされた曲

IV. 以下は 2 曲について比較しながらまとめたものです。（ ）を埋めてみよう。

原曲に比べアレンジされた方は使われている楽器が多いことで（ ）が豊かになっている。また、旋律に対して充てられている（ ）が複雑になっていることでジャズ特有の雰囲気醸し出している。

10 からは（ ）以外の楽器が全て旋律を演奏する（ ）となっており、この部分の最後は音を長く伸ばす（ ）となっている。

11 からは（ ）を速くすることで（ ）感が出ている。

12 からは最初の速度に戻っている。楽譜では $J = 107$ という表記がされているが、楽語を使って（ ）と表記されることもできる。

13 からは原曲では 4 小節だが、アレンジされた方は、（ ）が和音進行に基づいて即興的に演奏する（ ）が加わっているせいで 8 小節になっている。

V. 原曲（ピアノのみ）の魅力はどこにあるか、その理由を書こう。

--

VI. 他の人の意見を聞いて参考になったことも含め感想をまとめよう。

--

Jazzy Radio Calisthenic 1st

♩ = 107

GM7(9) GM7(9) Em7 G/F Dadd9/F# GM7(9) G#m7(b5) G/A Bb/C

Em7(9,11)

Em7(9) Gm7(9) C7(13) FM7(9) Eb7(9)

DM7

G#m7(b5) GM7 F#m7 Bm7 Em7(9) A7 Eb7(9)

DM7

G#m7(b5) GM7 F#m7 Bm7 Em7(9) G/A

GM7(9) Eb7(9) DM7 F#add9/A# AM7(13) F7(9) Em7(9) Eb7(9)

Dadd9 Em7 Dadd9/F# GM7(9) G/A Bbm7

Bm7Bbm7 Am7 D7(9) Gadd9 F#m7(b5) B7(b13) Em7 Ebm7 Dm7F/G

C6(9) G6(9) Am7 C/D Ab7(#11)

8

GM7(13) Dadd9/F# FM7(13) Em7 Am7 Ab7(#11) Ebm7(9) C/D G/A

9

Dadd9 G Bm7 Bb7(b13) D/A G/A

10

6 3 6 G/A ♩ = 170

D G Bm7 A Eb7(9)

♩ = 107

Eb7(9)

12

DM7 G#m7(b5) GM7 F#m7 Bm7 Em7(9) G/A

13

GM7 Dadd9/F# Em7(9) Dadd9/F# GM7

Dadd9/F# Gm7(9) FM7(9) DM7 C7(13) Eb7(9) C7(13) FM7(9) DM7

poco rit...



指導主事訪問 研究協議会（芸術科）

日 時：令和3年11月15日（月）13：40～14：20

場 所：秋田市立秋田商業高等学校 会議室

司 会：柏谷 亜紀子 記録：千葉 知美

授業者：鈴木昌之先生（音楽）

- 1 はじめに ・指導主事紹介
・協議会の流れについて

2 授業者より

研究授業で最後までまとめなければいけない点を踏まえると、内容を盛り込みすぎてしまった。ワークシートの重要部分（Ⅴ「原曲（ピアノのみ）の魅力はどこにあるか、その理由を書こう」Ⅵ「他の人の意見を聞いて参考になったことも含め感想をまとめよう」）まで進めるために、他の部分を削られたのではないかと考えるが、今はまだ答えを見いだせていない。余裕があれば、2時間の設定にすれば良かった。

題材の設定について、昨年度より歌唱や器楽ができない状況（飛沫防止の観点から）が続き、工夫が必要だった。1学期からドラムを叩かせるという取り組みをしており、授業前にドラムセットの前で、1学期の授業の振り返りをする生徒もいた。今回の授業内でドラムを叩かせる場面も入れたいと思ったが、内容の多さから諦めた。

今回の授業では「指導する事項を明確にして題材を授業構想するために、まずは教師が教材力を実際に表現したり、鑑賞したりするなどして十分な教材作り」は及第点であった。しかし、「その題材の学習において、児童生徒の思考判断の養成を行う」という点においては、時間が足りず、最後のまとめまで到達しなかったことを考えると足りなかったように思う。

言語活動に関して、音楽活動と言語活動の行き来場面を作る意味では、実際にドラムを叩かせる場面を作ってもよかった。鑑賞による音楽や言葉でコミュニケーションを図り、音楽の価値や良さを考える学習を取り入れているという点も不足していたかもしれない。

ワークシートⅡ「この曲を聴いた気付いたことをメモしよう」から生徒の意見を紹介する。

- ・アップテンポ。元はリズムが良くて、元のリズムからちょっとずらす。
- ・明るい感じがした。一方原曲は落ち着いた雰囲気。
- ・単純にかっこいい。
- ・リズムが自由な感じがする。元の楽譜を崩した感じがする。
- ・場面によって伝えたい感情が違う（あとでつつこんでみたい）
- ・なじみの曲だけど音が違うだけで違う曲に感じる。ポップ。元気。原曲は静かな感じだけど…

ほとんどの生徒が、感じ取ったことを言葉に表現できているように感じる。この感想を踏まえながら、次の授業実践に活かしていきたい。可能であればセッションもしたい。ジャズなので跳ねるという点も意識させたい。

普段、ワークシートを準備したことはないが、音楽活動と言語活動の行き来という観点から、必要な点をかいつまんで作成した。

令和4年度の教科書でも本時の題材の扱いは一緒であった。新しいカリキュラムにあわせ、評価の3観点から考えていきたい。

3 参観者より

○奥山桃子先生（国語）

日常で最も親しみのあるラジオ体操の曲を題材にしたことが素晴らしいと思う。教材（先生が

実際に弾く、楽譜）が充実しており、教材開発のすごさを感じた。今回のテーマを決めてからの教材の探し方について。どのような苦労があったか教えてほしい。

○授業者

もともとYouTubeにあがっていた動画である。9月くらいから題材を探していたときにこちらを思い出した。連絡を取り動画の作成者に許可を得た。授業のためならばと快く楽譜・各楽器の音源をいただいた。

○河上貴子先生（数学）

ジャズって何だろうと思いながら授業を参観した。生徒にとってなじみのある身近な教材だった。ジャズについてもっと知りたくなった。ワークシートに取り組ませる際も生徒の答えを引き出す声かけが良い。

4 総括（川村寿紀教頭先生）

歌も歌えない、楽器も使えないという中でどのような授業展開をするか興味があった。普段、授業参観をする際は先生方の新しい一面を見つけないかという思いがある。その意味では、鈴木先生の新しい一面が見られた。（ベースを弾くなど、やはり芸達者である。）いつもの鈴木先生と違った雰囲気が見られた。最後の部分で、生徒から面白い意見を引き出しており、日頃より生徒と授業内でコミュニケーションが十分に取れていることを感じた。

5 指導助言（秋田県総合教育センター主任指導主事 阿部 智博先生）

今回の授業題材「ジャズ音楽の魅力を探ろう」は、大きな題材であり、一歩間違えれば深みにはまってしまう内容である。その題材を誰もが知っているラジオ体操第1の曲を、ジャズバージョンと原曲の比較から、音楽を形作っていく要素の音色・和音・リズムに着目して、ジャズの特徴を捉えるという内容であった。

研修テーマ「生徒の思考力を深める授業展開～生徒の「問い」を引き出し、学習意欲を喚起する～」の視点から音楽科の特質を話したい。音楽という科目は小学校・中学校・高校と、教科の名前は変わらず、やっていることは歌唱・器楽・創作・鑑賞の4つである。そのため、発達段階に応じてらせん的に資質能力の質を高め、生涯音楽を愛好する心情を養うことを目的としている。音楽では単元ではなく題材という言葉を使うのもその点からである。らせん状に音楽の資質能力を高める時に指導の支えとなるのが、共通事項である。共通事項とは、聞き取ったことと感じ取ったこととを関わせて音楽の学びにつなげるというものである。例えば、「濁った感じがある」は感じ取ったことであり、「テンポが速い」は聞き取ったことである。知覚と感受をつなぎあわせながら、考えさせながら音楽の学びにつなげていくのが音楽の教科の特性である。

ねらいは良かった。時間内に終わらなかったのは丁寧すぎた節があったのと、待ちすぎたのではないか。生徒の意見を引き出すための仕掛けをもう少し工夫できたかもしれない。言語活動について、言葉で表せないところを表すのも音楽の良さである。学習指導要領では言葉だけでなく音を使いながらコミュニケーションするのが音楽科の特質によせた言語活動である。言語活動は、生徒との対話の中でできていたが、欲を言えば最後は音楽で活動して欲しかった。（曲を聴くなど）

指導が大変丁寧だった。教材の取り上げ方は、鈴木先生らしい。ただジャズについて生活と音楽のつながりをいれてほしかった。ドラムセットをやらなくても、オフビートを手で叩くなど、体感できる機会を取り入れたらよかったのではないか。ドラムをすることで難儀する生徒もいるかもしれない。ところどころで作品の権利の話ができていたのもさすがである。

ご自身でベースを弾いていたのも良い。うちの先生はこんなこともできると生徒に思わせるのもよいことである。生徒の心を惹きつける。

言語活動の充実を図るという点では、小中学校で何を学んできたかを知ることが大切である。学びの履歴を高校教員が理解し、学びの履歴を踏まえて、授業実践を行うべきである。明確なテーマ

の協議・共有・比較検討を通して、生徒の自己有用感を高める活動が9年間でされている。今まで以上に中学校の先生と連絡を密にしながら、生徒にとって有益な授業をすることが大切である。来年度から新しい指導要領が始まるため、新しい情報に対してレーダーを働かせて欲しい。



指導主事訪問 全体会

日 時：令和3年11月15日（月）14：30～15：10

場 所：秋田市立秋田商業高等学校 会議室

司 会：筒井 勝 教頭 記録：船木 祐輔、村井 良裕

1 指導主事紹介（瀧澤校長）

2 総評

○秋田市教育委員会学校教育課主席主査指導主事 庄内智矢先生

①本市学校教育の基本方針と本校の学校経営

本市教育委員会においては今年度も本市教育の目指す姿を「郷土あきたの明日を拓く「自律と共生」の人づくりとし、学校教育としては「志を持ち『徳・知・体』の調和がとれた子どもをはぐくむ学校教育の充実」を目標と定め、時代を担う人間性豊かな子どもを育ていきたいと考えている。また、目標の具現化にあたっては、豊かな人間性の育成など、6つの重点項目と危機管理上の留意点を設定している。

本日2校時目には学校経営の方針等についてご説明をいただいた。瀧澤校長先生からは生徒も入学したい、保護者も入学させたいと思う学校、魅力的な学校づくりが大きな課題であると伺った。また、教育活動の要は部活動であり、人間的な成長を促していることは確かであるが、一に授業、二に生活習慣、次に部活動とし、生徒のための学校そして生徒を中心に考え、進路志望の実現に結びつけることを重んじることが学校の信頼につながることを再確認したい旨を伺った。生徒の進路の実現は学校の使命であり、その実現に向けて企業に足を運び、信頼関係を築きたいとおっしゃっていた。

学校経営の説明を通して、校長先生の秋商への熱い思いを感じた。是非先生方のお力添えで生徒たちの確かな成長と進路の実現につなげてほしい。

②本校の教育活動について

建学の精神、校訓である「感謝・勤勉・鍛錬」の意義を具現化させながら、豊かな人間性・創造性・健やかな身体を養い、高い志を育むことを教育目標に全人的な教育を展開していると伺っている。本校独自のキャリア教育であるAKI SHOP、小学校と高等学校の連携した取り組みであるキッズビジネスタウン、全国レベルの部活動など、価値のある教育活動が展開されている。しかし、現在の状況においては、これまでのように実施することが難しい活動も多くあると推察するが、小中学校や地域とのつながりを大切にした秋商ならではの価値のある活動がこれからも充実・発展するよう願っている。こうした生徒が主役・主人公である主体性を発揮できる活動は、先生方がそのような環境を作り、生き生きと学ぶことができるよう配慮されているからだと確信している。本市学校教育の重点の中に示されている「人と人との絆づくり」の項目では、絆を深めるための取り組みのポイントとして子どもの主体性を活かすことが挙げられてる。生徒たちが様々な人との触れ合いを通して、信頼関係を築き、絆の素晴らしさを実感することができるよう、絆を深めるための取り組みの一層の充実を図ってほしい。

主体的と言え、先生方は「主体的・対話的で深い学び」のフレーズを思い浮かべるかと思うが、新学習指導要領について少しお話しする。小学校では昨年、中学校では今年から全面実施となり、高等学校では来年度の入学生から年次進行と高校教育課の方から伺っている。また、県立の高等学校では新しい評価の観点に基づいた評価方法をどのようにしていくのか、各学校で案じているところと伺っている。本校においても新学習指導要領の円滑な実施に向けて準備を進めていただくようお願いする。新学習指導要領では、学習の基盤となる資質能力として情報活用能力の育成が示されている。小学校では昨年からプログラミング教育がスタート

し、本市ではビジュアル言語のスクラッチを使って、教科の狙いに沿った学習などが行われている。小学2年生の音楽科ではタブレットの画面上でリズムの示されたカードを並び替え、自分の思い描いた演奏になるまで試行錯誤するものから、小学5・6年生算数科では正多角形の図形をプログラミングして描いたり、拡大や縮小の学習を行ったりしている。また、発表の場面でパワーポイントをあえて使用せず、スクラッチで発表資料を作成し、様々な活動のまとめの場面で活用している。中学校では技術家庭科の技術の分野において、簡易ロボットなどの教材を用いた計測制御の学習やチャットのようなネットワークを用いた双方向性のあるコンテンツ作りなど、スクラッチベースのものでプログラミングをしている。今年度から小中学校では一人一台タブレット端末が整備させ、授業において使用されている。各学校において、効果的な工夫について実践を積み重ねているところである。小中学校での訪問ではカメラ機能の活用やネット検索の他に、マイクロソフトチームズを使ったオンライン配信や共同学習、同じくホームズを使ったアンケート集計や振り返りの集計などの活用を体験することができた。本校も今年度中にタブレット端末が整備され、来年度から使用することが可能であると伺っている。このタブレット端末は新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業作りの一助になるものだと思う。生徒たちの学びを豊かにするツールの一つとして効果的に活用してほしい。

それではここで本日参観させていただいた一般授業について触れさせていただく。わずかな時間だったので当たらない部分もあると思うが、どうかご了承ください。私が特に感じたことは、本時の目標や授業の流れを掲げ、見通しを持たせた授業を共通実践していることである。わかる授業を目指し、キーワードを大きく掲示したり、机間指導で個別対応や習熟度別の授業を行ったり、イメージを持たせてからの授業展開など、先生方が様々な工夫をしていた。スクリーンや黒板を効果的に用いて生徒が自分のペースでじっくり取り組めるよう、また、生徒の状況を先生が把握し、補足説明や反復練習を行うなど、基礎基本をしっかりと身につけさせようとしていた場面が見られ、素晴らしいと感じた。

ただ、スクリーンと黒板（ホワイトボード・テレビ）の場合もだが、ICT機器で映されたものはその時その時であって、あとには残らない。ホワイトボードや黒板にはその時間しっかり提示できるものを残すなど、ICT機器の特性を生かして効果的に活用してほしいと思う。2年前にも学校訪問しており、その時にもICTについて話をしたが、来年からは一人一台タブレットになるので、是非効果的な活用などは、先生方同士で情報交換を行って、使えるところはどんどん自分の授業に吸収して活用してほしいと思う。熱心に学びに取り組む生徒の様子と、一人一人を認め良さを伸ばそうとする先生方の取り組みを拝見することができた。

③秋田市教育委員会からのお願い

1. 新型コロナウイルス感染症対策

各校ではこれまでも感染予防に努めていただいているところである。全国的に感染状況は一時期に比べて減少しているが、本市においても断続的に感染者が報告されており、予断を許さない状況が続いている。日々変化する状況に対応しながら、感染対策を講じた上で毎日の教育活動を実施していくことは容易ではないが、生徒の安全・安心と可能な範囲での教育活動の実施とのバランスを取った対応について、引き続きご指導を改めてお願いする。

また、長く続くコロナ禍において、生徒の心の面への影響が心配される。生徒一人一人の心に寄り添った支援と、新型コロナウイルス感染症に関連した差別や偏見は断じて許されないことについての指導をお願いする。

2. 交通事故の防止について

本市では、今年度、主に小中学生になるが、例年と比べても多くの交通事故が発生している。事故については、自転車運転中の不注意や飛び出しによるものが多く、一歩間違えば命を落としかねない重大なケースも見られ、大変憂慮している。11月に入り、日が暮れるのも早まっていることから、特に、下校時には注意することが必要であり、改めて自校の交通事情や危険箇所などを踏まえ、道路を横断する際の一時停止や左右確認などに加え、まもなく冬期間を迎えることから、自転車使用について具体的継続的な指導をお願いする。

御校は昨年度、創立100周年を迎え、今年度は創立101年目のスタートとなる大事な年となった。御校を訪問するにあたり、ホームページを拝見したが、校長先生の挨拶文の中からこれまでに21,000人を超える卒業生がいることを知った。私の身近な同僚や私の妹も御校の卒業生である。日々の学習や部活動、行事などで、前向きに目標を持って、今自分たちにできることを工夫しながら取り組む、その姿勢は長きにわたり受け継がれていると感じた。AKISHOPを始めとする様々な取り組みや2大会ぶり46回目の全国大会に出場を決めたサッカー部、インターハイ男子団体準優勝を果たした剣道部の活躍は多くの人に秋商の魅力を届けていると思う。こうした生徒の後ろには、先生方の日々の暖かい声かけやきめ細かなサポートがあり、それが生徒たちにとっての原動力となっていることから、今後も生徒の前向きな変化や頑張りを認め、成長を励ましていただければと思う。今年も残り2ヶ月を切り、先生方に置かれましてはご多忙の日々の中、健康には十分留意され、学校が生徒たちにとって生き生きと活躍できる場所であり、また、安心して学校生活が送られる場所であるためのお力添えをいただきたい。本日は誠にありがとうございました。

○秋田県総合教育センター主任指導主事 阿部智博先生

指導と評価の一体化について、文部科学省のホームページよりダウンロードできるようになっているが、冊子になったものでも是非御確認いただきたい。評価は生徒が自らの学習を振り返って、次の学習に向うことができようにすることはもちろん、指導者側も自らの指導を改善することにつながるものでもあるので、理解して取り組んでもらいたい。

3 学校長より

本日は御指導ありがとうございました。本日は授業研修ということだったが、私自身もこれまで納得できる授業はなかなかできることはなかった。教室の後ろにビデオカメラを用意したこともあったが、自分自身の授業を振り返ってみても、恥ずかしい思いを何度もしている。50分授業のうち、47分間説明ばかりであった時もあり、見れば見るほど、他者から指摘されるよりも、自分の至らなさを感じた。

授業というものは「これで良し」というものではなく、常に改善が必要であり、そのためにこのような研修があるように思う。我々教員は生徒の学びの実現に向けて、最大限の努力をする責任がある。教師の最も重要な仕事の一つが授業であることを、この機会に、もう一度全職員で確認をし、今後の授業改善に努めたい。

指導主事の先生方からの助言は、私たちの気づきとなり、次の課題として学校全体で組織的に取り組むべきものであり、助言を元に、生徒たちにとってよりよい授業の実現となり、生徒指導にもつながるよう努力したい。これを御縁に今後も指導助言をお願いしたい。

教育委員会の仕事は多忙であり独特の緊張感があるため、健康には十分留意され御活躍いただきたい。本日はありがとうございました。



「持続可能なICT活用」

講師：秋田県立能代松陽高等学校進路指導主事

ICT活用推進リーダー 吉田英亮氏

1 実施日時・場所

令和3年7月19日（月）15：30～16：50（場所：会議室）

2 講演会（要旨）

年々、不登校傾向の生徒が増えており、担任、及び、学年は対応に苦慮している現状がある。

不登校生徒を支援する際の具体的手立てについて学ぶとともに、不登校を生まない学級づくりに
ついて、あるいは、学校全体として取り組むべきことについて、共通理解を図る。

秋田県ICT活用研究会

持続可能なICT活用

体制づくりや活用方法について

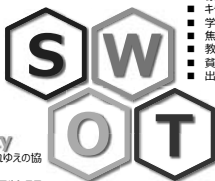
秋田県立能代松陽高等学校
進路指導主事
ICT活用推進リーダー
吉田英亮

- 学校の現状・課題分析と導入プロセス
- 体制づくりと進め方（能代・能代松陽）
- ICT活用例
- 今後のICT活用に向けて

能代松陽高校のSWOT分析

Strength

- 素直で真面目な生徒。問題行動もあまりない
- 盛んな部活動と実績。熱意をもって取り組む生徒たち
- 潜在能力の高い生徒も少なくない
- 自信を持って地域に送り出せる生徒たち
- 3学科めえの多様で多彩な教員陣
- 潜在能力の高い若手・中堅教員



Opportunity

- 地域からの期待、それゆえの協力体制の築きやすさ
- インターンシップやデュアルシステムから築きあげた外部との関係
- 「教育改革」の追い風
- 「求められる生徒像」の変化、変化のチャンス

Weakness

- 家庭学習時間の不足、基礎学力の低下と深刻な学力格差
- 「なんとなく」進路を決定する生徒たち
- 将来のビジョンを見据えた適切な進路目標の設定や実現のための行動力のなさ
- キャリア観を育成する体制不備
- 学年間・コース間・教科間の指導の差異
- 焦点化しづらい進路・教科指導
- 教員の多忙化
- 貧弱なICT環境
- 出遅れた教育改革への対応

Threat

- 少子化に伴う入試得点の低下
- コロナによる教育機会の喪失
- 地域の経済環境の悪化
- 今後予想される高卒採用の減少と大学受験の難化
- 交通の便が悪く、近隣に大学等教育機関がない
- 社会の変化に伴い生徒に要求される資質・能力の高度化
- 新設校めえの不十分なサポート

秋田県立能代松陽高等学校

能代松陽高校の改革の方向性

- 教育改革に対応した指導・教育体制の再構築
…「育成を目指す生徒像、資質能力」の確認や「キャリア教育」「探究活動」の充実。
- 開校10年を前にスクールアイデンティティの再確認
…3学科制や進路多様校であることを踏まえた、教員間の目標合わせ。
- 限られた教育リソースの有効活用と成果の最大化
…負担軽減を図る。ペーパーレスや情報共有の推進を加速する。生徒と向き合う時間の創出。
- 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業及び評価の実現
…授業改善によるアクティブ・アダプティブな学びの推進。授業の再構築。設備の充実。
- 生徒の自己管理能力向上と、教員による生活学習状況把握
…「主体的」な生徒の育成。それに向けた親身かつ適切な指導（面談等）の充実。
- 「全体・グループ・個人」など学びや指導の多様化への対応
…「進路多様校」だからこそきめ細かい指導。「大学入試」「資格」等の指導充実。
- 時間や空間に依存しない学びやコミュニケーションの実現
…様々なプラットフォームを活用した、多様なコミュニケーションの実現。
- 生徒の成長・学びを促す教育活動とその軌跡の蓄積
…「ポートフォリオ」指導の充実と効果的運用。「キャリア教育」と「進路指導」のリンク。

秋田県立能代松陽高等学校

課題解決に向けた提案

- 教員の負担軽減、時間の創出
- 時間や空間に縛られないコミュニケーションの実現
- 多様な学びとそれを支える授業・指導の充実
- 「キャリア教育」「進路指導」「探究活動」の充実

「振り返り」ながら成長する
「自主」的な能代松陽生の育成

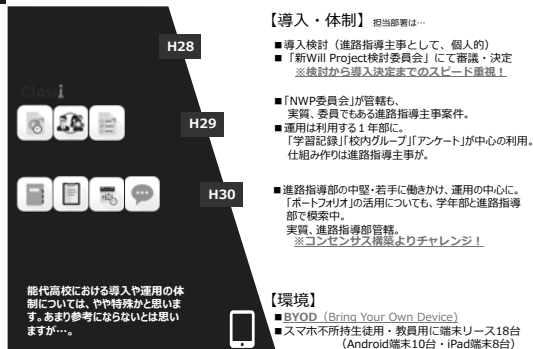


多種多様な生徒に寄り添う
教員のサポート

ICTの導入と活用

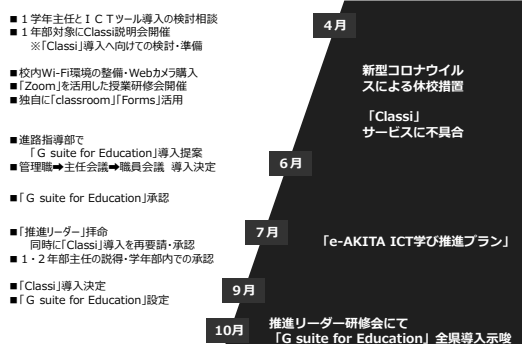
秋田県立能代松陽高等学校

ICT (Classi) 導入のプロセス (能代高校のケース)



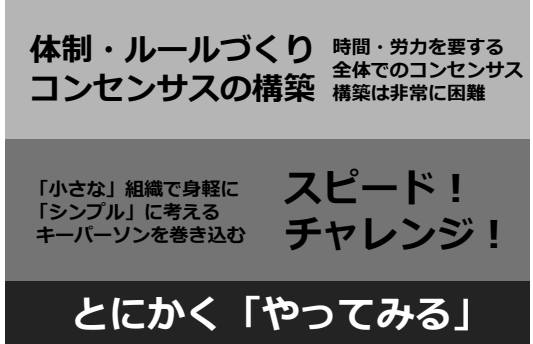
秋田県立能代松陽高等学校

ICT (Classi) 導入のプロセス (能代松陽高校のケース)



秋田県立能代松陽高等学校

導入時に意識したこと



秋田県立能代松陽高等学校

能代では「とにかくやってみた」



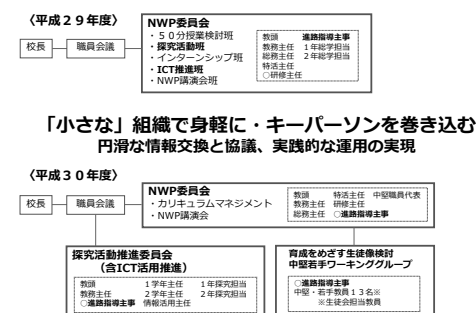
秋田県立能代松陽高等学校

能代松陽でも「とにかくやってみた」



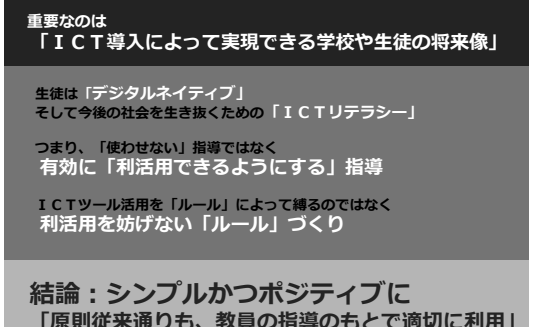
秋田県立能代松陽高等学校

能代高校での「体制」づくり



秋田県立能代松陽高等学校

能代高校・能代松陽高校での「ルール」づくり



秋田県立能代松陽高等学校

「導入・運用」での最重要ポイント

細部にこだわりすぎず、最終的な「目的・目標」を共有する
具体的活用を提示することでコンセンサスは得やすくなる

能代高校では
「探究活動の実践」→「キャリア教育の充実」→「新入試対応」



秋田県立能代松陽高等学校

ICT活用例（ICTツールのハイブリッド活用）

能代松陽高校では今年度からの本格的ICT活用に向けて
「Google Workspace for Education」と「Classi」のいいとこどり

Google for Education Classi

秋田県立能代松陽高等学校

ICT活用例（機能紹介①・共通）



秋田県立能代松陽高等学校

ICT活用例（機能紹介②・Google）



秋田県立能代松陽高等学校

ICT活用例（機能紹介③・Classi）



秋田県立能代松陽高等学校

ICT活用例（コミュニケーション：教員間・対保護者）

【Classroom・校内グループ】
■職員掲示板としての活用
■保護者への情報提供のためのプラットフォーム



秋田県立能代松陽高等学校

ICT活用例（コミュニケーション：対生徒）

【Classroom・校内グループ】
■教科連絡・課題等の指示
■課題の配付・回収



秋田県立能代松陽高等学校

ICT活用例（授業活用・課題配信：対生徒）

【Forms・アンケート・Webテスト・ポートフォリオ】
■課題の配信・回収
■テストの実施
■添削指導への活用



秋田県立能代松陽高等学校

ICT活用例（授業活用：対生徒）

【Jamboard】

- グループワーク
- 主体的な学び



秋田県立能代松隈高等学校

ICT活用例（情報公開・共有）

【ドライブ・コンテンツボックス】

- コンテンツの共有
- デジタルで効率化



秋田県立能代松隈高等学校

ICT活用例（スケジュール管理・共有）

【カレンダー】

- 学校行事の共有
- 生徒の自己管理能力向上



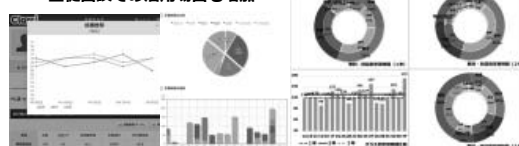
秋田県立能代松隈高等学校

ICT活用例（Classi個別機能）

能代高校での具体例①

【学習記録・生徒カルテ】

- 前年度は年7回「学習時間調査」期間を設定（全員入力）
- それ以外の期間は任意入力も、今年度の1・2年生入力率は8～9割で推移
- 教科バランスを意識した可視化
- 生徒面談での活用場面も増加



秋田県立能代松隈高等学校

ICT活用例（Classi個別機能）

能代高校での具体例②

【探究活動・校内グループ】

- 活動履歴の蓄積の場としての活用
 - ・活動履歴の可視化・データ化
 - ・ポートフォリオ的活用
- 活動の場としての活用
- 外部との連絡ツールとしての活用
 - ・活動のプラットフォーム
 - ・自由度の高いコミュニケーション



秋田県立能代松隈高等学校

ICT活用例（Classi個別機能）

能代高校での具体例③

【探究活動・アンケート】

- 振り返りアンケートでの実施によるポートフォリオとしての蓄積
 - ・活動履歴の可視化
 - ・データ化
- 即時評価による振り返りの質向上
- ※相互評価の結果を直後に全体で共有できるため、質の高い「振り返り」が可能になり、それを全体で共有することで更なる深化が望める。



秋田県立能代松隈高等学校

ICT活用例（Classi個別機能）

能代高校での具体例④

【ポートフォリオ】

- 行事ごとの入力「紙」から「デジタル」へ
- 「進路希望調査」等各種アンケートもデータとして蓄積
 - 活動履歴の可視化・データ化
- 全体指導・任意入力



秋田県立能代松隈高等学校

ICT活用例（Classi発展）

能代高校での具体例⑤

「静岡県立三島北高等学校との合同発表会」

- 平成31年3月15日実施
- 両校の代表グループによる発表（Zoom使用）
- Classi「校内グループ」上で事前に交流
- 事後、「アンケート」にて振り返り



秋田県立能代松隈高等学校

今後のICT活用に向けて

Google for Education

「高度」かつ「多様な」
個別サービスの集合体

Classi

「日本の教育現場」を
意識した実用度の高い
パッケージサービス

どちらにも「強み」「可能性」あり
様々なサービスが提供されていくなかで、
目的・用途に応じた活用が望ましい

秋田県立能代松隈高等学校

今後のICT活用に向けて

■「まずはやってみる」

とにかく、まずはやってみる！やってみないと何も変わらない、始まらない。実際に4年間進めてきて思うことは、地方公立校だからこそICT活用の必要性・可能性。

■「教員の意識を変える」

新しい取り組みではなく、これまで積み重ねてきた指導の手法をデジタルに転換して効率よく。それに、ICT化からは逃げられない！

■「持続可能な取り組みに」

「焦らずゆっくり確実に」教員間のマインドの統一とスキルの共有・継承ほど難しいことはない。一斉には無理でも時間をかけて。「欲張りすぎない」こと。様々な機能・活用法があるが、それもこれもと欲張りすぎず、学校の実情や目指すべき方向をふまえた活用を。

秋田県立能代松隈高等学校

生徒の気付きや学びのフィールドを広げ
成長のための機会や経験を増やすための

ICT活用を

ご静聴ありがとうございました

令和3年度情報機器等操作スキルアップ研修会 ～本校でのZOOMの使い方～

講師：総務部（情報担当） 教諭 佐々木 一 秀

1. 実施日時・場所

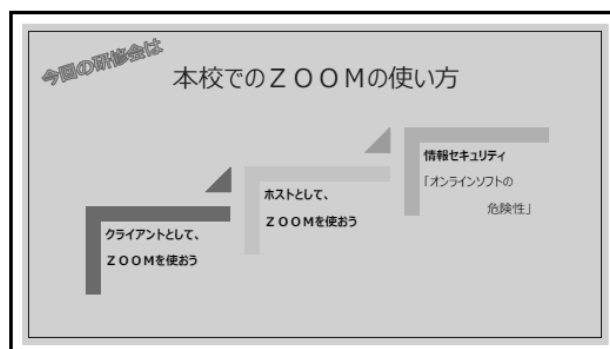
令和3年10月25日（月）15:50～16:30（場所：205教室）

2. 講義・実習（要旨）

本校職員が、各種研修会や生徒の進路活動において、本校におけるPC等の情報機器を活用できるようにする。

3. 内容・質疑応答

205教室にあるPC設備を利用し、ZOOMによる1対1のオンライン通信や1対多の講演会を開催するための基礎的・基本的な知識と技術を身につける内容であった。また、オンラインによる情報漏洩の危険性をロールプレイで体験させるなど、情報セキュリティにおける内容も含まれていた。研修会における研修資料および参加者からの質問や感想等は、以下のとおりである。



クライアント（顧客・取引先）としてZOOMを使う

② Zoomを使ってみましょう



秋田市立 秋田商業高等
オーディオに接続 デバイスの停止

クライアント（顧客・取引先）としてZOOMを使う

③ 応用してみましょう...（画面共有）



画面共有をクリックすると
全員に自分の画面や
指定したファイルを
共有することができます

ホスト（主催者）としてZOOMを使う

① Zoomがインストールされていない場合は、
Zoomをインストールしましょう

② アカウントを作成しましょう（ネットで公式サイトにアクセスします）



ホスト（主催者）としてZOOMを使う



③ 指示に従って、アカウントを作成します

ホスト（主催者）としてZOOMを使う



③ 必要事項を入力し、
サインインしましょう

④ 新規ミーティングを
クリックすると...

ホスト（主催者）としてZOOMを使う

⑤ 参加者をクリックすると
参加者の一覧が表示されます

⑦ メール等に貼り付けて
クライアントに送ってください。

⑥ 新規に招待したい場合は...
右下の招待をクリック

その後、「招待のコピー」
をクリック



ホスト（主催者）としてZOOMを使う



⑧ ホストの場合、
ミーティングを
スケジュールリングして
使用しましょう

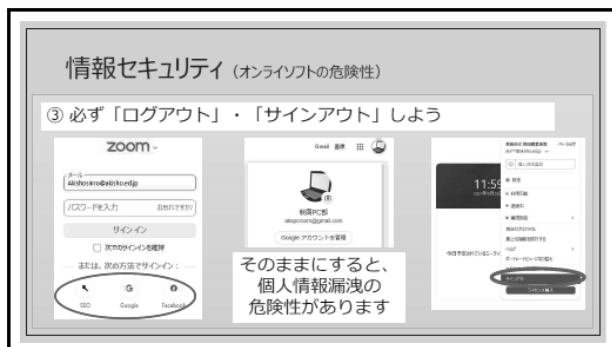
情報セキュリティ（オンラインソフトの危険性）

① 操作した人に責任が発生する
危険性を感じたら、「NO」を選択

② ユーザーIDとパスワードで全て管理されている
ZOOMにも個人認証IDがある

マイ個人ミーティングID (PMI) は、
原則、教えない

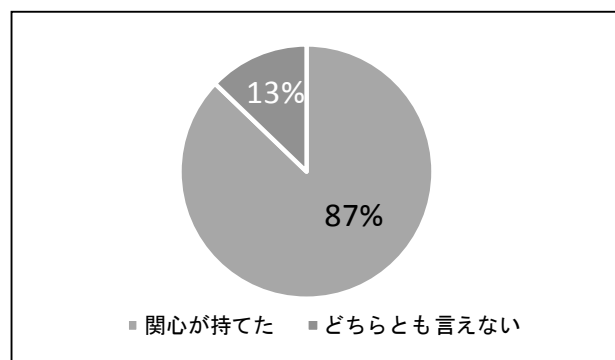




<事後アンケート集計結果>

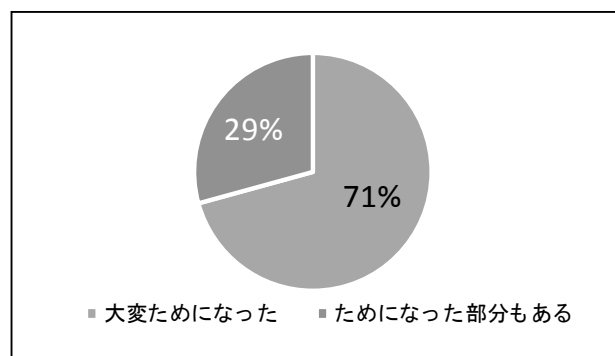
1. 「ZOOM」の使い方についてというテーマ設定について

関心をもてた	34人
どちらとも言えない	5人
関心が持てなかった	0人



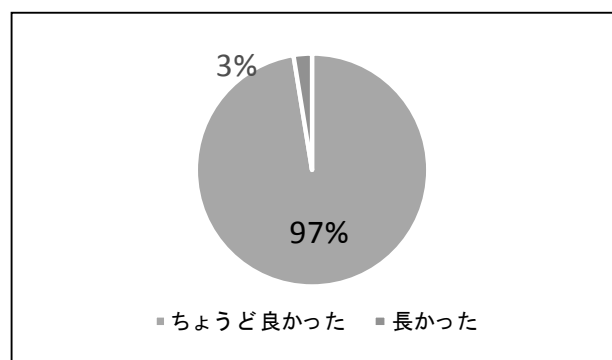
2. 研修内容について

大変ためになった	29人
ためになった部分もある	12人
ためにならなかった	0人



3. 研修時間について

ちょうど良かった	38人
短かった	0人
長かった	1人

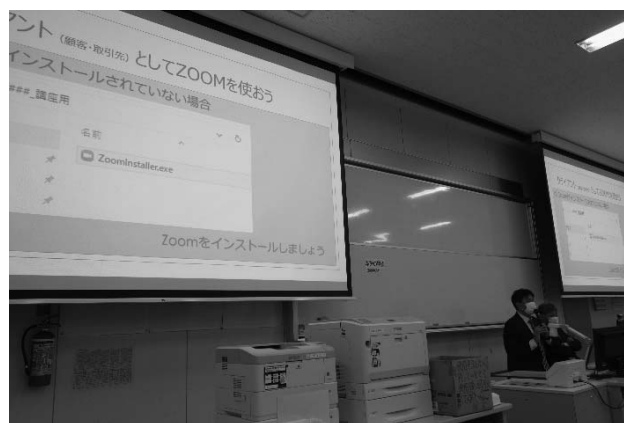


4. 質問等

- ・パスワード等知られたら大変なことになるとのことでしたが、具体的にどのような危険があるのかを知りたいです。
- ・オンラインソフトとは具体的になんというソフトですか？
- ・基本的に学校ではオンライン部屋のみでの使用という解釈でOKですか？

5. 研修内容について

- ・ZOOMは使ったことはあったが、細かなところまで教えて頂いてためになった。
- ・今までZOOMを活用したことがなく、いざ使う時がきたことを考えると不安な状態でした。今回の講座でわかりやすく教えていただいたおかげで基本的な使い方をマスターすることができました。背景を変えることができたり、スタンプを表示させることができたりと、おもしろい機能も知ることができて良かったです。ありがとうございました。
- ・ある程度の人数が同時にできるようなので、授業でも活用できるのではないかと思います。
- ・大変参考になった、ホストとしての使用も勉強したい。
- ・特定の先生に負担がかかってしまうことがないように、というのが印象的でした。自分はとてもコンピュータ関係が苦手なので、これからがんばって覚えていきたいと思います。
- ・オンラインの危険性について、改めて認識することができました。ありがとうございました。
- ・研修時に使用したパワーポイントのレジュメを資料としていただけたら自分で使う時困らないと思いました。セキュリティを考えると使い勝手がいいようで悪い気がしました。ルールを理解して慣れてしまえば大丈夫なのでしょうけれど…。
- ・セキュリティ面について。自分でできる事はチャレンジしてみようと思いました。
- ・もうとっくにできるという先生も多数いらっしゃると思いますが、概要だけでも知ることができて大変助かりました。IT化については、素人用の講習なども今後やっていただけると助かります。
- ・初めてZOOMに入ることが出来ました。申し訳ないですが、難しいことはよく理解できませんでした。ただ次からZOOMは使えるのかもしれないと思いました。研修もあるので大変参考になりました。ありがとうございました。
- ・ZOOMを使う機会を得ることができて良かったです。
- ・オンラインソフトの危険性について理解を深めることができました。ありがとうございました。
- ・短時間にまとめてくださって感謝申し上げます。分からないときはまたどうか教えて下さいますようお願いいたします。
- ・ありがとうございました。次回からは頑張って一人で対応するようにします。
- ・これからは研修で行ったようなスキルも基本的なスキルとして身に付けることが必要であると感じた。
- ・操作しながら説明を聞くことができ、分かりやすかったです。
- ・(研修部に対して) 通知票発送前日は学級通信作成等いろいろとやる事が多いため、別日で開催して欲しかったです。



授業公開週間 実施報告

研修部

I 趣 旨 お互いに授業を参観し合うことにより、指導力向上と授業改善を図るとともに、生徒理解に役立てる。

II テーマ 「生徒の思考を深める授業展開
～生徒の「問い」を引き出し、学習意欲を喚起する～」

III 期 間 第1回 6月 1日（火）～ 6月18日（金）
第2回 10月27日（水）～11月19日（金） ※簿記検定対策特別時間割を含む

IV 授業するに当たっての重点的取り組み事項

- ①【本時の目標】を提示する。
- ②【授業の流れ】を簡潔に明示する。
- ③生徒の「なぜ」を引き出す「発問」を工夫する。
- ④生徒が主体的に取り組む学習活動の場面や時間を設定する。
(グループ活動・教え合い・調べ学習・考察・発表など)
- ⑤【本時の目標】に対する「振り返り」をする。

V 実施方法

- (1) 期間中、各教科代表者1名以上（今年度研修対象者は除く）が、アピール授業を行う。なお、商業科に関しては分野ごとの代表者1名以上がアピール授業を行う。
その際、最低1回は科会を開き、科全体で授業研究し、組織としてその授業に関わる。指導案作成は特に求めないが、作成した場合は、参観者に配付する。
アピール授業は、時間割変更黒板の時間割に赤の蛍光ペンでマークをするとともに、「アピール授業一覧」に授業内容等を記入する。
- (2) 期間中、全職員が自教科1時間以上、他教科1時間以上、計2時間以上（家庭科・芸術科は他教科2時間以上）の授業を参観する。
- (3) フリー参観形式。1時間内に複数の授業を参観してもよい。ただし、授業時間の半分（25分）は参観する。参観する際のポイントは『参観シート』に記載。
- (4) 参観時には『参観シート』を持参し（1授業につき1枚）、記入して『参観シート提出袋』（教頭席前）に提出する。できるだけ当日提出する。提出状況で参観者を掌握する。研修部でマークシートを読み取った後、授業者へ『参観シート』を渡す。
- (5) 授業変更等がある場合
 - ①期間中の出張・年次は、できるだけ授業変更する。
 - ②変更等は、時間割変更黒板に掲示する授業公開週間用時間割に黒で変更後のクラス・実施場所などを書き込む。
 - ③やむを得ず自習にする場合は、時間割に黒で「自習」と書き込む。

Ⅵ 実施状況－アンケート結果から

「R3年度 第2回 授業公開週間」アンケート等集計結果より

回答数 41人/45人 (91%)

授業参観者数 39人/45人 (87%)

自教科 31人/45人 (69%)

他教科 37人/45人 (82%)

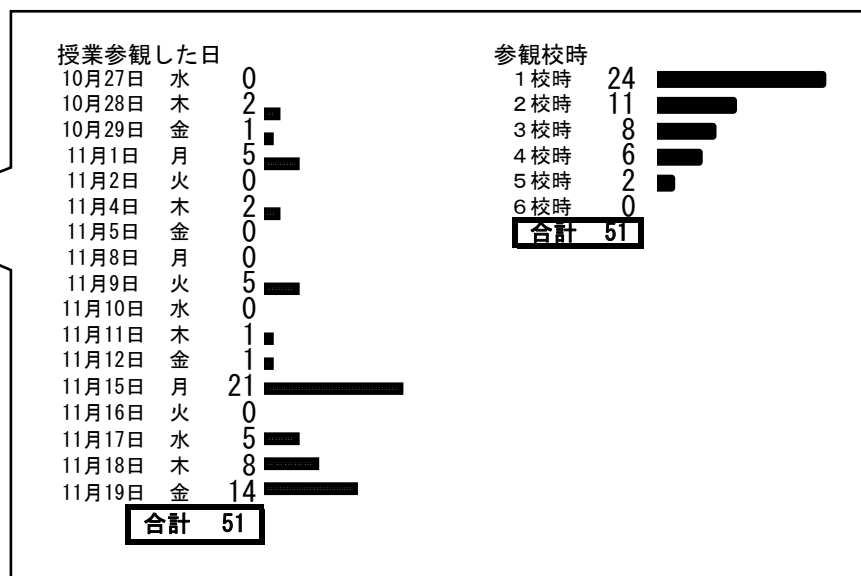
担当教科

国語	4	数学	4	英語	5	地歴公	3
理科	2	商業	16	保体	5	家庭	1
						芸術	1

『参観シート』集計結果

授業参観教科時数

国語	3
数学	2
英語	5
地歴公	7
理科	1
商業	10
保体	2
家庭	13
芸術	8
合計	51



『事後アンケート』集計結果

参観授業内訳

参加時数	自教科	他教科	合計
5以上	1	1	60
4	0	0	
3	0	1	
2	2	7	
1	23	25	12
未参観	8	4	

- ・3年生の進路と重なった。
- ・アピール授業と自分の授業が重なることが多かった。
- ・アピール授業担当だったため。
- ・持ち時数が増えて参観する余裕がなかった。
- ・特別時間割&進路。

質問内容

◎芸術科・家庭科以外の先生への質問

(1)組織として取り組むことができたか

教科全体で取り組んだ	13
同一科目担当者とともに取り組んだ	10
未回答	6
取り組んでいない	10

*「取り組んでいない理由」

- ・授業担当者にまかせる。
- ・個々の教員の様々な教材へのアプローチ方法を見るため。
- ・多忙により話し合いができなかった。

(2)教科内で科会を開いたか（教科主任）

はい	3
未回答	0
いいえ	4

（家庭科・芸術科除く）

*「開かなかった理由」

- ・毎年参観しフィードバックしている。
- ・事後に開く予定。

◎実施時期及び期間に関して

(1)実施時期について

今のままで良い	25
変えた方がいい	10

- ・特別時間割が入らない期間。
- ・考査2週間前以外の時期。

(2)実施期間について

今のままで良い	37
もっと短い方がいい	1
もっと長い方がいい	1

- ・14日間。

◎自分の授業に取り入れてみたいと思った授業内容

- ・スクリーンを用い、授業の目的や授業のポイントを示すこと。（まだ、やったことがないので）
- ・発展的な内容で生徒の興味を引くこと。時間をとって準備するのが必要。
- ・生徒の身体を動かすやり方、主体的に取り組む演習。
- ・生徒の作品を写真にまとめるなどの活用。
- ・生徒が自信を持って解答できるような発問の仕方。
- ・グループ学習がうまく機能し、学習目標の達成の手段として最適な学習方法だった。
- ・ICTの活用、グループワーク。
- ・英文で解釈しにくい部分を、実際に生徒を動かして視覚化することでクラス全体にイメージしやすくした点。
- ・一文一文の解釈ではなく全体としての解釈に重点を置き、生徒の発言を増やす工夫。
- ・次の思考の場面につながる視覚教材の提示。
- ・ロールプレイなどで、生徒に自信をつけさせるような体験をさせることが主体性や積極性につながると感じた。
- ・パワーポイントを使ったわかりやすい説明。
- ・先生が輝く場면을授業内に取り入れられたら、生徒の興味が魅かれると思った。

◎自分の授業で改善したいこと

- ・振り返りを行い、本時の目標に到達できたかを確認し、フィードバックして次の授業に生かしたいです。
- ・板書中心であること。マンネリ化、生徒に動きのある授業。
- ・授業のペース配分（速い）。
- ・思考力を深めるための手立てを毎時間取り入れたい。
- ・スピーキングの面では基本的なやりとりしかできないので、感想や意見を言うような練習も取り入れたい。
- ・ICTの活用。
- ・生徒が英語を話す機会を増やす。
- ・より主体的な活動につながるような教材の提示。
- ・調べ学習を増やす。グループ学習。
- ・生徒の反応を引き出す、授業の雰囲気作り。

Ⅶ おわりにー

授業公開週間実施10年目となった。例年、6月と11月の2回実施しており、昨年度はコロナ禍の影響により、1回のみの実施となっていた。今年度は、様々な影響を受けながらも、先生方の多大なご協力により2回実施することができた。今回掲げたデータは2回目実施のものである。

アンケートの記述からもわかるように、多くの先生方が、ご自分の授業に取り入れてみたいという視点で参観している。また、今後の授業で改善したいことという視点で参観していることもデータから読み取ることができた。この校内研修は、先生方お一人お一人の多大なご協力のもとに成り立っている。心より感謝申し上げる次第である。

授業公開週間 授業紹介

研修部

6月1日(火)～6月18日(金)

○国語

柴田 佳代子先生 6月1日(火) 4校時 1F 国語総合 「漢文入門～好きな格言を紹介しよう～」



【参観者の感想】

- ・先生と生徒達のコミュニケーションがよくとられていて、生徒同士も和やかな雰囲気です、しかもきちんと話し合いができており、柴田先生の日頃のご指導ぶりを感じました。指導の内容がスムーズに行き届き、先生が示した格言について真剣に考える姿が見られ、思考力が養われる授業だったと思います。ありがとうございました。
- ・相手の考えを聞く、読み取る活動と表現する活動の場面が設定され、読み取り、表現する力を高める工夫がされていて勉強になった。
- ・私の授業では見せない生徒のよい表情を見ることができました。全員が授業に積極的に取り組んでいて、生徒の興味関心を引きつける素晴らしい授業でした。勉強になりました。ありがとうございました。
- ・準備期間が少ない中でアピール授業をいち早く実施できたのは、日頃からこういった生徒を動かす授業を行っているからだと思いました。単元・教材の学習目標と本時のねらいのマッチングにやや課題があるかと感じましたが、生徒がちゃんと活動しており良かったです。お疲れ様でした。
- ・すばらしかったです。まねしてみたいことがいっぱいあります。①前回いなかった人への声かけがきめ細やかである、②次の小テストへの取り組みポイント（順番どおりには出ないよ！等）が明確、③はしばしに生徒名をさりげなく入れて一体感を出している（他人事にしていない）、④書いている最中の生徒への声かけがすばらしい、⑤班長を呼んだりペアになったりグループになったり体も思考も動かして、よい雰囲気をつくっている、⑥グループ学習の段階の指示がわかりやすい、⑦ほめことばにあふれていた、⑦「どこで発表する？」など押しつけない。⑨ペアで話してこんなに活動的なのは初めて見ました、⑩辞書を見てはいけないという指示もおもしろい。どんな解釈ができるのか、考えさせたかったのですね。全体として、“思考が働いているときの生徒の顔の輝き”がすばらしい、こういうやり方があったのかー!!と思い、本当に勉強になりました。
- ・苦手とする生徒が多い漢文の導入に、熟語に拘らない慣用句を調べさせるという視点に新しさを感じました。

○数学

伊藤 史織先生 6月10日（木）1校時 2 B 数学Ⅱ 「課題学習 実生活を数学で分析しよう」



【参観者の感想】

- ・ プロジェクタの扱いがとてもこなれており、テンポよく授業が進められていると思いました。箱ひげ図や分散、標準偏差の身近な例を取り上げていて参考にしたと思います。今日はありがとうございました。
- ・ 自作の工夫された例題を使いながら分散・標準偏差を説明していて、生徒にとって取り組みやすく理解しやすかったのではないかと思います。
- ・ I C Tも活用していて時間に無駄がなかった。素晴らしい！
- ・ メリハリのある飽きさせない授業でした。素晴らしい！
- ・ 題材が生徒の興味を惹き付けるばかりか、どんどん引き込まれました。商業や生活に落とし込んだ説明でした。
- ・ 生徒のプリントをプロジェクタで映すなど I C Tの活用力が素晴らしかったです。この授業までの説明もオリジナルの問題を作成していて驚きました。今後ぜひ I C Tの使い方を教えてください。勉強になりました。ありがとうございました。

○地歴公民

小林 稔幸先生 6月17日（木）1校時 3 B D E 選択 C（地理 A） 「河川・海岸の地形と生活」



【参観者の感想】

- ・ 地域の地形に落とし込むことで、より分かりやすい授業になっており、大変参考になりました。
- ・ 導入の段階で、わかりやすく説明、確認をすることで、生徒が見通しをもって授業に取り組むことができていました。素晴らしかったです。お疲れ様でした。
- ・ 既習事項が活きるプリントとなっており、生徒も取り組みやすくなっていました。秋田市の地形など身近で分かりやすい資料で、生徒を引きつける内容となっていると感じました。生徒もしっかりと発表しており、普段から丁寧な授業をしていることがわかりました。素晴らしい。ありがとうございました。

- ・既習の知識を再確認することで、理解をさらに深める内容の授業でした。指名された生徒も返事をし、立って発表しており、規律ある授業でした。
- ・スライドがシンプルで見やすく、〔作業〕や〔問い〕など、生徒が今何をするかがすぐに伝わり分かりやすいと思いました。
- ・先生の質問がこれまで生徒が学んだ知識を復習しつつ、全てがつながっていくのがわかり、学んでいる生徒も楽しいだろうなと思いました。ありがとうございました。
- ・地図を読み取ることでなく、自分や身の回りに目を向けて考えることにつながっており、自分の授業でも見習っていきたいと思います。生きた授業だったと思います。ありがとうございました。
- ・実際の地形図を利用して、用語の確認をした後、秋田市の地形に触れていた展開がとても面白かったです。過去4年分の比較、「自分だったらどこに家を建てるか」という問いが、身近に感じられる発問で印象に残りました。ありがとうございました。
- ・授業の着地点（目標）を生徒にわかりやすく伝えることで、生徒が意図を理解しながら作業を行うことができていたと思います。改めて目標を明確にすることの大切さに気づかされました。また、事前に学習した内容を確認しながら、さらに生徒の「なぜ？」を引き出す問いが素晴らしかったです。ありがとうございました。

○英語

守屋 大先生 6月8日(火)2校時 1Dコミュニケーション英語Ⅰ 「Yanase Takashi: The Creator of Anpanman」

【参観者の感想】

- ・ICTを活用した素晴らしい授業だったと思います。
- ・フラッシュ式の単語練習がとても効果的と感じました。ありがとうございました。

○理科

高田 冬深先生 6月9日(水)3校時 3E生物基礎 「予防接種と感染症」



【参観者の感想】

- ・教科書の小さい字で書かれた大量の情報をパワーポイントとワークシートで端的にまとめて学習できるようにしている。さらに、説明を聞く、考える、グループで活動するがバランスよく組み合わされている。生徒たちも問いかけに自然に反応していてとても良い雰囲気でした。最後に新型コロナウイルスへとつなげて理解を深めさせるとともに、正確な知識を身に付けさせ、自分ごととして考えさせる工夫が出来ているワークシート、すべてが大変参考になりました。
- ・タイムリーな話題も取り入れ、生徒達にとっても「自分事」として捉えられる内容だったと思います。

○保健体育

船木祐輔先生、佐藤寛仁先生、加賀屋徹先生 6月17日（木）2校時 1 A B 体育 「陸上競技」



【参観者の感想】

- ・ 事故もなく、生徒も意欲的であった。
- ・ ハードルの跳び方について、わかりやすく丁寧に説明されていた。理論に触れる→実際に動く、一番の言語活動ですね。ありがとうございました。

○商業

柏谷亜紀子先生、秋島亜理紗先生 6月15日（火）1校時 3 B 総合実践

「ライフプランニングの考え方・手法」

【参観者の感想】

- ・ <面接練習>一斉指導により生徒が面接について客観視したり相互評価したりできてよかったと感じた。面接の全体をもう一人の教員が俯瞰できるので、T T が有効な授業だった。<ライフプラン>グループで楽しみながらも「現実だったらどうするか」と考える姿勢がうかがえた。教室におけるiPadの接続にはまだ課題があるようです。
- ・ 面接練習では実際の面接試験を意識できるような質問や雰囲気だったと思います。ライフプランについては、自分の計画を立てさせてからお金関係の話に移っていたので、自分の計画性の確認やこの後の計算の話に移りやすいと思いました。ありがとうございました。
- ・ 柏谷先生の指示が的確でわかりやすい。ただ作業をさせるのではなく、人生設計（ライフプランニング）を立てることの意義をきちんと説明されていた。このことで、後半部分の講義を受ける生徒の取り組み方が違ってきたと思う。
- ・ 前後半部で内容を切り換え、集中しやすいと感じました。将来につながる内容なため、生徒も楽しそうに生き生きとしていたところが印象的でした。
- ・ 卒業後のライフプランについて、ライフイベントや収入・支出等の点から考える内容で、進路や就職を間近にひかえた生徒にとって非常に興味深く取り組める授業だったと思います。

○商業

米澤雅史先生、村井良裕先生、秋島亜里紗先生、藤原一誠先生

6月18日（金）2校時 3 E F 電子商取引 「コンテンツの制作」

【参観者の感想】

- ・ 生徒への指示が分かりやすく、一つ一つ丁寧になされていたことが印象的でした。タイマーのカウントダウン表示も机のスクリーンに映し出されているおかげで、時間内に課題を終わらせるという目標がクリアでした。注意事項や指示の出し方が参考になりました。
- ・ 先生方の役割分担がしっかりしていて、一人一人の生徒に対応していたと思います。授業の効率を上げるために、画面転送や大型スクリーンへの投影、机間指導を工夫されていて、特別なことなく日々の授業で継続して行えることを大切にされた授業を日頃から行っていると思いました。

○商業

千葉 知美先生 6月16日（水）1校時 2Dマーケティング 「マーケティングのプロセス」



【参観者の感想】

- ・実際の新聞記事を活用した授業で、とても興味深く参観できました。第2章全体を見通した教材研究の上での授業であることが良く伝わり見習いたいと思いました。ありがとうございました。
- ・新聞記事を活用した授業、大変構想がよく練られていて勉強になりました。ありがとうございました。新聞記事のプリントは先生の持ち味となっていて素晴らしいと思います。
- ・記述する際の注意点を提示しながらわかりやすい説明をしていた。
- ・とても教材研究がしっかり行われていて、感心させられました。自分にはできないことばかりだったので、自分の授業を見つめ直すいい機会となりました。
- ・授業を進めていく上での説明や題材がタイムリーでとてもわかりやすく理解を深めさせることができたと思った。素晴らしかったです。
- ・教材の準備、前時のプリントを活かした展開などマーケティング用語とビジネスを結びつけ、最後には説明させることも行い、全てにおいて素晴らしい授業でした。大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・授業のねらいが明確であり、提示した資料も生徒の思考を深めさせる内容であったと思う。
- ・なじみのある会社について、生徒も集中して内容を聞き取っていて指示もスムーズに伝わっており、日頃から明確な指示で授業が展開しているのだろーと思いました。ありがとうございました。
- ・生徒が取り組みやすいように、教材を工夫しているところがすばらしい！！
- ・資料の提示の仕方、ワークシートの工夫、生徒を引きつける教材、丁寧な説明など、全てよく準備されていて、すばらしい授業でした。生徒たちが落ち着いて学んでいる様子にも感心しました。ありがとうございました。
- ・実際の新聞記事や実在企業を取り上げ、分析をしていたので分かりやすいと思いました。また、学習した内容を新たな教材を作ることでもまとめさせ、自分の言葉で表現させていた点がとても参考になりました。ありがとうございました。
- ・本時の目標に向けて、流れがスムーズでねらいもはっきりとわかる授業で大変勉強になりました。生徒が授業で記入した内容を活かし授業が進んでおり、生徒の考えが生きる授業で参考になりました。先生が作るプリントも充実した内容で素晴らしく思いました。ありがとうございました。

ビジネス実践『AKISHOP』

AKISHOP担当 大久保 薫

1. はじめに

平成14年度から取り組んでいる「ビジネス実践」は20周年を迎えました。今年のAKISHOPテーマ「黎明」には、新たな未来を切り開きたいという生徒の思いが込められています。

先が見通せないコロナ禍での活動でしたが、感染防止対策や出店の工夫を考えた経験は、この混沌とした世の中を生き抜く力を育む機会になったと思います。

当日は秋田駅周辺の4会場で合計29店舗にて、約45種類3,000個の商品を販売しました。また、市民市場発着の「秋田市名所巡りツアー」の実施や、アゴラ広場でのイベント及びイベントショーも開催し、多くの方に来場していただくことができました。ご協力くださった方や地域の方々におかれましては、ご理解とご協力をいただき誠に感謝申し上げます。

2. 本校のビジネス実践の内容

「ビジネス実践」は学校全体を模擬会社に見立てて商品開発や販売、地域貢献活動などを行いながらビジネスを体験的に学ぶ活動です。活動の目的は、「主体的に考え、地域に貢献できる意欲と知識をもった生徒の育成」です。そのために、仲間、学校外の人々、自然とのつながりを意識して活動しています。そして学習を通して前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力を身につけた社会人の育成を目指しています。

3. AKISHOPの班構成

広報課1班 ポスター制作、活動風景・開発商品の写真撮影
広報課2班 フリーペーパー、ラジオ、テレビ、広報などでのPR活動
CM班 CM制作、ビジネス実践の活動をHPにアップロード
イベント課1班 秋田の良さを伝えるイベントの企画
イベント課2班 地域活性化につながるイベントの企画
イベント課3班 おもてなしができるイベントの企画
地域貢献課観光班 秋田のビジネスを考えたツアープランの提供
地域貢献課地域経済班 商店街や他校などと連携した地元の活性化に向けた活動
地域貢献課地元生産者班 地元の生産者の思いに共感した商品開発
開発課総菜班・菓子班 年齢層や生活スタイルなどの違いを意識した、ターゲットを明確にした商品開発
開発課ギフト班 アレルギー対応、ユニバーサルデザインを意識した商品開発



AKISHOP 20th 2021 10/16 土 9:30-15:00

今年のテーマ **黎明**

AKISHOPでしか楽しめない
オリジナル商品いっぱい!
せひ、ご来場ください。お待ちしております。

秋田商業高校
ビジネス
実践学習

秋田では、平成14年度から
ビジネス実践学習として
AKISHOPを開催していま
す。生徒達が地域貢献と連
携して、商品の企画・開発・
販売を行っています。

4会場で開催 ●秋田駅前大屋根通り ●秋田市民市場 ●アゴラ広場 ●ほぼろど

■イベントタイムスケジュール

会場	時間	内容
アゴラ広場	9:30	開会式・イベント内容の紹介
	10:00	やまぽと大賞
	10:30	秋田県民のつなぐを 2年ぶりに開催
	11:00	秋田県民のつなぐを 2年ぶりに開催
	11:30	秋田県民のつなぐを 2年ぶりに開催
	12:00	秋田県民のつなぐを 2年ぶりに開催
	12:30	秋田県民のつなぐを 2年ぶりに開催
	13:00	秋田県民のつなぐを 2年ぶりに開催
	13:30	秋田県民のつなぐを 2年ぶりに開催
	14:00	秋田県民のつなぐを 2年ぶりに開催
秋田市民市場	14:30	秋田県民のつなぐを 2年ぶりに開催
	15:00	秋田県民のつなぐを 2年ぶりに開催

※イベントについては変更になる場合がございます。商品が完売した場合、終了時間が早まる場合があります。

AKISHOPでは来場していただいた皆様に安心してお楽しみいただけるよう、感染症予防対策を実施しています。
マスク・フェイスシールドの着用 定期的なアルコール消毒 間隔を空けての実施

秋田市立秋田商業高等学校 〒010-1603 秋田市新館平台1番1号 http://akisho.ed.jp/ TEL.018-823-4308

4. 年間活動計画

4 月

- ・ ガイダンス
- ・ 生徒・職員への希望班調査
- ・ 本校教員による講話「秋田の現状を知る」
- ・ 本校教員による講話「商品開発の基礎」
- ・ 所属班の発表と連携企業への挨拶

5～6 月

- ・ 活動計画の立案と企画書の作成
- ・ 調査、商品開発、企業交渉

7～8 月

- ・ 試作品の受け取り、写真撮影

9 月

- ・ チラシデータの校正
- ・ 商品完成、商品名・価格の最終確認

10 月

- ・ 広報活動、出店準備、出店、決算報告

11～12 月

- ・ まとめ、活動報告会準備

1 月

- ・ 活動報告会



ガイダンスの様子



総菜 1 班 商品開発に向けて

AKISHOP 商品ラインナップ 秋田駅前大屋根通り A 秋田市民市場 B ぼほろーど C				
※価格は表裏両面掲載内容にてご確認ください				
キンパ(キンパ)キンパ	秋高やみつみライスパワー	稲庭カルボナーラ	かゆるんパン	うさチーズ
350円	300円	400円	150円	150円
たけのこ餅(7個入り)	肉のからあげ	肉の白身魚丼	秋高いなり	
200円	400円	550円	380円	
やさい餃子	いもコロ	MIX巻	台湾のからあげちゃん	ハロウィンプリン
400円	200円	380円	220円	430円
アキツツォ	YAKIドーナツ(2個入)	酒に漬めた(指クッキー)	カステラスベレー	ハロウィンタルト
270円	300円	350円	250円	400円
どうぶつドーナツ(ふた・なこ)	これぞ秋高のスイーツポテト	みたらしプリン	ちっちゃシュークリーム	ガムレットケーキ
300円	250円	300円	320円	350円
秋高ロール	ドレミファラシドラ焼き	これをカステラ・様	アップルクーヘン	いぶりチーズロール
340円	260円	130円	150円	200円
ドラゼキーズ	にこニコクッキー	ブレンドハーブティー	3色どら焼き	家族のめくもり
240円	300円	18250円 28400円	500円	500円
いぶりかつてポテトサラダ	アロマ石鹸	秋高マスク		
300円	300円	550円		



ギフト 1 班 販売実習の様子



地元生産者班 圃場訪問



イベント3班企画 竿灯演目



活動報告会の様子

SENTE x AKISHOP
秋田商業高校 総合的な探究の時間 活動紹介

私たちはビジネス実践の授業の一環で「地域貢献 地元生産者班」として
SENTE 沢田石武瑞さんに協力いただき、「農業を通じて「食と健康のプロ」を目指す」
のテーマのもと14名（2・3年生）で活動しています。

----- 主な活動スケジュール -----

5月20日（水）オリエンテーション
6月3日（水）SENTE 野菜収穫会
7月1日（水）野菜キャッチコピー作成
7月1日（水）SENTE 産地見学・収穫体験
9日（金）販売会に向けた衣装・装飾の
7月10日（土）ふとく山田産物販売

10月16日（土）「AKISHOP」販売実習
ナイス FOSTE 販売実習
秋田駅前大塚ビル・秋田駅前ビル

10月 活動報告、活動報告発表に向けた準備
11月 活動報告発表
12月 活動報告発表

QRコード

ビジネス実践の授業の一環として、秋田商業高校の生徒が、SENTE 沢田石武瑞さんと協力し、地元産物（野菜）の販売・宣伝活動を行っています。

活動内容：野菜収穫会、野菜キャッチコピー作成、産地見学・収穫体験、販売会に向けた衣装・装飾、販売実習、活動報告発表

活動期間：5月20日～12月

活動場所：秋田商業高校、秋田駅前大塚ビル、秋田駅前ビル

活動メンバー：14名（2・3年生）

活動の目的：地元産物の販売・宣伝、地域貢献、ビジネス実践の授業の一環としての学習

活動の成果：地元産物の販売・宣伝、地域貢献、ビジネス実践の授業の一環としての学習

地元生産者班 ポスター

5. 感染症予防対策

AKISHOP当日のために考えた感染症予防対策は、政府や県の対策資料を参考にしたことはもとより、生徒が他店舗での対策を調査したり、株式会社ダスキンの専門家の方から検証していただいたりしながら作成しました。

3会場が屋外実施のため、校内からは飛沫防止パネル、フェイスシールド、ゴム手袋の必要性などに疑問の声がありましたが、飛沫防止パネルはお客様との距離を保つ上で、屋内外問わずあった方がよいこと、フェイスシールドは対お客様というよりは、販売者の距離が保てない時に有効であること、ゴム手袋は着用の上で手洗いと消毒をし、使用後は廃棄できることや、肌荒れも予防ができることなどから、有効であることが確認できました。

項 目	内 容
飛沫感染対策	・フェイスシールド着用 ・飛沫防止パネル設置
感染対策	・不織布マスク、ゴム手袋着用 ・除菌シート配布
接触感染対策	・手指消毒剤設置
ソーシャルディスタンス	・参加生徒の少人数交代制 ・会場配置の見直し
来場者への対策依頼	・チラシ掲載 ・POP掲示 ・協力団体への健康調査依頼
接客の工夫	・試食の禁止 ・非接触の徹底 ・生徒や職員の健康状態の確認 ・爪を切る、髪をまとめる、エプロン着用などの身支度や手指消毒の徹底 ・店舗や使用道具の除菌



佐藤養助 秋田店調査



MARYQUANT 秋田OPA店調査



株式会社ダスキンによる検証

たことや、新聞、ニュース、ラジオなどの様々なメディアで取り上げていただけたこと、その中で「地域活性化のために続けてほしい」というお声をいただけたことは生徒と教職員の大きな励みとなりました。

来場者へのアンケート「2. 来場理由」からは、来場者のうち「家族・知人」の割合は3割程度であり、4割が「偶然」、3割が「宣伝や秋商ファン」による来客であることがわかりました。このことから、「AKI SHOPは保護者の来場で成り立っているのでは」という不安を払拭することができました。市中の消費者を獲得しやすい駅前での実施は適切な選択肢の1つであることや、3割の「来たくて来場した人たち」の存在を確認できました。

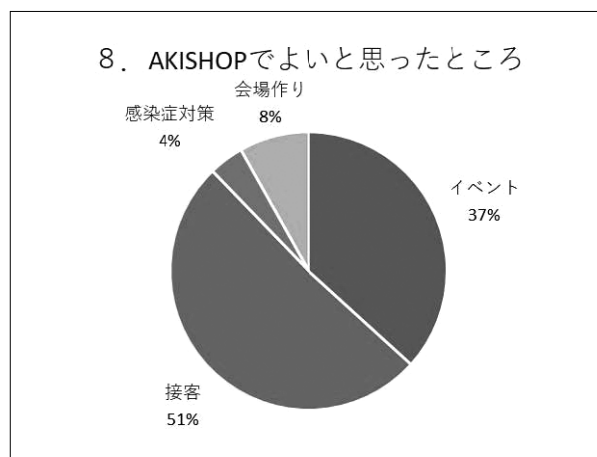
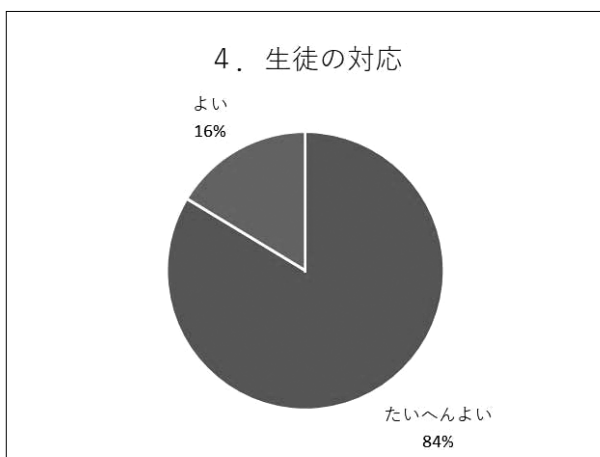
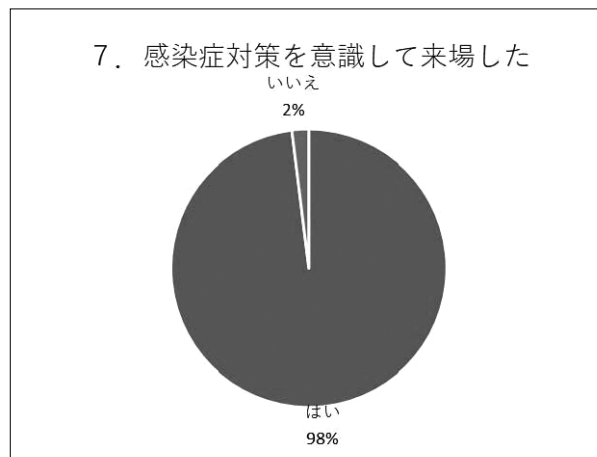
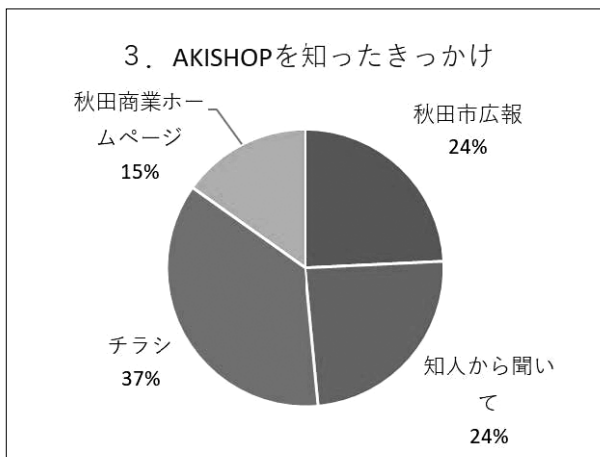
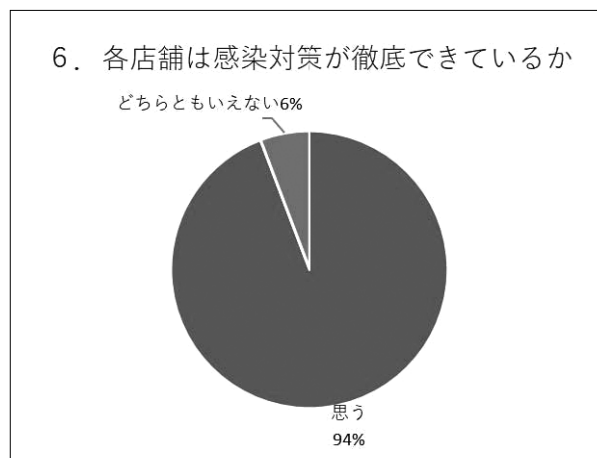
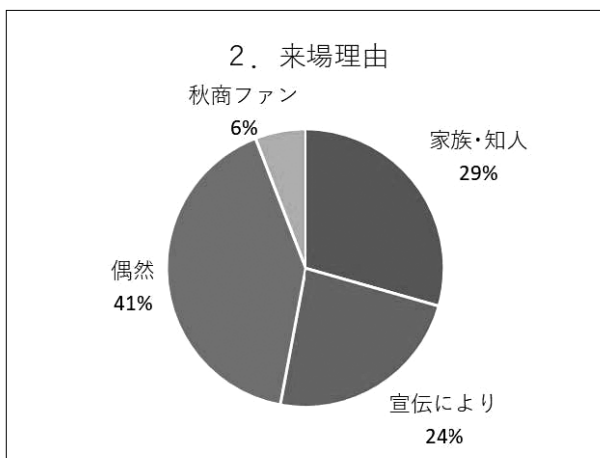
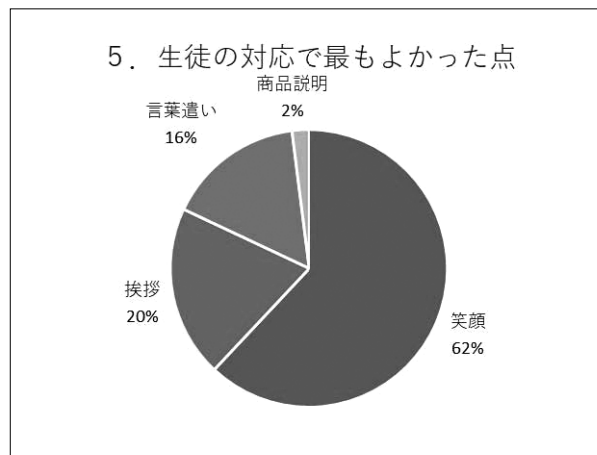
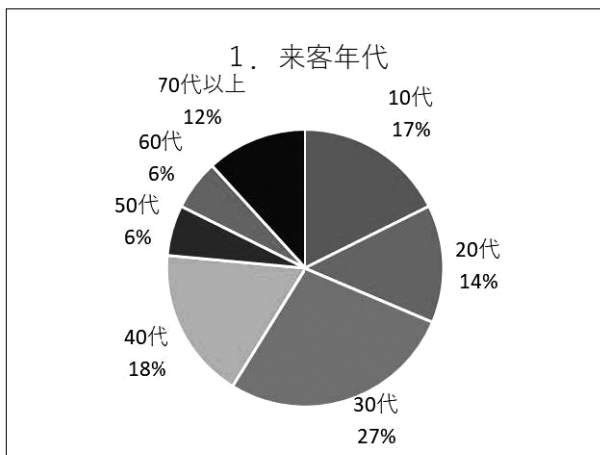
また、「8. AKI SHOPでよいと思ったところ」という項目では約5割が「接客」でした。ビジネスを学ぶ生徒として、より洗練された接客応対ができるように学習してきた結果が表れていると思います。今後はさらに磨かれたビジネス実践の場とするために何をすべきかを生徒も教職員も考えていかなければなりません。多くの人に支えられて実施できていることへ感謝するとともに、本校のビジネス実践が今後も発展し続けることを願っています。

6. おわりに

コロナ禍において、アパレル・ホテル・飲食店などの流通サービスの業種では、販売員が対面による接客をしないことで、顧客の満足度を高めるというおもてなし「おもてなさない」という非接客方式も生まれています。生活スタイルや経済、社会のあり方までが大きく変容しています。

AKI SHOPを開催することへの不安がある中、会場にたくさんのお客様が来ていただけ

7. 来場者へのアンケート結果



令和3年度キッズビジネスタウンの取り組み

キッズビジネスタウン担当 須田 州 逸

今年度で、キッズビジネスタウンがスタートして14年目となった。令和2年度は、コロナウイルス感染症の拡大により中止となっており、今年度は参加関係者の健康・安全面を考慮して小学生の参加を中止し、本校1年生を小学生役として実施することとなった。

1. キッズビジネスタウンの目的

キッズビジネスタウンとは、小学生以下の子ども達が市民となり、「みなで働き、学び、遊ぶことで、ともに協力しながら街を運営し、社会の仕組みを学ぶ」教育プログラムである。小学生が模擬的に設定された街で、市民としてハローワークに行き仕事を探し、実際に働いて給料を得て、その給料で買い物を体験する教育的行事である。

本校生徒はキッズビジネスタウンの企画・運営を行う。当日は社長として子ども達の先頭に立って模擬店舗での販売などを一緒に行い、子ども達に「社会の仕組み」や「ビジネスの仕組み」を教えることを通して、学びを深めることができる。企画や運営を通して教えることの難しさや、ビジネスに必要な知識を客観的な視点から知ることができるものである。

このような活動を通して、ビジネス実践全体の目標である「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」を体得し、社会人基礎力を育てることを目的としている。

2. 令和3年度の活動

今年度は、10月15日（金）に勝平小・出戸小を対象に、16日（土）に一般参加者を対象に開催を計画していたが、コロナウイルス感染症が若い世代にも拡大している状況をふまえ、開催を中止とした。しかし、準備は計画どおり進んでおり、実施方法を検討した結果、本校1年生を小学生役として実施することとした。また、今年度からビジネス実践の活動の振り返りの時間が増え、報告会が1月になったた

め、参加できなかった小学生に活動の内容を伝えられるように、ホームページを作成し、活動の振り返りと紹介ができるようにした。

2・3年生の希望者は30名で、以下のよう

に活動した。（※は中止）1年生は、小学生役と各店舗従業員として当日の活動に参加した。

(1) スケジュール

- 5月：ガイダンス、基礎学習
- 6月：店舗の模索、決定
求人票、マニュアルの作成
- 7・8月：企業への研修、交渉等
- 9月：求人票、マニュアルの完成
※勝平小・出戸小への説明
- 10月：店舗準備、1年生へ指導、
本番、会計処理
- 11月：振り返りと反省
ホームページ作成
- 1月：ホームページ公開
報告会の実施

(2) 今年度の開設店舗（29店舗）

分 類	内 容
公 共 施 設	ハローワーク、銀行、税務署、消防署、警察署、病院、保健所
小 売 業	コンビニ、デパート、駄菓子屋、スイーツショップ
サービス業	テレビ局、ラジオ局、体操教室、音楽教室、清掃局、写真館、新聞社、ゲームプログラマー
製 造 業	木工工房、手芸工房、ビーズアクセサリ屋、フラワーアクセサリショップ、手作りマスクショップ、八橋人形店
飲 食 店	カレー屋、たこ焼き屋、ババヘラ、稲庭うどん屋



3. 当日の様子

10月16日（土）は、1年生6クラスを2クラスずつ1時間ごとに時間を区切り、①小学生（働く）②小学生（遊ぶ）③各店舗従業員の3つの役割に分けて実施した。

コロナウイルス感染症対策として、午前中のみの実施とし、マスク着用とこまめな手指消毒、換気やソーシャルディスタンスを考えた教室配置と各店舗の運営、教職員による巡回指導などを行った。生徒もコロナウイルス感染症が拡大することに対してのリスクを理解しており、感染対策やキッズビジネスタウン運営の協力など積極的に行っていた。おかげさまで、無事に終わることができた。

4. 実施上の成果と課題

(1) コロナウイルス感染症への対策

昨年度に引き続き、今年度も小学生を対象とした実施は感染拡大のリスクが高く、関係者への影響が大きくなることから中止となった。今後の状況も不透明なため、今年度のように実施方法や対象を大きく変えていくことも検討していく必要があると感じた。昨年度中止になったことで、2年生のキッズ担当者は、どのような活動かイメージできず、計画や準備を行うことになったため、今まで以上に指導が必要であった。今年度のように、1年生だけでも実施することで来年度以降も継続・改善等を行いながら実施することにつながると考える。

(2) 店舗経営

ビジネス実践全体の目標である「考え抜く力」といった面では、昨年に引き続き課題が残る結果となった。

様々な状況に対する見通しの甘さから、1年生への指示不足、仕事の多い少ないに対応でき

ないなどの状況が多く見られた。事前にクレームや運営上の問題点を考えさせるなど、業務マニュアルの内容をさらに充実させることで店舗経営の改善を図りたい。各店舗教員の助言やサポートも必要となるため、キッズビジネスタウン担当での情報共有も密にしていきたい。今年度は八橋人形店といった地域に関係する店舗の開設があった。各店舗の実施内容についても例年通りではなく、工夫を継続できるような仕組みを考える必要がある。

今後は今年度の反省をもとに、商業高校生として学んだ専門性を活かし、より充実したキッズビジネスタウンを展開できるようにしていきたい。

エコロジカルビジネス班の活動

エコロジカルビジネス班担当 笠 原 光 子

今年度のエコロジカルビジネス班は、3年生19名、2年生4名の合計23名で活動した。今年もまた「一般社団法人あきた地球環境会議」に協力していただき、環境問題について様々な角度から考える機会を得ることができた。地球温暖化の現状やエネルギー問題、SDGsについて講師の方々からお話を聴いたり、グループに分かれてアイデアを出し合う活動をしたりすることによって、環境問題についての理解を深めた。また、座学だけでなく、秋田杉の端材を利用した木ハガキ作りや、秋田市内の再生可能エネルギー施設(風力発電、太陽光発電)の見学といった体験を通して、生徒たちは資源のリサイクルやエネルギー問題のことをより身近なものとして捉えることができたようだ。



再生可能エネルギー施設の見学

また、「気候変動対策×主権者教育プロジェクト」として、本校が取り組めるような温暖化対策について各グループでアイデアを出し合い、環境スクールマニフェストを作成した。今年は諸事情により当初の計画が変更になってしまい、1年生へ直接説明する機会を設けることはできなかったが、各党のマニフェストを紙面で提示し投票してもらった。この活動を通して、環境問題について、お互いに協力して解決する必要があることが理解できたと思う。

AKISHOPでは、エコ箸作り講座、フリーマーケット、ダリア配布の3つの班で活動した。前日のダリア園での準備の際は、雨模様で大変な面もあったが、生徒達は少しでも良い状

態のダリアをお客様にお渡しできるようにと、一生懸命作業にあたった。その甲斐あって、当日は多くのお客様に喜ばれ、笑顔も生まれていた。また、箸作りの講師の方にも来ていただき、親子連れなどのお客様が訪れ、箸作り体験を楽しんでいた。フリーマーケットでは、品物の置き方や、値段の付け方など工夫し、お客様への説明等も高校生らしく丁寧かつ爽やかに対応することができた。

エコロジカルビジネス班のこの一年間の活動を通して、生徒達は、環境問題・エネルギー・SDGsについて理解を深め、これからは社会の一員として未来をよりよいものにしていく責任が自分達にあるという自覚を持ったと思う。この経験を活かし、世界で起こっている諸問題に関心を持ち、身近なところから行動を起こしていく、まさに“Think Globally, Act Locally.”を実践する人になってくれることを期待している。



秋田杉の端材で木ハガキ作りを体験



AKISHOPにてダリアプレゼント

中堅教諭等資質向上研修を受講して

数学科 佐々木 絵 里

I はじめに

1 校外研修について

①センター研修

I 期	6月22日（火）	【開講式】 中堅教諭等への期待 ○質の高い授業研究を継続的に進めていくための方略 ○学校の危機管理 ○学校組織の一員として①－リーダーシップ－
II 期	7月30日（金）	○高い専門性に基づく教科指導の充実と推進
III 期	8月25日（水）	○気になる生徒の事例を通じた具体的対応の理解 (所属校での自己研修)
IV 期	10月14日（木）	○いじめの理解と対応 ○人間としての在り方生き方を考える道德教育 ○学校全体で取り組む情報教育 ○教育活動全体を通じたキャリア教育
V 期	1月 7日（金）	○教育公務員の服務 ○学校組織の一員として②－キャリアデザイン－ ○これからの学校教育 【閉講式】 中堅教諭等資質向上研修を終えるに当たって

I 期で中堅教諭は組織全体を理解し、指示を待つのではなく、自ら積極的に行動し、学校全体が総合的に向上するように中核的な役割にあると伺い、今までと同じような立場ではいけないということを実感することができた。中核的な役割であるためには、学校の組織全体を理解することが第一条件だと感じた。私は勤務校に関して把握してないことが多くあり、自分が所属している学年や分掌だけではなく、より広い視野で学校全体を視なければならないと考えた。

また、阿部昇特別教授が仰っていた「内言の外言化」が特に印象に残っている。生徒にグループワークをさせたり、周囲の人と話し合わせたりする機会を設けることがあるが、生徒同士の話し合いをする前にまずは自分の中で意見をまとめることで、自分の意見を他者へ伝えやすくなることを知った。秋田県の「学校教育の指針」にもあるように、この考え方が探究型授業の基礎となる過程だと知ることができた。

IV 期では、いじめや道德教育といった生徒理解にも学級経営にも欠かすことができないことを学ぶことができた。特に、道德教育に関しては高等学校の教員として働くようになってから研修することが少なく、非常に勉強になった。選択研修で体験した自分以外の生き物に対しての思いやりも道德教育の一部だと思う。義務教育段階のことだと思っていたが、高校卒業後のことを考慮し、道德性を意識して生徒と関わっていかなければならない。昨今の高校生は幼いと感じることもあり、高等学校にも道德教育が必要になってきていると考えた。この研修を受講し、特定課題研究のテーマを道德教育にしようと考え、本校道德教育推進委員長の今先生から指導・助言をいただいた。

②選択研修

選択研修は、幼い頃から動物が好きで一度動物に関わる仕事に携わりたいという理由から秋田県動物愛護センターで3日間研修を行った。センターでは犬猫の譲渡だけでなく、命を大切にすることを育てる教室や販売・繁殖する業種への講習など知らない仕事が多くあった。殺処分される頭数ではなく、センターへ預けられる頭数が0匹になることを目標にしていることを知り、動物に対して真摯に向き合う姿に私も生徒の思いやりの心を育てられる指導をしていきたいと考えた。動物も人間も命の重さは変わらずお互いに思いやらなければいけないことを改めて学び、有意義な体験をすることができた。

③授業研修

今年度、新型コロナウイルス感染拡大防止のため授業研修が中止になったため、Ⅱ期にセンターで受講した高い専門性に基づく教科指導の充実と推進の内容をまとめた。

一人につき自校で撮影した授業の説明・視聴30分、協議(ワークショップ)20分、指導助言5分という内容の研修だった。指導・助言では本時に対するものや参加者全員へむけるものなどがあることを教わった。同期の先生の授業を観ることで他校での取り組み方や授業の作り方など参考になるものが多く、今後の授業に取り入れていきたいと考えた。

<ワークショップ>



2 これまでの10年を振り返って

この10年の間、初任者研修、授業力向上研修(3年研)、5年経験者研修、実践的指導力向上研修(8年研)に加えて免許更新講習もあり、2年に1度は研修していたため研修するのが当たり前のようになってきている。初めて教諭として赴任した五城目高校では、教諭としての仕事が楽しくて何事にも前向きに取り組むことができていた。初めての担任として、生徒と真正面から向かい合った4年間だった。担任として未熟な私を学年主任や学年部の先生がいつも支えてくれていた。そのおかげで、初めての進路指導も滞りなく行うことができ、無事に卒業させることができた。秋田商業高校に赴任して県立校と市立校の違いに悩みながらも7年が経った。今まで勤務した学校は講師時代も含めて9校あるが、秋田商業高校が最も長く勤務する学校になった。本校では学級経営や教科指導に取り組む一方、実業高校に勤務したいと考えていたため、生徒と一緒に商業科目の資格取得に臨むなど自教科以外のことにも挑戦してきた。

採用されてから11年目となった今年度、中堅教諭等資質向上研修が行われたが、コロナ禍ということでいくつかの研修が所属校で行われたり、授業研修が中止になったりするなど異例ずくめであった。4月に行われる予定であった連絡協議会も急遽中止になり、何をどう始めたらいいのか分からぬまま過ごしたこともあり、研修の全てが後手に回ってしまったと感じている。しかし、周囲の先生方の協力があり、研修を終えることができる。これまでのことを振り返ると何かあったときには必ず周囲の先生と協力して乗り越えてきた。これからも何かあったときには多くの先生と協力し、組織的に対応していきたいと考えている。そして、研修で学んだことを今後の教育活動に活かし、さらに意欲と向上心を持って取り組んでいきたい。

第1学年 数学科数学Ⅰ 学習指導案

日 時 令和3年6月9日(水)
場 所 1年C組教室
指 導 者 秋田商業高等学校 佐々木 絵里
使 用 教 科 書 新版数学Ⅰ(実教出版)

1. 単元名 1章 数と式

2. 単元の指導目標 平方根を含む式の計算のきまりを理解させ、効率よく計算できるようにする。分母の有理化の意味を理解させ、乗法公式を利用して有理化できるようにする。

3. 単元と生徒 男子16名・女子23名の計39名のうち特に数学を苦手としている生徒3名を除く36名のクラスである。上記の3名以外にも数学を苦手としている生徒は数名いるが、一生懸命取り組んでいる。

4. 指導と評価の計画 2節 実数 2 根号を含む式の計算 2時間(本時2/2)

関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
分母を有理化することのよさを考えようとし、分母の有理化を理解しようとする。	分母の計算に乗法公式を利用できる。	分母が根号を含む式である分数の分母の有理化ができる。	分母を有理化することの意味を理解している。

5. 本時の計画

(1) ねらい 分母を有理化することの良さを理解し、乗法公式を利用して分母が根号を含む式である分数の分母の有理化ができる。

(2) 展開

	○指導内容・◎学習活動	指導上の留意点	☆評価の観点・★評価方法
導入 5分	◎中学校での既習事項の $\frac{1}{\sqrt{a}}$ などの分母の有理化を確認する。	・分母に同じ数をかけることを確認する。	
展開 40分	◎分母を有理化するよさを班で話し合う。 ◎班の代表者が発表する。 ○例題2 $\frac{1}{\sqrt{5}+\sqrt{3}}$ の分母を有理化する問題を提示する。 ◎練習11 解く。 ◎練習11 を発表する。	発問：なぜ、分母を有理化するのだろうか。 ・机間指導で話し合いの状況を判断し、全体に声かけを行う。 ・生徒の考えを失敗例も含めて紹介する。 ・乗法公式を利用できることを確認する。 ・机間指導で問題につまずいている生徒に説明する。	☆乗法公式を利用して分母の有理化ができる。(数学的な技能) ★発表や机間指導中にノートを見る。
まとめ 5分	◎今日の授業をノートにまとめる。	・今日の授業で気づいたことをノートにまとめさせる。	

II 校内年間研修報告書

秋田市立秋田商業高等学校

研修教員	佐々木 絵 里（数学・１年F組）	校 長	瀧 澤 徳 彦
------	------------------	-----	---------

実施月日 (曜日)	研 修 内 容	領域	研修の方法・形態	時間割内・放課後の別		研修 時間	研修指導者
				内	外		
6	1(火) 教育目標の達成と学校経営について 3(木) 特定課題研究の進め方 10(木) 高校教育の現状と課題について 14(月) 教材研究と指導案の作成(1) 15(火) 授業実践に基づく授業研究(1) 17(木) 授業参観と助言 29(火) PTA・地域との連携について	マ 特 マ 教 教 教 マ	一般研修 一般研修 一般研修 授業研究 授業研究 授業指導 一般研修	2 1 2 1 1 1 2	 1 1 1 1 	2 2 2 2 2 2 2	校長 研修主任 教頭 数学科主任 校長・数学科主任 教務主任（若） 総務主任
7	8(木) 教育法規について 21(火) 教材研究と指導案作成の助言	マ 教	一般研修 授業指導	1 	1 2	2 2	教頭 商業科主任（若）
8	17(火) 選択研修のまとめ 19(水) 学年経営および個人面接に基づく研究 23(月) 教材研究と指導案の作成(2) 24(火) 教材研究と指導案作成の助言 31(火) 授業実践に基づく授業研究(2)	選 マ 教 教 教	一般研修 一般研修 授業研究 授業指導 授業研究	 1	2 2 2 2 1	2 2 2 2 2	校長 学年主任 数学科主任 商業科主任（講） 数学科主任
9	16(木) 教育課程の編成・教務内規について 24(金) 部活動・生徒会活動に関する事例研究	マ 教	一般研修 一般研修	 2	2 1	2 3	教務主任 特別活動主任
10	11(月) 保健室利用の実態について 25(月) 授業参観と助言	生 教	一般研修 授業指導	2 1	 1	2 2	養護教諭 教務主任（講）
11	1(月) 授業参観と助言 4(木) 道德教育指導計画の作成について 17(水) 教材研究と指導案の作成(3) 18(木) 授業実践に基づく授業研究(3) 29(月) 教材研究と指導案の作成(4)	教 教 教 教 生	授業指導 一般研修 授業研究 授業研究 授業研究	1 2 2 2 2	1 1 1 	2 2 2 2 2	教頭（若） 道德教育推進委員長 数学科 数学科主任 数学科主任
12	7(火) 授業実践に基づく授業研究(4)	教	授業研究	1	1	2	数学科主任
1	13(木) 進路指導の現状と課題について 17(月) 教材研究と指導案の作成(5) 24(月) 特定課題研究のまとめ	基 教 特	講話→一般研修 授業研究 一般研修	2 2 	1 2	3 2 2	進路指導主任 数学科主任 道德教育推進委員長
2	14(月) 授業実践に基づく授業研究(5) 18(金) 特定課題研究の発表	教 特	授業研究 一般研修	1 	1 1	2 1	数学科主任 校長以下全員

実施日数 合 計	研修方法・形態別の研修日数（時間数）				時間割内研 修時間計(a)	放課後研修 時間計(b)	研修時間 合計(a+b)
	講話	授業研究	授業指導	一般研修			
29	1 (2)	10 (20)	5 (10)	14 (29)	32	29	61

選 択 研 修 報 告 書

所 属 校	秋田商業高等学校	職・氏名	教 諭 佐々木 絵里
研 修 先	秋田県動物愛護センター ワンニャピアあきた		
研 修 期 間	令和 3 年 8 月 2 日 (月) ～ 令和 3 年 8 月 4 日 (水)		
1 研修の概要 8月2日(月) 8:30～ 8:40 朝礼 8:45～10:30 飼養管理 10:45～12:00 業務説明 13:00～15:30 「命を大切にする心を育む教室」概要説明 15:30～17:15 事務作業・飼養管理 8月3日(火) 8:30～ 8:40 朝礼 8:45～ 9:45 飼養管理 10:00～11:20 施設見学・会場設営 11:30～12:10 猫の散歩・譲渡申込手続き見学 13:00～15:15 命を大切にする心を育む教室 15:30～17:15 飼養管理 8月4日(水) 8:30～ 8:45 朝礼 8:45～ 9:25 飼養管理 9:30～10:30 移動 10:30～11:30 動物取扱責任者講習会場準備 12:30～13:30 動物取扱責任者講習受付 13:30～15:00 動物取扱責任者講習(三種町) 15:00～15:30 片付け 15:40～17:15 移動・あいさつ			

2 研修の成果

今回の研修では他業種に対する見識を広げるとともに、実際に体験することで新しい知識を取り入れ教員としての資質を向上させることが目的だった。私は幼い頃から動物が好きで、以前からこの研修の機会に動物に関わる仕事を体験してみたいと思っていた。なぜなら、命の重さは人も動物も変わらないにもかかわらず、毎年殺処分される動物が全国で後を絶たず、動物愛護の観点から私が教員としてできることがないか知りたかったからだ。

1日目の業務説明ではセンターに獣医師が少なくとも6名も勤務していることを知り、今まで獣医師は個人開業だけではなく公務員として働くことができることを知らなかったため非常に驚いた。しかし、職員の方々の話を聞くと、なかなか獣医師になり秋田県の職員となる若者が減っていることに困っているということだった。また、保護や殺処分されるのは犬よりも猫が多かった。なぜなら、犬は市町村に届け出が必要なのに対し、猫は届け出をする必要もなくリードをつけず自由に外出させる飼い主が多数いるからである。犬の届け出が必要な理由として、人間がかかった場合ほぼ100%で死に至る犬から感染する狂犬病を予防するためだと伺った。保護された動物の譲渡の件数もコロナウィルス感染拡大の影響があり、例年より減少しているということで非常に残念だった。

2日目は午後に『命を大切にすることを育む教室』に井川義務教育学校の生徒が50名ほど訪れるということで、準備・参観した。パワーポイントを活用しクイズ形式で少しずつ進んでいったが、子どもたちは私が考えているよりも多くのことを知っていた。また、友達同士でお互いの心音や大型犬の心音を聞くなど人間も動物も生きているということを実際に体験して学んでいた。子どもたちは様々なことに素直に反応しており、動物に対しての知識や愛情を育成するために大変良い機会だと思った。

3日目は主に動物取扱責任者講習の補助を行った。動物愛護管理法が一部改正されたことによって事業者は変更点や提出書類などを確認するため必ず受講しなければならず、動物の販売や繁殖などをするためには動物に対する正しい知識が必要であり、このような講習があることを初めて知った。

また、3日間を通して譲渡予定猫の飼養管理を行った。猫を飼ったことがなかったため、掃除の仕方も触れ方も分からなかったが、職員の方に教えていただきできるようになった。しかし、職員の勤務時間が17時15分までということもあり、朝の掃除・給餌はなかなか忙しく人手が足りていないのが現状である。この作業では、成長の段階によって食事の種類を変えたり、給餌用の食器を煮沸消毒したりするなど職員の方々は動物たちの健康管理や衛生管理に精一杯努めていた。

3日間という短い期間ではあったが、興味がある仕事を体験することができ、初めて知ることや学ぶことも多く、本当に貴重な研修だった。私が動物愛護のためにできることは少ないが、教員として生徒にふるさとで生きる素晴らしさや命の大切さを伝え、周囲の人や動物に対し思いやりの心を持って生活できるような生徒の育成にむけ精一杯支援していきたいと思う。

(A4判1～2枚程度)

特 定 課 題 研 究 レ ポ ー ト

所 属 校	秋田市立秋田商業高等学校	職・氏名	教 諭 ・ 佐々木 絵里
研 究 分 野	A：本県教育課題に関する研究 B：マネジメントに関する研究 C：生徒指導に関する研究 D：教科等指導に関する研究 E：道徳教育等に関する研究 F：特別活動に関する研究 G：総合的な学習の時間に関する研究 H：特別支援教育に関する研究 I：その他		
研 究 テ ー マ	高等学校における道徳教育の在り方について		
1 研究の概要 中堅教諭等資質向上研修Ⅳ期において道徳教育について学ぶ機会があった。そこで、初めて本校の道徳教育全体計画を見た。道徳教育全体計画について学んだことを活かし、中学校における道徳の指導内容項目を活用して本校の道徳教育全体計画をよりよくしたいと考えた。また、本校で道徳教育全体計画を見たことがある先生は少ないと思い、この研修をきっかけに一度は目を通す機会になればいいと考えた。そして、道徳教育が高校生に影響する割合がどれくらい大きいのか研修を受けながら興味がわき、本校における問題行動も道徳性と関係しているのではないかと考えた。他校での実践例を踏まえ、各行事の際に道徳性を意識することで生徒の取り組み方の違いを検証したいと考えた。高校教育が道徳教育の最後の砦だと伺い、高校を卒業した後も生徒にとって有益なものになるようにしたいという思いからこのテーマを選んだ。 2 成果と課題 各行事の際に独自の『道徳目標設定・振り返りシート』を一年生全員に記入してもらい、集計した。その結果、高めたい内容項目の上位は(1)球技大会では⑧友情,信頼74.3%、⑮よりよい学校生活,集団生活の充実33.3%、⑥思いやり,感謝28.8%、(2)芸能発表会では⑧友情,信頼69.0%、⑮よりよい学校生活,集団生活の充実46.8%、③向上心,個性の伸長38.0%、(3)100周年記念式典・講演会では⑦礼儀55.4%、⑮よりよい学校生活,集団生活の充実26.3%、⑯郷土の伝統と文化の尊重,郷土を愛する態度18.3%であった。高めたい内容項目から学校生活をよりよくしようという気持ちが覗え、行事の特性によって高めたい道徳性を考え選択していることがわかった。それぞれの行事で道徳性を高めた言動には(1)「仲間と協力し、互いに認め合い競技に取り組んだ」(2)「クラスで揉めてしまうこともあったが、しっかり話し合うことで団結力が高まった」(3)「秋田商業の歴史を作ってきた先輩方に感謝と尊敬の意を持って取り組むことができ、その歴史を生かしてよりよい学校づくりをしたいと考えることができた」等、自らの行動を振り返ることができていた。高めたい道徳性を意識して行動したかの問いには平均して98.6%、目標にした道徳性が高まったかの問いには97.7%の生徒が「はい」と答えた。このようにほとんどの生徒が行事ごとに各々目標を設定し、それを意識して行動することで道徳性が向上したと考えている生徒が多かった。今後もこのように意識的に行動することで、道徳性を高めていくことができると考えられる。ただし、目標を設定している場合としていない場合を比較することが難しいため、今回の研究によって言動に変化があったかまでは分らなかった。 もう1つの研究として来年度の道徳教育全体計画の原案を作成した。道徳教育全体計画をよりよくするために加除訂正を加えて、中学校における22個の指導内容項目を当てはめた。来年度の計画を作成するためには各教科や分掌、学年部からの協力を得て、目標や内容項目を新たなものにしなければならない。多くの教員が道徳教育全体計画に関わることで、教員側が意識的に指導できると考えられる。今後も全ての教育活動が道徳教育に繋がることを意識して指導に励んでいきたい。			

道徳目標設定・振り返りシート

本校が目指す道徳性

「高い規範意識と他者を思いやる豊かな心をもつ」

学年		クラス		番号		氏名	
----	--	-----	--	----	--	----	--

1 行事が始まる前に記入すること

(ア) 参加行事

--

(イ) この行事に参加することで、あなたが高めたい道徳性は何ですか？

裏の22個の『道徳内容項目』の中から選び、番号を記入しましょう。(複数回答可)

--

(ウ) この行事では、どのような言動が(イ)で選んだ道徳性の成長につながると感じますか？

--

2 行事が終わってから記入すること

(エ) この行事で(イ)(ウ)のことを心がけて参加できましたか？

はい

いいえ

(オ) (イ)に記入した道徳性は高まりましたか？

はい

いいえ

(カ) (オ)で「はい」と答えた人に聞きます。

この行事において、あなたのどんな言動がその道徳性を高めたと感じますか？

--

(キ) (オ)で「いいえ」と答えた人に聞きます。

この行事において、どのようにすればその道徳性が伸ばせたと感じますか？

--

令和 3年度 秋田商業高校 道徳教育全体計画

諸法規 日本国憲法 教育基本法・学校教育法 学習指導要領		校訓 感謝 勤勉 鍛錬		教務部	(1)学習意欲を引き出すための工夫と実践を行う
					(2)商業高校として適切な教育課程として改善する
各教科・科目		教育目的 義務教育で培った教育の基礎の上に、心身の発達及び進路に応じて高度な普通教育及び商業教育を施す		進路指導部	将来の生き方、生活の仕方を考え、主体的に自己の進路を決定し、志望を達成させる
国語	社会生活で活用できる国語力を養う			生徒指導部	(1)基本的生活習慣を身につける指導に努める
地歴公民	基礎的・基本的事項を定着させ、社会的事象に関心をもたせるとともに、社会性を養う	教育目標 (1)後期中等教育段階として求められる一般的な教養、教科商業が求める専門的な知識、技術及び技能を習得させる			(2)自主・自律の精神を養い、他を思いやる豊かな心と態度の育成に努める
数学	(1)生徒一人一人の基礎力の定着と向上を図る (2)在り方生き方に関わる指導	(2)建学の精神である感謝・勤勉・鍛錬の意味を具現化させながら、豊かな人間性、創造性、健やかな身体を養う (3)社会事象について広く深い理解と健全な批判力を養う			(3)地域や家庭との連携を図りながら、相互の協力態勢を整える
理科	(1)調査・観察・実験を重視した授業を展開する (2)新課程における指導法を研究する	道徳教育の目標 高い規範意識と他を思いやる豊かな心をもつ生徒の育成		特別活動部	(1)心身の発達、個性の伸張、集団の一員としての資質を育む (2)自主的・主体的な生活態度を育成し、たくましく生きる力を育む
保健体育	(1)授業に積極的に臨む態度を育成する (2)役割分担し、課題を見つける能力を育成する	特別活動の目標 ホームルーム活動 ホームルーム活動においては、生徒相互の人間関係を密にするとともに、生徒の自発的な活動を支援することにより、ホームルーム内の諸問題の解決を図り、健全な生活態度の形成に資する態度を養う		保健部	(1)健康的な生活実践のための態度と習慣を育成する (2)校内外環境美化活動を推進する
芸術	創造的で個性豊かな表現を目指す	1学年 (1)的確な自己理解をさせる (2)高校生としてあるべき生活態度について話し合い、実践できるようにする (3)的確な進路選択のために自ら調べたり、話し合ったりできるようにする			
英語	積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する	2学年 (1)一人一人の生徒が自分の適性をに応じた進路を決定し、その達成のために実力をつけるようにする (2)学校の中堅を自覚し、すべての場で積極的に参加できるようにする		学年目標	
家庭	基礎的・基本的な知識・技術を習得させ、生活に生かす実践的態度を育てる	3年生 (1)適切な進路決定を決定するために職業や社会について考え、よりよい生き方とは何かを追求させる		1学年	(1)基本的生活習慣の確立 (2)学習習慣の定着 (3)集団における個の伸長
商業	(1)ビジネスの基礎的な知識と技能を習得させる (2)資格取得を積極的にさせ、高度な資格にも挑戦する意欲を育てる			2学年	(1)様々な活動に積極的に取り組む (2)知識を活用し、主体的に学習する (3)共通理解に基づく進路指導
				3学年	(1)学校の社会的責任を果たそう (2)自分たちの歴史的な役割を果たそう (3)将来いかなる社会を望むかを語ろう (4)後世にすばらしい秋商を残そう
				総合的な探求の時間(ビジネス実践)のねらい 「社会人基礎力」を身につける (1)前に踏み出す力の育成 (2)考え抜く力の育成 (3)チームで働く力の育成	
				地域との連携 保護者、地域との連携を深める活動をし、広報活動を活発化する	
				同窓会(雄水会)との連携 OBやOGを活用した講演会や授業を企画し、キャリア教育、道徳教育を推進する	

令和〇年度 秋田商業高校 道德教育全体計画(改訂版)

秋田市立秋田商業高等学校

諸法規		校訓		各分掌	
日本国憲法 教育基本法・学校教育法 学習指導要領		感謝 勤勉 鍛錬		教務	(1)学習意欲を引き出すための工夫と実践を行う③
		基本目標			(2)商業高校として適切な教育課程として改善する④⑤
各教科・科目		義務教育で培った教育の基礎の上に、心身の発達及び進路に応じて高度な普通教育及び商業教育を施す		進路指導	将来の生き方、生活の仕方を考え、主体的に自己の進路を決定し、志望を達成させる⑫⑬
国語	社会生活で活用できる国語力を養う⑨			生徒指導	(1)基本的生活習慣を身につける指導に努める②
地理歴史	基礎的・基本的事項を定着させ、社会的事象に関心をもち、社会性を養う⑩⑫	教育目標			(2)自主・自律の精神を養い、他を思いやる豊かな心と態度の育成に努める①⑥
数学	(1)生徒一人一人の基礎力の定着と向上を図る⑤ (2)在り方生き方に関わる指導②	(1)後期中等教育段階として求められる一般的な教養、教科商業が求める専門的な知識、技術及び技能を習得させる (2)建学の精神である感謝・勤勉・鍛錬の意味を具現化させながら、豊かな人間性、創造性、健康やかな身体を養い、志と使命感を育む (3)社会事象について広く深い理解と健全な批判力を養う			(3)地域や家庭との連携を図りながら、相互の協力態勢を整える⑭⑯
理科	(1)調査・観察・実験を重視した授業を展開する⑮ (2)新課程における指導法を研究する⑯			特別活動	(1)心身の発達、個性の伸張、集団の一員としての資質を育む③⑮
保健体育	(1)授業に積極的に臨む態度を育成する① (2)役割分担し、課題を見つける能力を育成する⑧	道徳教育の目標			(2)自主的・主体的な生活態度を育成し、たくましく生きる力を育む①
芸術	創造的で個性豊かな表現を目指す③⑭	高い規範意識と他を思いやる豊かな心をもつ生徒の育成		保健	(1)健康な生活実践のための態度と習慣を育成する② (2)校内外環境美化活動を推進する⑮
英語	積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する⑮⑯	特別活動の目標			学年目標
家庭	基礎的・基本的な知識・技術を習得させ、生活に生かす実践的態度を育てる②	ホームルーム活動⑧⑨⑩⑮		1学年②③	(1)基本的生活習慣の確立 (2)学習習慣の定着 (3)集団における個の伸長
商業	(1)ビジネスの基礎的な知識と技能を習得させる⑦⑬ (2)資格取得を積極的にさせ、高度な資格にも挑戦する意欲を育てる④	生徒相互の人間関係を密にするとともに、生徒の自発的な活動を支援することにより、ホームルーム内の諸問題の解決を図り、健全な生活態度の形成に資する態度を養う			2学年①⑫
異校種との連携⑥⑫⑬		1学年①②②② (1)的確な自己理解をさせる (2)高校生としてあるべき生活態度について話し合い、実践できるようにする (3)的確な進路選択のために自ら調べたり、話し合ったりできるようにする		3学年⑫⑯	
(1)中学生体験入学やキッズビジネスタウンでは、中学生や小学生とふれあうことで、年少者への対応の仕方や敬意を示す態度を養う (2)進路ガイダンスや高大連携事業等では、自己の生き方・在り方を見つめ、職業人としての倫理観を養う		2学年①③ (1)一人一人の生徒が自分の適性をにに応じた進路を決定し、その達成のために実力をつけるようにする (2)学校の中堅を自覚し、すべての場で積極的に参加できるようにする			総合的な探究の時間(ビジネス実践)のねらい「社会人基礎力」を身につける ③⑫⑬⑯
		3年生③⑬ 適切な進路決定を決定するために職業や社会について考え、よりよい生き方とは何かを追求させる		(1)前に踏み出す力の育成 (2)考え抜く力の育成 (3)チームで働く力の育成	
		部活動①③⑪⑮		家庭・地域との連携⑫⑭⑯	
		(1)心身の鍛錬を図り、個性の伸長を図る (2)自主性を育てるとともに、集団生活において協力していく態度を養う		保護者、地域との連携を深める活動をし、広報活動を活発化する	
				同窓会(雄水会)との連携⑬⑯	
				OBやOGを活用した講演会や授業を企画し、キャリア教育、道徳教育を推進する	

<中学校における教科「道德」の指導内容項目>

- A 主として自分自身に関すること ①自主、自律、自由と責任 ②節度、節制 ③向上心、個性の伸長 ④希望と勇気、克己と強い意志
⑤真理の探究、創造
- B 主として人との関わりに関すること ⑥思いやり、感謝 ⑦礼儀 ⑧友情、信頼 ⑨相互理解、寛容
- C 主として集団や社会との関わりに関すること ⑩遵法精神、公德心 ⑪公正、公平、社会正義 ⑫社会参画、公共の精神 ⑬勤労
⑭家族愛、家庭生活の充実 ⑮よりよい学校生活、集団生活の充実
⑯郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度
⑰我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度 ⑱国際理解、国際貢献
- D 主として生命や自然、崇高な物との関わりに関すること ⑲生命の尊さ ⑳自然愛護 ㉑感動、畏敬の念 ㉒よりよく生きる喜び

高等学校家庭科授業の充実

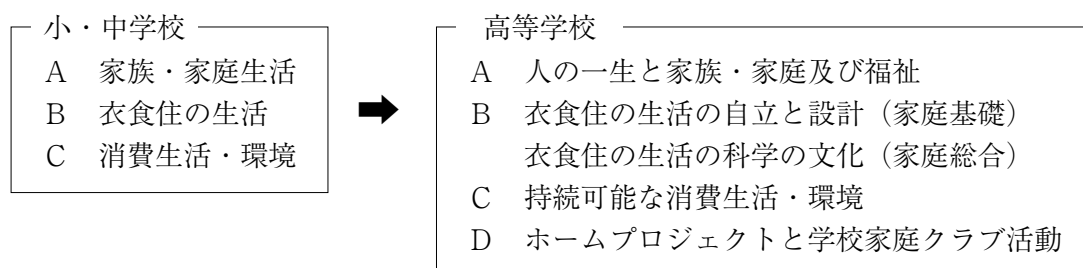
家庭科 佐々木 ひな子

1. 日 時 令和3年9月30日（木）10:00～16:15（オンライン開催）
2. 対 象 高等学校教諭12名
3. 目 標 学習指導要領の要点を押さえ、目標及び内容を具現化した授業づくりのための実践力を養う。

4. 内 容

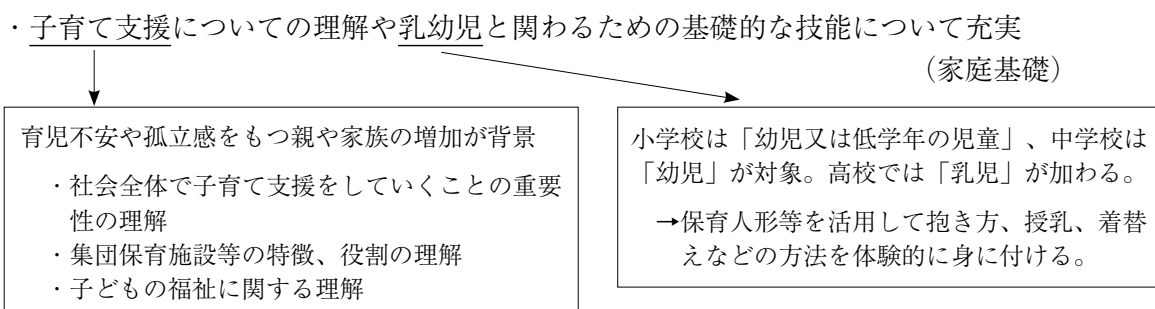
- (1) 社会の変化等に対応した「各内容」の改善点について

①小・中・高の系統性



	空間軸	時 間 軸
小 学 校	自己+家庭	これまでの生活や現在の生活
中 学 校	自己+家庭+地域	これからの生活を展望した現在の生活
高 等 学 校	自己+家庭+地域+社会	小・中学校に加えて生涯を見通した生活

②少子化の進展への対応



③高齢社会の進展への対応

- ・高齢者の尊厳と介護についての理解（認知症含む）
- ・生活支援に関する基礎的な技能について充実（家庭基礎）

↓

車椅子の操作、移動・移乗の介助、食事・着脱衣の介助

④食育の一層の推進、グローバル化への対応

- ・和食、和服及び和室など、日本の伝統的な生活文化の継承・創造に関する内容の充実

↓

・一汁三菜の献立構成
・おいしさの構成要素（だし）

和服と洋服の構成（平面・立体）と被服材料の違い

・各地に伝わる伝統的な衣文化
・床の間や畳、縁側、土間等の日本建築の特徴
・気候風土に応じた各地域の家づくり

⑤持続可能な社会の構築への対応

- ・家計管理について理解することを明記
- ・不足の事態に備えたりリスク管理に関する内容の充実
- ・消費者被害の未然防止に資する内容の充実
- ・成年年齢の引き下げを踏まえ、消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう契約の重要性や消費者保護の仕組みに関する内容を充実

(2) 主体的・対話的で深い学びを踏まえた授業改善

①基本の考え方

子どもたちに「生きる力」を育む
目指すのは「何ができるようになるか」
大切なのは、「何を学ぶか」だけではない



そのために…

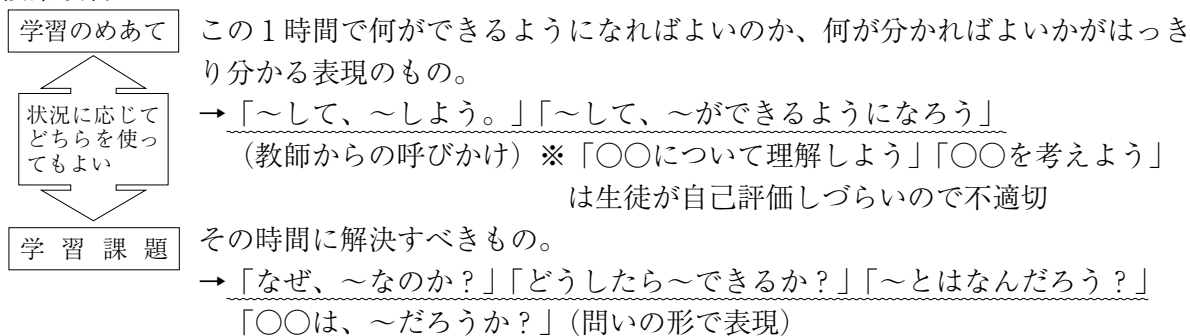
- 「主体的な学び」になっているか
- 「対話的な学び」になっているか
- 「深い学び」になっているか

という視点から、授業をよりよくしていく

②どのような授業にしていくか？

- ・自分の学びを振り返り、次の学びや生活に生かす力を育む授業に
- ・一つ一つの知識がつながり、「わかった！」「おもしろい！」と思える授業に
- ・見通しをもって、粘り強く取り組む力が身に付く授業に
- ・周りの人たちと共に考え、学び、新しい発見や豊かな発想が生まれる授業に

③授業改善のポイント



導入では・・・「問題状況の把握」が重要

展開では・・・「学び合い」によって、説明による構造化、多様な情報収集、関連付けによる知の創出を実現。「自由気ままな意見交換」は駄目。

まとめでは・・・ポイントは知識の確認（単元前半）、知識の関連付け・自己変容への気付き（単元後半）

(3) 身に付けた資質・能力の活用・発揮を意識した題材構成

①内容相互の関連

例 一人暮らしの部屋探し（内容B「衣食住の生活の自立と設計」）

+

賃貸借契約（内容C「持続可能な消費生活・環境」）

②小・中・高等学校の内容の系統性（学びのつながり）

例 部屋探しの手順を知り、情報収集の注意点を見つける。

→「オンライン内見」のデメリットを、小中学校で学んだ住生活の知識も活用しながら探す。

③高等学校家庭科の指導においてICTを活用する際のポイント

・高等学校家庭科で育成を目指す資質・能力とICT活用の関係性を理解する。

・一連の学習過程の中での効果的なICT活用の関係性を理解する。

例 動画視聴、アンケート実施、ウェブ会議システムによる討論、個に応じた発展的学習資料の提示、表計算ソフトによる調査結果の分析、プレゼンテーションソフトによる取組の発表

(4) 学習評価

学習評価における妥当性と信頼性を高めるには、具体的な評価規準が必要。

→「本時の目標」の達成度を測る際には、ねらいにどれだけ迫ることができたかを具体的な評価規準をもって生徒の変容（具体的な姿）として見取ることが求められる。

5. 感想等

新学習指導要領において、家庭科（家庭基礎・家庭総合）の内容C「持続可能な消費生活・環境」の中で「資産形成」について扱うことが追加され、話題となっている。

家計管理については、収支バランスの重要性とともに、リスク管理も踏まえた家計管理の基本について理解できるようにする。その際、生涯を見通した経済計画を立てるには、教育資金、住宅取得、老後の備えの他にも、事故や病気、失業などリスクへの対応が必要であることを取り上げ、預貯金、民間保険、株式、債券、投資信託等の基本的な金融商品の特徴（メリット、デメリット）、資産形成の視点にも触れるようにする。

「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 家庭編」では上記のように記載されており、秋田県では高等学校教育課程研究協議会や高等学校教育研究会家庭部会において計画的に研修を進め、新課程の実施に備えてきた。

一部の人のにとって、このことは「なぜ家庭科で教えるのか」といった疑問や驚きで捉えられたようであり、「高校家庭科で投資を教える狙いとは 教員には戸惑いも」（毎日新聞）、「来春から高校で必修の『金融教育』教える先生『家庭科』に疑問」（SankeiBiz）といった気になる見出しとともに報じられることも増えてきた。中には、「家庭科の教師の能力では無理。数学か公民の教師に教えさせるべき。」のような偏見に基づいた論調の記事もある。そのような記事のほとんどにおいて、新学習指導要領の基本理念である「社会に開かれた教育課程」については触れられていない。

- (1) 社会や世界の状況を幅広く視野に入れ、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を持ち、教育課程を介してその目標を社会と共有していくこと。
- (2) これからの社会を創り出していく子供たちが、社会や世界に向き合い関わり合い、自らの人生を切り拓いていくために求められる資質・能力とは何かを、教育課程において明確化し育んでいくこと。
- (3) 教育課程の実施に当たって、地域の人的・物的資源を活用したり、放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図ったりし、学校教育を学校内に閉じずに、その目指すところを社会と共有・連携しながら実現させること。

「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（中教審答申）」（平成28年12月21日）

今年度、秋田市教育委員会指導主事等学校訪問の特定授業を計画するにあたり、学校教育の目標の共有、地域の人的資源の活用、そして社会教育との連携という視点から、「勝平地区包括支援センター シンシア」にご協力いただき、「認知症サポーター養成講座」を行った。介護支援専門員、保健師といった高齢者の生活支援を行うプロが発信したことを学習指導要領との関連を図りながら学習活動に取り入れるという作業を行い、授業と地域、社会を結びつけていくための教師としての力が「社会に開かれた教育課程」の実現には不可欠であると改めて認識することができた。

金融教育についても、すでに金融庁や金融機関等による講師の派遣や教材の提供が行われている。学習指導要領において定められているのは、「金融商品の活用方法を学ばせ、資産を増やそうと仕向けること」ではなく、「金融商品の特徴（メリット・デメリット）を学ばせ、資産形成にも目を向けさせること」であることをふまえながらこれらの資源を活用していくと考えれば、家庭科での金融教育はそれほど憂慮すべきことではないと思う。

中教審の答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」において、教職員は「主体的な学びを支援する伴走者」と表現されている。本研修講座は、「良き伴走者」としてどのような力量が必要なのか、そして具体的にこれから何をすべきか、改めて考える機会となった。

学校組織マネジメント研修講座

商業科 小林 克

本年度の「学校組織マネジメント研修講座」は6月29日(火)はオンラインで、11月18日(木)・19日(金)は秋田県総合教育センターで以下のような目標、内容で開催された。

研修の目標

学校組織マネジメントに関する内容や学校運営上の課題解決に向けての方策等について、主体的・対話的に研修を深め、教育実践の中核を担う教員として資質向上を図る。

I 本県教育課題とミドルリーダーへの期待（講話）

1 本県教育課題

(1) 学習指導要領改訂（国の教育課題、方向性）

- | | |
|-------------------|-----------------|
| 子どもたちが生きる社会の変化と課題 | ・ 急激な少子高齢化 |
| | ・ グローバル化の進展 |
| | ・ 絶え間ない技術革新 |
| | ・ 情報化の進展 |
| 改訂の特徴を表すキーワード | ・ 主体的・対話的で深い学び |
| | ・ 社会に開かれた教育課程 |
| | ・ カリキュラム・マネジメント |

(2) 本県教育の話題、方向性

本県教育において、全教育活動を通して取り組む、最重点の課題

①地域に根ざしたキャリア教育の充実

- ・ キャリア教育のねらいの共有と成果の発信
- ・ 資質・能力の育成につながる体験活動の充実
- ・ キャリア発達を一層促すための学校間・校種間連携の推進

② “「問い」を発する子ども”の育成

- ・ 様々な教育活動における意図的な手立ての工夫
- ・ 「秋田の探究型授業」の基本プロセスを機能させた授業づくりの充実
- ・ 「問い」を発するための基盤となる言語活動の充実

(3) 大量退職、大量採用時代の課題

2 ミドルリーダーへの期待

(1) ミドルリーダーの役割

主任級教職員に期待される資質・能力

- ・ 使命感と責任感
- ・ 学校経営への参画意識と分掌の企画・運営
- ・ 学校を活性化させる建設的な提案、働きかけ
- ・ 同僚教職員の指導・育成
- ・ 地域や保護者との連携、外部との折衝
- ・ 授業力、学習指導要領の理解
- ・ 各種研修会への積極的な参加、研修会の企画・運営
- ・ 体験活動や教科横断的な視点からの学習活動の構想
- ・ 生徒、教職員とのコミュニケーション
- ・ 問題行動の未然防止につながる生徒指導の理解と実践
- ・ 自校種における道徳教育への理解
- ・ 危機管理意識、各種災害時の対応の理解

(2) ミドルリーダーに期待する取組

それぞれの立場から、教育目標の実現を目指し、校務分掌との関連を明確にし、具体的な施策を提案すること

Ⅱ 学校組織マネジメントとミドルリーダーの果たす役割（講義・演習）

- 1 学校組織マネジメントの必要性と背景 ー 個業から協働へ ー
- 2 学校組織マネジメントの着手ポイント
- 3 学校組織とミドルリーダーの役割

Ⅲ 学校におけるリスクマネジメント（講義・協議）

- 1 リスク、リスクマネジメントとは
 - ◎リスクの概念 ・安全を阻害する危険性のような“好ましくない影響”
・目的に対する不確かな影響“組織の目的達成を阻害するもの”
- 2 学校に求められるリスクマネジメント
- 3 リスクマネジメントの着手ポイント

Ⅳ 社会に開かれた教育課程（講義・協議・演習）

- 1 【講義】社会に開かれた教育課程について
 - 「協力」力を合わせて事に当たること
 - 「連携」互いに連絡をとりながら物事を行うこと、手をたずさえて物事をする事
 - 「協働」同じ目的のために、対等の立場で協力して共に働くこと

協力 < 連携 < 協働

- 2 【協議】学校と地域の連携・協働
 - ・日本の教育の「強み」を更に分厚くするとともに「弱み」を補う可能性
 - ・教員の多忙を解消するとともに、授業の質の向上に寄与する可能性
 - ・A I時代を見据えた「社会に開かれた教育課程」を実現する上で欠かせない基盤
- 3 【演習（模擬熟議）】秋田県の子どもたちにどのように育ってほしいか？

Ⅴ 内外環境の把握による学校の特色づくりと課題解決策（講義・演習）

- 1 学校組織マネジメント
 - 学校内外の能力や資源を開発・活用し、学校に関与する人たちのニーズと適応させながら、学校教育目標を達成していく課程（活動）
- 2 S W O T 分析とは
 - 取り巻く環境を内部環境と外部環境に区分する。そして、内部環境である内部の経営資源を「強み(Strength)」と「弱み(Weakness)」に分類し、外部環境を「機会(Opportunity)」と「脅威(Threat)」に把握し分析する手法。
- 3 S W O T 分析を活用した特色づくりと問題解決
 - S W O T 分析した結果から、わが校の外部環境の支援的要因と内部環境の強みを生かした「特色ある学校づくり」が可能となる。また、外部環境の阻害的要因と内部環境の弱みを克服する「問題解決方策」も検討できる。
- 4 リスト（演習を行うための様々なリスト）
- 5 学校における S W O T 分析の進め方
 - (1) 外部環境
 - ・外部環境要因の「客観的な特徴や事実」の把握
 - ・「客観的な特徴や事実」が自校の経営に「支援的にはたらく場合」についての検討
 - どのような効果が得られているか（得られそうか）考える

-
- ・「客観的な特徴や事実」が自校の経営に「阻害的にはたらく場合」についての検討
どのような状況が現れているか（危惧されるか）考える

(2) 内部環境

- ・内部環境要因の「客観的な特徴や事実」の把握
- ・「客観的な特徴や事実」が自校の経営に「強みとしてはたらく場合」についての検討
どのような効果が得られているか（得られそうか）考える
- ・「客観的な特徴や事実」が自校の経営に「弱みとしてはたらく場合」についての検討
どのような状況が現れているか（危惧されるか）考える

※S W O Tにおけるクロス分析

- a 【外部+】 × 【内部+】 →特色づくり
- b 【外部+】 × 【内部-】 →外部の支援的要因で、内部の弱みを克服する
- c 【内部+】 × 【外部-】 →内部の強みを生かし、積極的に外部の阻害的要因の克服を試みる
- d 【内部-】 × 【外部-】 →外部の阻害的要因と内部の弱みが結びつかないようにする
外部の阻害的要因や内部の弱みを読み替えてbやcをする

6 演習

VI 学校の課題解決に向けた組織的な取組（協議・演習・発表）

おわりに

本講座を通して、学校経営とは、教育事業体である学校において、学校づくりのビジョンと戦略を設定し、その実現のために学校経営計画を策定して、ヒト、モノ、カネ、情報などの経営資源を調達、運用して、それぞれの資源を機能させる組織をつくり、組織を通して意志決定を図り目標を達成しようとする計画的で持続的な営為である、ということを学ぶことができた。

また、内外環境をしっかりと把握することによって課題解決策を考え、特色ある学校を作っていくことは創立100周年を経過した本校にとって重要なことでもあったと感じた。

高等学校道徳教育推進研修講座（オンライン）に参加して

公民科 今

聡

1 期 日 令和3年6月10日（木）

2 研修の目標

新学習指導要領の趣旨を生かした道徳教育について理解を深めるとともに、道徳教育の実践的な推進力を身に付ける。

3 参加者

高等学校の道徳教育推進教師 19名

4 内 容

(1) 道徳教育の今日的な課題と学習指導要領の改訂（講義・演習）

秋田県総合教育センター 指導主事 加藤 昌宏

今日的な課題

与えられた正解のない社会状況

- ・グローバル化の進展
- ・情報通信技術など、科学技術の進歩
- ・かつてないスピードでの少子高齢化の進行



一人一人が、道徳的価値の自覚のもと、自ら感じ、考え、他者と対話し協働しながら、よりよい方向を目指す資質・能力を備えることが重要

こうした資質・能力の育成に向け、道徳教育は大きな役割を果たす必要がある。

まとめ

- ・小・中学校における道徳教育の方向性を確認し、とくに内容項目について理解する。
- ・生徒に、よりよい人生を送るために、選択基準・判断基準をもたせる指導を意識して、道徳教育の充実を図る。
- ・学校全体で取り組むために、道徳教育全体計画の改善を図る。

(2) 道徳教育推進のための取組（実践発表・協議）

秋田県立男鹿海洋高校 教諭 大山 香子

秋田県立秋田工業高校 教諭 湯沢 馨子

(3) 道徳教育の推進体制の充実（講義・演習・協議）

秋田県総合教育センター 指導主事 加藤 昌宏

道徳教育の充実に向けた具体的な取組についての協議では、新たな取組をやるのではなくて、今ある取組を発展させるやり方で対応できる。具体的には、アンケートを活用し変化を見て分析

をすることや、道徳教育に関する中学校からの接続状況を確認すること、道徳の内容22項目の定着を図るためにも指導案や各種行事の要項の中に入れる、などの意見が出された。

各グループの協議内容を共有する時間では、SNSによるトラブル防止や仲間作りのためにも道徳は重要だという意見が出た。現在はコミュニケーションを取ることが苦手な生徒が多いので、ソーシャルスキルを身につけることが道徳教育につながるという意見もあった。また道徳教育全体計画については、先生方が分かりやすいものに作りかえる、計画自体を使いやすく分かりやすいものに変え先生方に関心を持ってもらえる工夫をするなどの声があった。さらに、指導案や要項の中に道徳の観点を入れ道徳教育を意識できるようにする、道徳教育をやっていることを意識させる、などの意見が出た。

道徳教育推進委員として、道徳教育をどこから実践できるかを考える、実際の取組の計画を立てる、指導案や要項の中に道徳的な観点を入れるように呼びかける、などのことを実践できるように努めていきたい。

5 おわりに

本校の道徳教育の推進について

本校の道徳教育は裏面の道徳教育全体計画にもとづいて、各分掌・各教科で実施されている。道徳計画は校訓である「感謝・勤勉・鍛錬」を軸につくられている。

道徳教育は学校生活全般を通じてあらゆる場面で行われるものであり、道徳教育の目標を「高い規範意識と他を思いやる豊かな心をもつ生徒の育成」とし、各教科・科目の授業の中や総合的な探究の時間、学校行事、部活動など様々な学習の場で、教職員全員によって行われている。

その中でも本校の特色としては、総合的な探究の時間に行われるビジネス実践の活動（AKISHOP、キッズビジネスタウン、エコロジカルビジネス）を通じ、社会人としての基礎力を身につけさせるため、①前に踏み出す力の育成、②考え抜く力の育成、③チームで働く力の育成、の3点に力を入れている。

今回の研修を受けて、中堅教諭等資質向上研修講座で道徳教育について研究した佐々木絵里先生に協力してもらい、道徳教育全体計画を改良した。

授業における ICT 活用（windows タブレット編）

商業科 佐藤 大

【日時・会場】

日 時：令和3年8月17日（火） 会 場：秋田県総合教育センター

【概 要】

① windowsタブレットの活用

新学習指導要領に基づき、資質・能力の三つの柱をバランス良く育成するため、教材・教具や学習ツールの一つとしてICTを積極的に活用し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善につなげることが重要となる。また、昨今の感染症や災害の発生により、臨時休業等が行われる場合においても、ICTを活用した家庭学習により、児童生徒の学びの保障が可能になる点から、一人一台端末を効果的に活用した教育を推進していく必要がある。

② 実物投影機と電子黒板の活用

○授業での導入例

- ・タブレットで授業資料を作成する。文字入力のほかに、手書き入力を利用する。画像挿入や色分けして、見やすい物を作成する。
- ・データをグラフ化して提示する。
- ・黒板、チョークの代わりにタブレットや電子黒板で説明する。
- ・タブレットで写真や動画を撮影し、液晶TVやプロジェクタ、電子黒板に接続して教室全体に提示する。
- ・児童生徒のノートやプリントの記載を、タブレットで写真に撮り、写真上に手書き入力して添削等する。その様子を表示装置で全体に提示する。
- ・学習支援アプリ等を使用して、児童生徒のタブレットの画面を、教員タブレットで呼び出し、表示装置で全体に提示する。
- ・学習支援アプリ等を使用して、ネットワーク上で課題やワークシートを配布、回収する。
- ・タブレットで授業シートを作成する。文字入力のほかに、手書き入力を利用する。撮影した写真を挿入する。
- ・データのグラフ化や、学習内容を図に示して授業ノートにまとめる。
- ・学習支援アプリ等を使用して、ネットワーク上で授業ノートや課題、ワークシートを提出する。
- ・作成した授業ノートを持ち寄り、グループで協議する。
- ・グループで相談しながら、授業ノートを作成する。
- ・タブレットと表示装置を接続して発表する。 など

③ オンライン授業の進め方

○ネットワーク上でのデータのやりとり（学習支援アプリを使わない方法）

- i. ネットワーク上の共有フォルダに課題を置き、生徒にデスクトップなどにコピーさせる。

- ii. 生徒は自分のタブレットで課題を作成し、共有フォルダに提出（保存）する。
- iii. 提出されたシートを教師機に表示させ（スクリーンショットして画像にしても）電子黒板等に投影させる。

※画像にすれば、教師機の画面上で書き込みをしながら全体に見せることができる。生徒の課題を並べて比べることもできる。

○オンラインでの授業について

オンライン会議システムを利用し、学校（学級）が配信元となり、児童生徒個々のタブレットと双方向でやりとりができる。ほぼ全機種向けに、zoom、meet、teams、webexなどがある。学校向けに無料でできるものと有料のものがあるため、学校事情に合わせて活用することが望ましい。各システムで次のような特徴がある。

・ zoom

有料ではあるが、1対1の通信は無料で使用できる。メイン会場とサブ会場1カ所へのリモート配信が有効である。細かな設定等も容易にできる。

・ meet

Googlechromeに標準装備。G suite for education を学校として無料で使用できる。設定等はおおまかなものとなっている様子である。

・ teams

学校向けの無料サービスもある。Microsoft社のアプリが連動して使用できる。

・ webex

有料システムである。アプリをインストールしなくてもウェブサイト上で使用できる。

④ オンライン授業の実践（機器接続方法やzoomの実践）

○ビデオ撮影、zoomによる授業配信について

i. 講義をビデオ撮影する



- ii. 映像をキャプチャーし、PCに取り込む（USB入力の方が安定する様子である。）
- iii. zoomを利用して「画面の共有」を行う。※参加者全員にチェックをする。

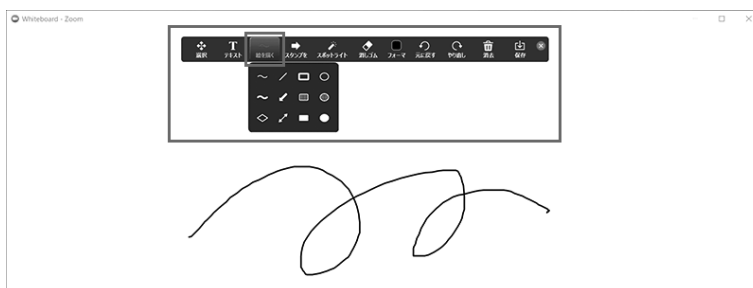


○zoomの機能のホワイトボードを使用する方法

- i .zoom「画面の共有」をする。
- ii .zoom「ホワイトボード」を選択し、共有をタップする。



- iii.画面をタップし、ペン状のアイコンが表示されるとともに描画可能になる。
テキスト入力やマーカーなども入力可能である。



【ま と め】

令和3年度以降におけるICTを活用した教育は、今後ますます必要性が増していくことが予想される。ICTを利用することで他者やデータ同士の比較が容易であるとともに、学習過程の蓄積が可能であるなどメリットが多い。タブレットや電子黒板の活用については学力向上のみならず、動機付けのために利用したり、ヒントを与えて自力解決に繋げたりすることで、学習に対する理解が深まると思われる。また、Society5.0で実現する社会において、ICT活用は必要不可欠であり、仮想と現実を上手に利用することが求められる。なお、冒頭にもあるとおり、災害時・感染症等の蔓延による自宅学習時における学びの保障を学校として行う必要があるため、教職員一人一人におけるスキルアップや、実際にICT教材（タブレット端末、PC、zoomなど）に触れて、試してみることで指導力を上げていかなければならない。

コロナ禍での活動について

～ Zoomを活用したワークショップの実践～

商業科 秋 島 亜里紗
石 崎 絵里香

I はじめに

秋田県高等学校商業教育研究会、秋田県高等学校教育研究会商業部会では、「マーケティング・ビジネス経済部会」「会計部会」「ビジネス情報部会」「総合的科目部会」の4つの研究部会を設け、計31校の会員校から145名の教員が各部会にて研究テーマを設定し研究を行っている。

II コロナ禍における本県の現状

令和元年の冬以降、日本のみならず全世界に急速に広まった新型コロナウイルス感染症により、私たちの生活様式は今までとは異なる形を求められるようになった。今まで当たり前に行われてきた教育活動にもさまざまな制限が課されるようになったことは、みなさんも約1年半の間で実感してきたことと思う。

学校活動においても多くの場面で行事が中止となり、多くの制限が求められるようになる中、就職試験や大学受験でもこれまでと同様の対面形式の試験を行わず、Zoom等のパソコンやスマートフォンの端末利用による会議システムを活用したオンライン面接が多く取り入れられるようになった。これらはコロナ禍の終息後も活用する機会が増えると考えられる。新たなアプリやサービスの活用などこれからの社会の動向にいち早く対応し、将来を見据えながら変化に対応していく力は、生徒に身に付けさせたい能力であるとともに、我々教員にも必要な力であると日々感じさせられている。

今後コロナ禍以前の状況に戻る日が来るのはいつになるか分からない。しかし、どのような状況下においても、生徒の学習活動を止めることなく新たな活動を模索し続けることが重要であると考えている。

III 研究テーマの設定

令和2年度、本県の商業教育に関する活動も軒並み中止となった中、本校主催で行う「商業科リーダーズキャンプ」についても中止が検討された。しかし、企業で在宅勤務の推奨からさまざまなソフトウェアを利用したオンライン会議が注目されるようになってきており、withコロナの流れにいち早く乗り出し、オンライン形式でリーダーズキャンプを実施することで、生徒たちが実社会に通用する即戦力として使える知識・技術を習得することに繋がるのではないかと考え、これを提案し、オンライン形式で実施することになった。

このことから、毎年本校を会場として実施しているリーダーズキャンプをオンライン形式で実施することで、オンライン形式で実施する際のシステム環境整備や通信等の確認、どのような問題点が挙げられるか、生徒たちは他校との交流や意見交換ができるのか、オンラインを活用した取組のメリットデメリット等について検証することにした。

IV リーダーズキャンプの取組

1 リーダーズキャンプについて

「リーダーズキャンプ」とは、秋田県商業教育研究会の事業として毎年実施しているものである。この事業では商業を学ぶ生徒が集まり、秋田の課題等を話し合うことで交流を深め、生徒自らが主体的に問題解決に取り組み、将来、地元地域におけるリーダーとして活躍する人材を育成することを目的として、例年1泊2日で当番校の持ち回りにより県内にて行っている。

2 実施要項および詳細

各校に配布した実施要項および詳細は次の通りである。

令和2年度 リーダーズキャンプ 実施詳細

1. 目標

- ・高校生が考えた秋田Uターンプロジェクトを考案し、実際に秋田県に提案を行う。
- ・生徒主体で協議を重ね、考えを深めることの大切さを学ぶ。
- ・Zoomの利用を通じて、オンラインミーティングの手法を学ぶ。

2. 実施形態 Zoomによるオンラインミーティング

- ・無料アカウントを使用し、ゲストとして各校が参加する。
- ・Zoomだと40分の利用制限がかかるため、40分ごとに休憩を挟む。
- ・発表もZoomの画面共有機能を使用する。

3. 日程および内容詳細

時間	内容
12/23 (水)	
10:00～10:15	○開会式 開会の言葉 会長挨拶 注意事項等
10:20～11:00	○講師紹介 株式会社アルファ 代表取締役 時田 和幸 氏 トヨタ自動車株式会社 代表 阿部 浩美 氏 各20分程度 司会による略歴紹介後、講師の先生方から自己紹介を行ってもらう。 その後、ディスカッション形式で秋田県の課題等を話してもらう。
11:10～11:40	○テーマ説明 「秋田県Uターンプロジェクト」 内容から各学校に感想を聞く。 それを受けて、テーマについて設定する。
11:50～12:30	○ワークショップ① グループ内でUターンプロジェクトを考える、討議する。
13:30～14:10	○ワークショップ② グループ内でUターンプロジェクトを考える、討議する。
14:20～15:00	○ワークショップ③ グループ内でUターンプロジェクトを考える、討議する。
15:10～15:50	○ワークショップ④ グループ内でUターンプロジェクトを考える、討議する。
16:00～	○各校で発表準備 (⑤討議の続き、スライド作成等各校で自主的に動く)

12/24 (木)	
10:00～10:40	○発表リハーサル ・オンラインでの発表手順の確認を行い、アイズプレイトの形で発表の仕方をリハーサルする。 ・アイズプレイト「タイズ」(学校別) →出題をオンライン上で表示、解答をオンライン上で表示 →各校順番にタイズを出し、自由に出答する。 ・残った時間は、グループ内で討議、発表準備
11:00～11:40	○各校発表 オンラインスライドで発表 1校10分以内 参加校数により変動
11:50～12:30	○意見交換 (各校発表の予備) 発表を聴き、各校の意見を簡潔に合う
13:30～14:10	○ワークショップ⑤ 学校同士で話し合い 秋田県への提案をまとめる (複数でも一つでも可)
14:20～15:00	○閉会式 講師 (講師の方より1人15分程度) 開会の言葉

- 講師の先生方は秋田商業高校に本校にいただき、その場で各校とオンラインでコミュニケーションをとる。
- ワークショップ中は、各生徒はグループ内、学校間、講師とのコミュニケーションは自由に行って良い。また、コンピュータ等を使用しての検索も自由に行って良い。
- ワークショップの各コマで、必ず1分程度で話し合った内容を報告する。
- 講師の先生方から状況や各校の様子を見て、自由に各学校とコミュニケーションをとる。各グループの状況を見て、質問やアイズプレイト (フレームワーク思考) を提案する。
- 教員は、生徒とコミュニケーションをとってかまわないが、生徒の意見を誘導、補助しない。生徒主体の対話、生徒の考えを重視する。

4. 秋田県への提案について

3 リーダーズキャンプ当日の様子

12月23日 (水) 1日目

Zoomを利用して本校がホストとなり、ゲストとして各校が参加している。40分の利用制限があるためこまめに休憩を挟むこととし、その度に接続を切り、時間になったら再び接続してもらう形式をとった。1日目の流れと内容は以下の通りである。

○開会式

前日まで接続・操作確認を行っていたため、各校トラブルなく開始することができた。発言や質問する際には挙手機能を使うことなどを確認した。

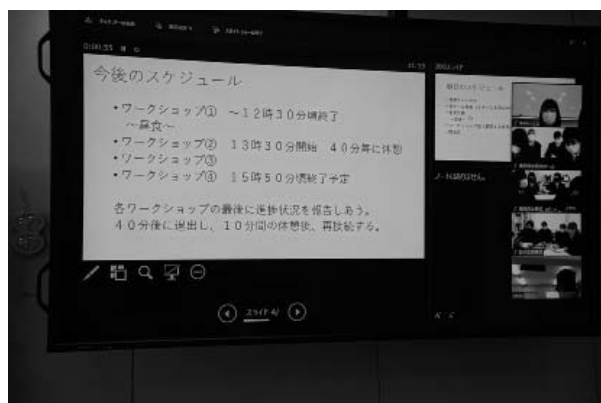
○講師紹介

講師紹介後、講師の先生方によるディスカッションをして頂いた。その内容を聞き今回のテーマに繋がる秋田県の課題や将来どのような取り組みをしてみたいかについて考えさせた。



○ミッション内容の説明

今年度のテーマを「秋田県Uターンプロジェクト」と題し、高校生のアイデアや意見をまとめ、秋田県に提案することに決定した。



○ワークショップ①～④

各校でUターンプロジェクトを考え、討議を行った。40分のワークショップ終了前に各校で話し合いの結果を全チームで共有する時間を設けたことで、新たなヒントを得るなど間延びせず実施できた。



○1日目閉会

現時点での各チームの意見を集約し発表させた。翌日までに各校で発表の練習として使用するクイズ形式のスライド作成を行うよう連絡した。閉会後も各校で交流する様子が見られた。

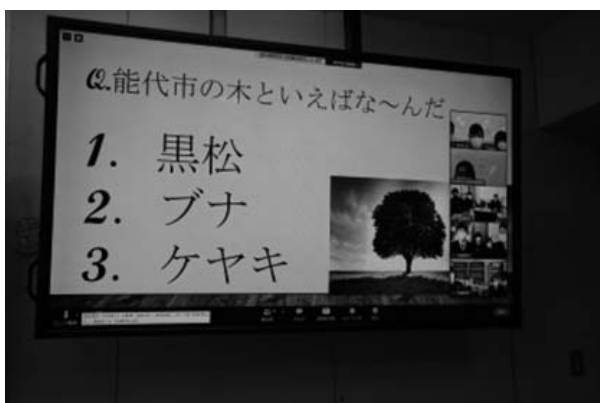


12月24日（木）2日目

2日目も接続に大きなトラブルはなく開始することができた。

2日目の流れと内容は以下の通りである。

○発表リハーサル

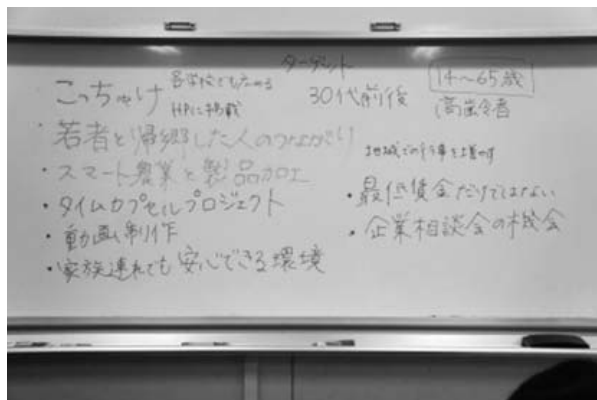


各チームでクイズを出題し、交流を図るとともに発表の練習を行った。前日まで少しぎこちないやりとりだった生徒たちも、この交流を通じて互いにコミュニケーションを図ろうと努力する様子が見られた。



○各チーム発表

1チーム5分以内の時間制限を設け、オンラインスライドで発表を行った。中には他チームの意見を板書してまとめるチームもあった。

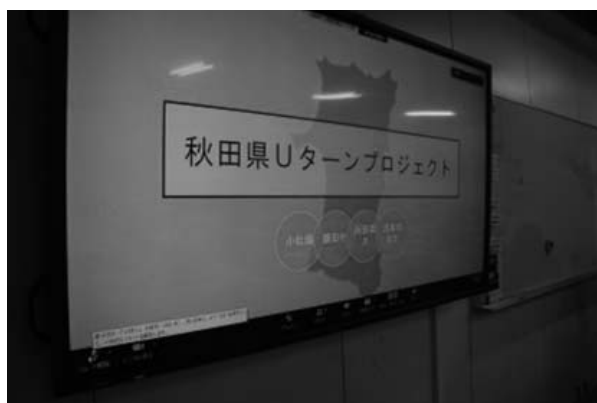


○意見交換

ここでは司会役の教員が主導で話し合わせるのではなく、質問がある場合は挙手機能を用いて発言するなど生徒同士での話し合いの時間を大切にし、極力見守る形式をとった。

○ワークショップ⑤

これまでの発表や意見交換をもとに、秋田県へ提案する意見のまとめを行った。この時間で



意見がまとまらなかったため、終了後、生徒達が自主的に声を掛け合い、後日時間を設定して意見をまとめた。

○閉会式

講師の先生方から講評を頂いた後、本校卒業生で現在シンガーソングライターとして活動している柴田暢氏に講演して頂いた。



4 事後アンケート

リーダーズキャンプ実施終了後、参加校に教員向けと生徒向けのアンケートを作成し、回答してもらった。内容は以下の通りである。

1) 教員向け

① Zoomを利用する研修についての感想等

- ・事前の予行でZoomの設定の仕方を教わっていたのでよかった。
- ・Zoomの操作方法是作業を進めながら説明があり、教員よりも生徒の方が理解が早かった。
- ・スピーカーがパソコンのものであったので、複数人での会話をすると内容が聞き取れなくなり、会話は2～3名だと厳しいと感じた。
- ・4人のグループとしたが、Zoom画面の他にパソコンで調べたりまとめたりすることも必要で、人数分+1台（Zoom操作用）のパソコンが必要だと感じた。
- ・本校は進路指導の個室で行ったが、PCルームで行った方が良かった。

② 研修内容についての感想、意見

- ・今回初めての試みであったが、これからどんどん増えていく形式だと思ったので、時期的にはとてもタイムリーな研修だった。（実施方法もテーマも）
- ・宿泊をしない分、会議後の資料作成の時間確保は難しかったので、研修テーマを事前に教

えてもらえるとある程度の下準備もでき、会話が充実できたと思う。

2) 生徒向け

③ Zoomを利用する研修についての生徒の感想

- ・初めてのZoom会議で、これからオンラインの機会が増えると思うのでとても良い経験になりました。
- ・「Good」のような反応の機能があって、反応を示しやすく確認しやすかった。
- ・機能がたくさんあることを知ったが、やはり対面で話さないと伝わらないこともあると感じた。
- ・秋田県の将来について改めて深く考えることができた。

④ 研修内容についての生徒の感想、意見

- ・秋田県から県外へ行った人をどうやってリターンさせられるか具体的な案を考え、他校の生徒と討論することができて良かった。
- ・Aターン、Iターンなどの今の秋田県の課題について、将来を担う自分たちが討論できたことは良い経験でした。
- ・後半は意見交換が活発になった。自分たちの考えていないことを同じ高校生として知ることができてよかった。

3) その他自由記述

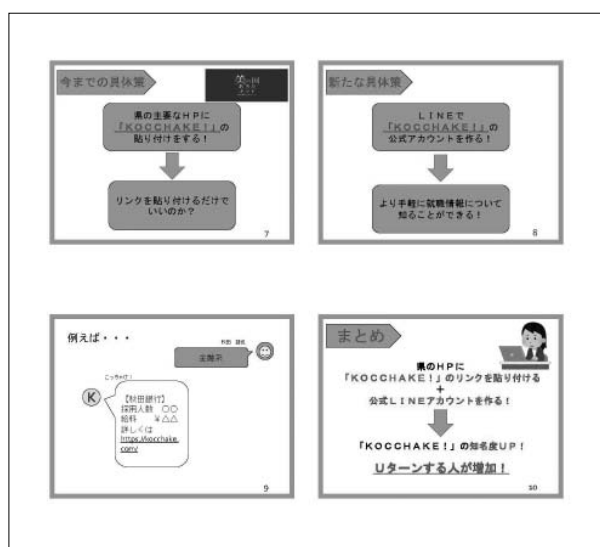
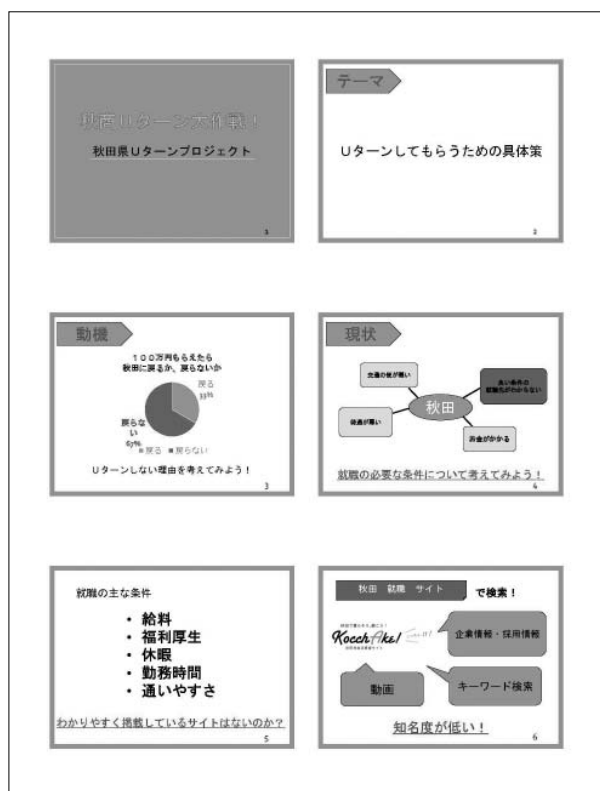
- ・「言葉」だけではなく「行動」に移せる大人になって行きたいと思いました。
- ・今回の会議の話し合いで、「次回」を設定するのことにりましたが、次回はもっと意見を出せるようにしていきたいです。
- ・他校の人と交流できて良かった。
- ・パソコン1台だけで会議と資料を作成するのは無理だと思った。
- ・資料をまとめるパソコンがそばに欲しかった。

5 秋田県への提言

令和3年3月23日（火）、参加校代表として本校の3年生3人と商業科主任が、秋田県移住・定住促進課の杉田氏にリーダーズキャンプにてまとめたプレゼンテーションの提言を行った。実際に秋田県庁へ出向いて行う予定だったが、これも新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からオンラインによる実施となった。秋田

県の担当者から「高校生が秋田県の課題に目を向け、解決策を考えてくれる活動はとても嬉しい、今後もぜひ継続した活動をお願いしたい」とお褒めの言葉を頂いた。ただ、プレゼンした内容について、すでに秋田県でAターンを推進するために作成したサイト「K O C C H A K E !」の運用にあたり、セキュリティの問題など、SNSの運用に関する新たな課題もあるとのこともあった。

秋田県へ提言したプレゼンテーションは次の通りである。



V 結果と考察

オンライン形式で実施する際のメリットとしては、移動や宿泊といった拘束時間が短縮され、参加へのハードルが下がった点が挙げられる。また、通常の教育活動を行いつつ参加できるのは本来のあり方であると考えられる。生徒が安全に参加できるので、これからの可能性が広がると感じた。オンラインによる意見交換については、生徒たちは挙手機能やスタンプ機能を駆使することで予想以上にスムーズな話し合いを行っていた。

デメリットとしては、機材や環境面の整備があげられる。各校ともにZoomへの接続は初めてだったため、接続テストを行っていても、主担当者によるミーティングID・パスコードの伝達に戸惑う場面もあった。また、オンラインでワークショップを行うにあたり、オンライン接続用PCの他に、作業用PCの必要性を感じた。1校から複数の参加者がいる場合、1つの部屋から複数のPCで参加する場合には、PCのスピーカーでは音が割れたり、ハウリングしてしまうため、ヘッドフォンとマイクの準備は必要だと感じた。

本校ではオンライン接続用のPCが数台用意されている。本事業を行うにあたってPC室の教師機数台にオンライン会議アプリケーションソフトをインストールした。今後はこれらを活用し就職進学試験対応だけでなく、職員の研修等に幅広く活用していく予定である。

VI 本県商業科のオンラインを活用した取組状況（アンケート）

令和3年度の総会にて、「コロナ禍におけるリモートを活用した取り組みに関するアンケートのお願い」と題して県内の商業教育研究会に加盟する高校にアンケートをお願いしたところ、21校から返答を頂くことができた。アンケート内容と集計結果は以下の通りである。

秋田市立商業高等学校 秋島亜里紗 宛 FAX018-823-4310

コロナ禍におけるリモートを活用した取り組みに関するアンケートのお願い

東北道内でコロナ禍におけるリモートを活用した取り組みについて発表する予定です。その際に、秋田県の取り組みとして各校の紹介をしたいと考えています。

つきましては、各校でオンライン授業やリモートを活用した取り組みをしている、または昨年度の休校時などでリモートを活用したなどのご経験がありましたら、ぜひ情報提供をお願いします。

以下のアンケートに記入の上、五月三十一日（金）までに、秋田商業高校（担当）までFAXにてご返信を頂きますようお願いいたします。

回答者 商業学校（職 ）氏名

1. オンライン授業の実施状況について

質問1 高校でのオンライン授業の実施状況について当てはまるものに○を記入してください。

☐	①オンライン授業を実施した、またはしている
☐	②本実施だが、今後実施する予定がある
☐	③本実施だが、今後実施する予定はない
☐	④その他あれば記入してください

質問2 ①オンライン授業を実施した、またはしているに答えられた方にお聞きします。

実施した期間と教科名と内容を教えてください。	
教科（科目）名	
授業内容	
生徒への配付物など	
写真や資料の有無	あり ・ なし

質問3 オンライン授業について、良かった点と悪かった点を教えてください。

良かった点	
悪かった点	
トラブル事例	

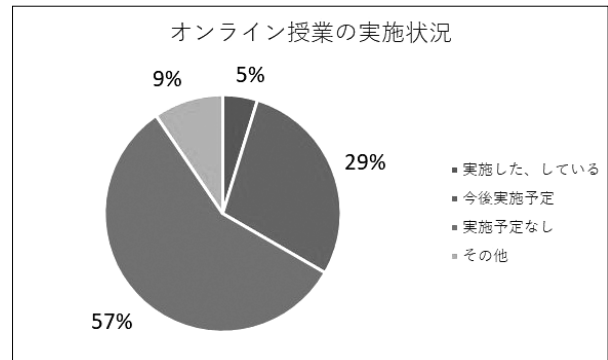
質問4 ②本実施だが、今後実施する予定がある、と答えた方にお聞きします。

実施予定科目	
実施予定教科や内容	
学校側で使用するソフト	
生徒側が使用する端末やソフト	

①-①オンライン授業の実施状況について

実施した学校が1校、今後実施予定の学校が6校、今後も実施予定なしと答えた学校が12校、その他として今後検討すると答えた学校が2校という結果となった。

令和2年度にコロナ感染拡大防止のため休校となったことがきっかけでオンライン授業を検討する学校が増えたと考えられる。



①-②オンライン授業を実施した学校の実施

教科名、内容、良かった点と悪かった点につ

いて

実施したと答えた湯沢翔北高校では、商業科目の財務諸表Iにおいて、財務諸表の作成の単元で実施したとの報告があった。場所を気にせず授業ができる点に良さを感じたものの、悪かった点として、クロームブックが使えなかったため電子掲示板での一斉授業形式となり、生徒の表情が分からず対面のリアル感が無かった点を挙げていた。

①-③今後実施予定のある学校について、実

施予定科目や教科の内容、生徒側が使用する

ソフトや端末について

オンライン授業を今後実施する予定があると答えた6校のうち、4校が今後コロナ感染拡大による休校または自宅待機となった際にオンライン授業を実施する予定があると答えた。残る2校も今後のコロナ感染状況に応じて対応できるようテストランを行っていると考えている。

実施予定の教科や内容については各校により異なるものの、全教科を想定して準備している学校が多く、使用する端末は県立高校で生徒に配布されているクロームブックを使用すると答えた学校が5校、スマホなどの生徒が所持する端末を使用すると答えた学校が1校となった。また、使用するソフトはclassroomが3校、meetが2校、スタディサプリが1校

2. 遠隔におけるリモート試験の実施について

質問1 昨年度、生徒の遠隔に関する試験がリモートで実施されたという学校に質問します。

リモート試験はありましたか（はい → 同 ・ いいえ）

主な内容を下記の表に記入してください。

質問事項	記入例	回答欄
試験の種類	資格試験（県外）	
試験の内容	個人面接、小論文書写	
試験の時間	60分	
使用ソフト	Zoom	
試験の場所	学校、生徒自宅	

質問2 リモート試験について、良かった点と悪かった点を教えてください。また、トラブルがあれば教えてください。

良かった点	
悪かった点	
トラブル事例	

3. リモートを活用した資格取得に関する取り組みについて

質問1 これまでの学校活動で、リモートを活用した資格取得講座や補習などを行ったことがありますか。（ある ・ ない）

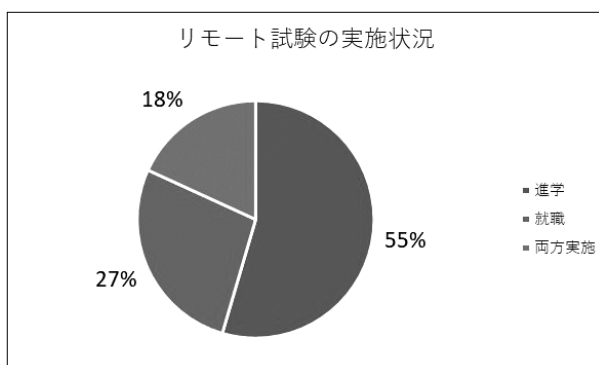
質問2 ある、と答えた方にお聞きします。以下の内容について教えてください。

内容	
良かった点	
悪かった点	
生徒の様子	
教員の感想	
写真の有無	あり ・ なし

他校の取り組みで何か情報がありましたら教えてください（〇〇高校の先生が他校の先生と、やりとりをしていた等）

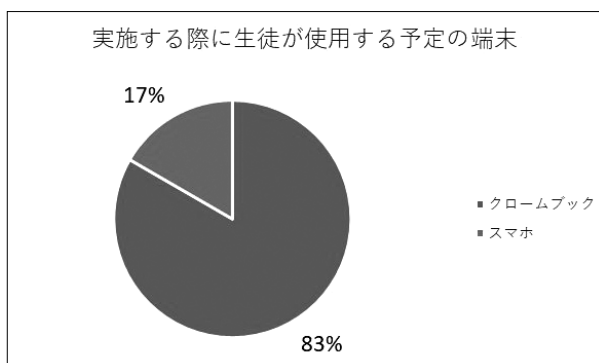
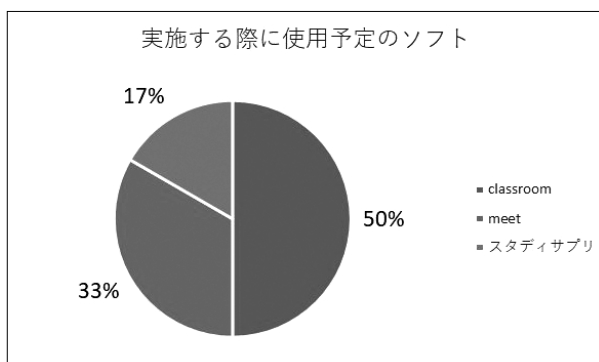
ご協力いただきありがとうございます

秋田市立商業高等学校
担当 秋島亜里紗 石崎裕香
TEL 018-823-4308
FAX 018-823-4310



となった。

市立高校である本校ではまだ生徒1人に1台端末を配布するところまでは至っていないが、県内の公立高校ではすべての学校で端末が配布されていると聞く。中には授業で常時使用している学校もあり、それらを活用したオンライン授業を予定している学校が多いことが分かる。



②—①進路におけるリモート試験の実施について

昨年度、生徒の進路に関する試験がリモートで実施された学校は11校あり、そのうち6校が進学関係、3校が就職関係、両方実施されたと答えた学校が2校あった。リモート試験を実施した企業や大学の大半が県外であり、県内ではこれまでと同様の対面での試験が多かった。これは県をまたぐ移動の自粛が呼びかけられていたことが要因と考えられる。試験はZ o o mを使用した対面形式で行われ、

個人面接、集団面接、プレゼンテーションの実施、口頭試問などの他、小論文や一般常識テストを時間内に行い、書類を郵送する形式の試験を実施した進学先もあった。

②—②リモート試験について、良かった点と

悪かった点について

良かった点

- ・移動がないため、コロナ感染のリスクが抑えられる。
- ・受験場所を自由に選択することができる。
- ・直接対面よりリラックスして受け答えができる。
- ・交通費がかからない。

悪かった点

- ・細かなニュアンスなどが伝わりにくい。
- ・試験がすぐに終了した。機材のセッティングや準備が大変だった。（管理職から「学校でやることではない」と理解を得られなかった）
- ・接続が切れるなど回線の不具合があった。
- ・教室や機材の確保、接続準備など、教師の負担が大きい。
- ・同日に複数の試験があり、試験に適した部屋を用意することが難しかった。

トラブル事例

- ・途中で通信が途切れてしまった。
- ・Z o o mの操作に戸惑った。

多くの学校がZ o o mなどのテレビ・W e b会議ツールの利用に不慣れであること、リモート試験に対応する環境設備を整えることから始める必要があったことが想像できる。今年度もリモートで試験を行う会社や進学先が複数あると予想されるため早急に環境設備を整える取り組みが必要であると言える。

③リモートを活用した資格取得に関する取り組みについて

これまでの学校活動でリモートを活用した資格取得講座や補習を行ったことがあるか質問したところ、2校から実施したことがあると回答があった。

大館国際情報学院高校では小論文講座を受講し、コロナ禍でも一流講師の講座が受けられる点に良さを感じたものの、どうしても通信速度

にタイムラグが生じるなど通信が不安定な時があり不便さも感じたという。また、平成高校では公務員講座を受講し、生徒は直接指導を受けると変わりなく落ち着いた様子で臨んでいたと回答があった。今後もリモートを活用した専門学校等の先生の講座が受けられる機会があれば参加したいとのことであった。

Ⅶ おわりに

今回はコロナ禍におけるZ o o mを活用したリーダーズキャンプの取組について紹介した。新型コロナウイルス感染症の影響によりこれまでのように対面での活動が難しい日々が続く中、今後もオンラインW e b会議システムツール等を活用する場面が多く出てくるものと考えられる。これらに関する知識や活用方法について学ぶことも、これから商業を学ぶ生徒に必要な力であり、実社会において即戦力として活躍するために必要な技術や能力の一つとして身に付けるべきものであると考える。今後も今回の経験を生かし、生徒が活躍し自ら学ぶことができる体験について研究を続けていきたい。

令和3年度 研修対象者・研究会参加者一覧

【センター研修】

◎A講座（基本研修講座）該当者全員が受講する研修

12 教職5年目研修講座（高等学校）	石崎絵里香	①6/11（自己研修） ②9/3（オンライン）
17 実践的指導力向上研修講座（高等学校8年目）	柴田佳代子 秋島亜里紗	①6/30 ②8/17
19 実践的指導力向上研修講座（養護教諭8年目）	高橋 千里	①6/24 ②9/17
22 中堅教諭等資質向上研修講座（高等学校）	佐々木絵里	①6/22 ②7/30 ③8/25（自己研修） ④10/14 ⑤1/7
33 高等学校新任学年主任研修講座	伊藤 史	①5/14（中止） ②6/24

◎B講座（専門研修講座）学校割当てに基づいて受講する研修

07 高等学校家庭科授業の充実	佐々木ひな子	9/30
11 学校組織マネジメント研修講座	小林 克	①6/29 ②11/18 ③11/19
14 高等学校道德教育推進研修講座	今 聡	6/10

◎C講座（専門研修講座）希望者が受講する研修

19B 授業におけるICT活用（Windowsタブレット編）	佐藤 大	8/17
24B 高等学校情報科におけるプログラミングB	佐藤 大	8/18

【新教育課程説明会】

総則	櫻田 洋子	8/3
国語	奥山 桃子	8/4
地歴・公民	今 聡	8/3
数学	河上 貴子	8/4
理科	高田 冬深	8/3
保健体育	高橋 伸友	8/5
芸術（音楽）	鈴木 昌之	8/5
外国語	関屋さやか	8/5
情報	小林 克	8/4
商業	柏谷亜紀子	8/4

【商業科】

第69回東北六県商業教育研究大会	秋島亜里紗 石崎絵里香	9／2～3（紙面開催）
------------------	----------------	-------------

※免許更新開始 渡辺 淳一 奥山 桃子 船木 祐輔 大久保 薫 村井 良裕 柴田佳代子

編集後記

研修部員から一言ずつ

今年、授業公開週間の呼びかけの係をしました。先生方がお忙しい中、アピール授業をして下さったり、参観して下さったりして、感謝の気持ちでいっぱいでした。授業の写真を撮るのも楽しい仕事でした。先生方、本当にありがとうございました。

奥山 桃子

コロナ禍で、様々な学校行事や教育活動が中止になる中で、生徒に充実した学校生活を送ってもらうために、私たちが研修で得た知識や技術を生徒に還元出来るように努めていきたいと思っています。

柏谷 亜紀子

1年ぶりに研究集録に携わりました。ICTの活用、タブレット導入、そしてコロナ禍など、いろいろな面で、変化を感じています。改めて、いろいろな研修を検討し、参加する機会を有効に利用し、活かしていきたいと思っています。

嶋田 平

授業公開はかなり馴染んできたように感じます。私自身、多くの先生方の授業を見させていただき、大きな影響を受けています。特に他教科の授業は刺激となり、自分の教科に活かせる新たなアプローチを提供していただきました。今後も続けていくことを願っています。

守屋 大

新型コロナウイルスのせいで、昨年度の研修集録は薄かった。そのためか、最後まで読んでくださった先生方が多かったと伺っております。今年もコロナ禍ではありますが、多くの先生方が校内外での研修に参加、活動され、例年並みのページ数になりました。研修でご苦労され、研修集録の原稿を依頼されてご苦労された先生方の研修成果が、この一冊にまとめられています。是非最後のページまでご覧いただき、お一人お一人の先生方が研修を深めてくださいますように。原稿を寄せていただいた先生方には、心より御礼申し上げます。ほんとうにありがとうございました。

戸澤 恵



令和3年度 研修集録

発行日 令和4年3月31日

発行者 秋田市立秋田商業高等学校

〒010-1603 秋田市新屋勝平台1-1

T E L 018-823-4308～9

F A X 018-823-4310

印刷所 社会福祉法人 緑光福祉会



校 訓

感謝
勤勉
鍛鍊